

石川県 金沢市

畠田・寺中遺跡VII

-木曳野遺跡群V-

畠田・寺中遺跡VII

-木曳野遺跡群V-

2
0
1
2

金
沢
市

平成24年3月
(2012年)

金 沢 市
(金沢市埋蔵文化財センター)

石川県 金沢市

畠田・寺中遺跡VII

-木曳野遺跡群 V -

平成24年3月
(2012年)

金 沢 市
(金沢市埋蔵文化財センター)

例　　言

1. 本書は、石川県金沢市寺中町・畝田西4丁目・桂町に所在する事業名称木曳野遺跡群（寺中B遺跡、桂町南遺跡、畝田・寺中遺跡）の発掘調査報告のうち、平成15年に実施した畝田・寺中遺跡の調査の一部について報告するものである。
2. 木曳野遺跡群は金沢市区画整理事業に伴い、金沢市木曳野土地区画整理組合の依頼で、金沢市埋蔵文化財センターが調査を実施した。発掘調査期間は平成14年度から平成16年度である。
3. 発掘調査に関する事務は木曳野土地区画整理組合と金沢市が委託契約を締結し、予算の執行、法規関係の事務は金沢市埋蔵文化財センターが行った。
4. 発掘調査にあたっては金沢市埋蔵文化財調査委員会（委員長 橋本澄夫氏、委員 垣田修児氏、滋井真氏、谷内尾晋司氏、敬称略・50音順）の指導の下で、出越茂和、谷口宗治、新出敬子、庄田知充、向井裕知が担当した。本書の執筆・編集は新出が、遺物の写真撮影は景山和也が行った。
5. 本書の指示は以下のとおりである。
 - ①方位は全て座標北で国土座標第Ⅷ系に準拠する。水平基準は海拔高で単位は（m）である。
 - ②遺構図、遺物図の縮尺は原則としてスケールを付した。
 - ③図化については株式会社太陽測地社、株式会社セビアスの協力を得た。
 - ④遺物実測図の凡例は下記のとおりである。
 - 遺構略記号は、SA：樹列 SD：溝 SE：井戸 SK：土坑 P：ピット ST：堅穴状遺構 SX：その他遺構
 - 図版内の遺物番号は観察表および巻末の写真図版のそれと一致する。
 - 土器実測図の断面が黒色のものは須恵器を示し、その他のものは白抜きで示した。また、実測図内外面の目の粗い網掛けは黒色処理を、細かいものは赤彩処理を示している。
 - 遺物観察表については以下のとおり。
 - ・計測値の単位は（mm）（g）を最小単位としている。
 - ・「番号」欄は遺物の個別番号を現し、図版内に示した遺物番号と一致する。
 - ・「器種」欄には土器の材質および種類を判明する範囲で記載している。
 - ・「遺存度」欄には復元する際に利用した部位とその遺存率を記してある。
 - ・「実測番号」欄は遺物図の実測者の通し番号で、保管する遺物・実測図のそれと一致する。
6. 発掘調査で出土した遺物、作成した図面、写真台帳等はすべて金沢市埋蔵文化財センターで一括保存している。

畠田・寺中遺跡Ⅶ 目次

第1章 調査に至る経緯と経過.....	1
第1節 調査に至る経緯	
第2節 調査の経過	
第2章 調査の概要.....	3
第1節 調査区の概要	
第2節 遺構と遺物	
1) 土坑	
2) 井戸	
3) 溝	
4) ピット	
5) その他の遺構、包含層	
第3章 総括.....	54
第1節 3区についてまとめ	
第2節 墨書き器について	
遺物観察表.....	56
写真図版	
報告書抄録	

第1章 報告の経緯

第1節 はじめに

本報告書は木曳野土地区画整理事業に伴う発掘調査の成果を報告するものである。調査は平成14年～平成16年までの3カ年を要し、調査面積は約2万3千m²に及ぶ。調査対象となった遺跡は寺中B遺跡・畠田・寺中遺跡・桂・寺中遺跡・桂町南遺跡の4遺跡である。これらを総称し木曳野遺跡群としている。

これまでに4冊の報告書を刊行しており、今回は第5分冊目となる。これまでに刊行した報告書については下記のとおりである。本書では2006年3月に刊行された金沢市文化財紀要231『寺中B遺跡VI 桂町南遺跡I 畠田・寺中遺跡III 木曳野遺跡群I』を第1分冊とし、以下金沢市文化財紀要239を第2分冊、金沢市文化財紀要249を第3分冊、金沢市文化財紀要259を第4分冊と呼ぶ。

なお、遺跡確認調査および詳細な調査に至る経緯と経過については第1分冊を参照していただきたい。また、遺構については第1分冊で報告済であり今回も報告済の遺構番号を使用するが、追加や変更のあるものについてはその都度、文中で表記する。

第1表 木曳野遺跡群における発掘調査と報告書刊行の経緯

年次	遺跡名	発掘期間	原因	面積	担当者	報告書	備考
平成14年度 (2002年)	寺中B遺跡 桂・寺中遺跡	2002. 6. 3 ～ 2003. 3. 31	区画整理	約6,600m ²	谷口(宗)	H18. 3刊行	報告完了
						H19. 3刊行	
平成15年度 (2003年)	畠田・寺中遺跡 桂町南遺跡	2003. 6. 2 ～ 2003. 11. 28	区画整理	約8,900m ²	出越 谷口(宗) 新出 向井	H18. 3刊行	桂町南のみ報告完了
						H20. 3刊行	
						H22. 3刊行	
						本書	
平成16年度 (2004年)	畠田・寺中遺跡 桂町南遺跡	2004. 5. 2 ～ 2004. 10. 29	区画整理	約7,500m ²	谷口(宗) 新出 庄田	H18. 3刊行	桂町南のみ報告完了
						H20. 3刊行	

(刊行済の報告書)

「寺中B遺跡VI 桂町南遺跡I 畠田・寺中遺跡III 木曳野遺跡群I」

金沢市文化財紀要231 金沢市 2006年

「寺中B遺跡Ⅶ 畠田・寺中遺跡IV 木曳野遺跡群II」

金沢市文化財紀要239 金沢市 2007年

「桂町南遺跡II 畠田・寺中遺跡V 木曳野遺跡群III」

金沢市文化財紀要249 金沢市 2008年

「畠田・寺中遺跡VI 木曳野遺跡群IV」

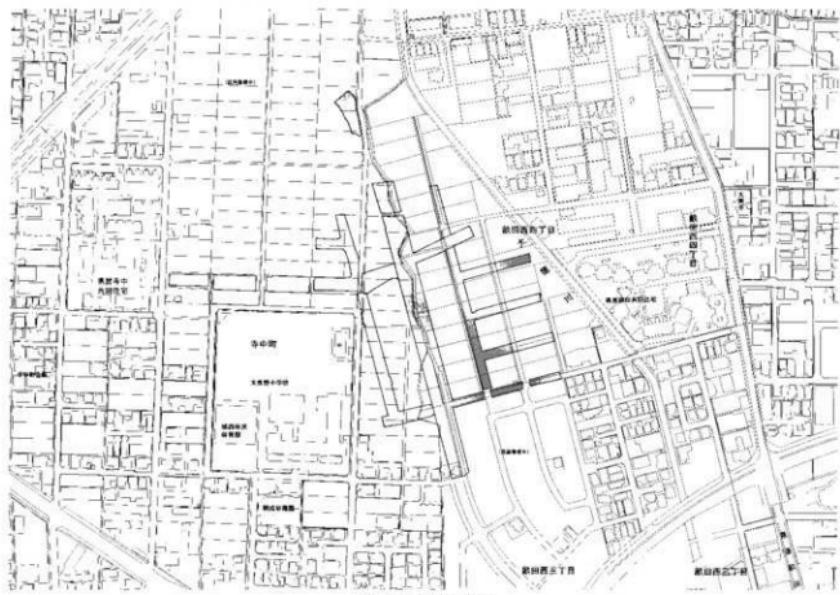
金沢市文化財紀要259 金沢市 2010年

第2節 報告範囲について

今回は主に平成15年度に調査を行った、畠田・寺中遺跡の2区の一部および3区を報告する。(第2図)

2区および3区とは、木曳野土地区画整理地内の南北に走る都市計画道路を南から北にかけて主幹線1～4区と便宜上区分した調査区の一部分のことである。第1分冊で報告した航空測量図面では2区は国版No46・47・52・53・57・58・64で3区は国版No24・35・40・46に該当する。

掲載内容としては第4分冊で報告しきれなかった墨書き土器(2区と3区の一部、1区および4区出土の墨書き土器も含む)と、3区の調査成果が主となる。



第1図 調査範囲図



第2図 事業位置図

第2章 遺構と遺物

第1節 建物関連遺構

3区では掘立柱建物の柱穴と考えられる遺構が3棟みつかっているが、いずれも調査区の端にあるため建物となるか判明しなかった。そのためSB（掘立柱建物）とせずSA（構列）として報告する。

ST201（遺構図第1分冊P110図版No.35、第3図）

3区中央西端で検出した。規模が小さいため堅穴建物ではない可能性があるため堅穴状遺構とした。平面形は方形で、規模は2m×2mである。方向は東辺で見ると北に対して約15度西に傾く。遺構面からの深さは11cmと浅い。

出土遺物は陶化できなかったが、古墳時代初頭と考えられる壺・甕類の細片が多数出土している。

SA510（遺構図第1分冊P110図版No.35、第3図）

3区中央西端で検出した。規模は南北2間ある。柱間距離は南北が約2.3mである。方向は北に対して約14度西に傾いている。柱穴は遺構番号が付けられていないため北からPA、PB、P215aとする。PAは長径約114cm、短径約89cm、深さ約50cmで平面形は不定形を呈する。礎板が出土した。PBは長径約92cm、短径約68cm、深さ約32cmで平面形は不定形を呈する。P215aは長径約80cm、短径約68cm、深さ約43cmで平面形は不定形を呈する。出土遺物は土師器細片が4点出土した。

SA511（遺構図第1分冊P110図版No.35、第3図）

3区中央西端で検出した。規模は南北1間、東西2間ある。柱間距離は南北が約2.9mで東西が約1.9mである。方向は北に対して約45度東に傾いている。柱穴は遺構番号がないため、北からPA、PC、PDとし、西端で検出した東西方向の柱穴はPEとする。PAはSA510と共有する。PCは長径約61cm、短径約45cm、深さ約32cmで平面形は不定形を呈する。礎板が出土している。PDは長径が約49cm、短径が約38cm、深さが約47cmで平面形は楕円形を呈する。PEは調査区外に柱穴がかかるので平面形は不明である。検出した範囲では長径約41cm、短径約35cm、深さ約37cmである。出土遺物はない。

SA512（遺構図第1分冊P110図版No.35、第3図）

3区中央西端で検出した。規模は南北2間ある。柱間距離は南北が約2mで方向は北に対して約37度西に傾く。柱穴は北からSK223、P212a、P211とする。SK223は長径が約72cm、短径が約70cm、深さが約67cmで平面形は不定形である。出土遺物はない。P212aは長径が約70cm、短径が約69cm、深さが約65cmで平面形はほぼ正円形である。出土遺物は土師器の甕の胴部と思われる細片が1点と、判別不可能な土師器片が3点出土している。P211は長径が約75cm、短径が約70cm、深さが約57cmで平面形は楕円形である。出土遺物はない。

第2節 井戸

SE201（遺構図第1分冊P120図版No.40、第4図、遺物実測図第7・38図）

3区の中央西よりで検出した。平面形は楕円形を呈する。規模は長径264cm、短径226cm、深さ103cmである。当初SK202として掘削を進めていたが、SE201と変更した。断面図は作図用壁面が冠水により崩落

したため作成できなかった。井戸枠は検出していない。出土遺物は、5のロクロ製土師器壺と6の非ロクロ製土師器壺、7・8の須恵器壺である。この他、長頸瓶の頸部や土師器細片、464と465の端部をとがらせた加工をしてある棒状木製品が出土している。7は古墳時代の有蓋壺、8は平安時代頃の須恵器か。

SE202（遺構図第1分冊P110図版No35、第4図、遺物実測図第7図）

3区の中央で検出した。平面形は楕円形を呈する。規模は長径292cm、短径246cm、深さ116cmである。井戸枠は検出していない。出土遺物は、9の珠洲焼壺で13世紀前半頃のものか。10は輪の羽口である。この他、弥生時代末頃と思われる器台片などの土師器片が出土している。

SE203（遺構図第1分冊P110図版No35、第4図、遺物実測図第7・8・32・33図）

3区北側中央で検出した。中世の溝であるSD222で壊されており、井戸の底のみ残存していたため断面図は作成できなかった。残存していた部分の形状と計測値は、平面形が不定形で、規模は長径214cm、短径204cm、深さは90cmであった。井戸底部に井戸の下部構造が残存していたので、構造が明らかになった。まず、穴を掘削した後、井戸底の中心部を囲うように北側に434、430の棒状木製品を東西方向に置き、南側に431の棒状木製品を東西方向に置く。434・430の上に東西方向に426の板状木製品、431の上に東西方向に427の板状木製品を置く。426の上に429の桶底板を東西方向に置き、429と427の上に424の板状木製品を南北方向に置く。426と427の上には425の板状木製品を南北方向に置く。425の東側には425を支える435・436が北から順に地山に突き刺した状態で検出された。422の桶の底板423がこれらの板材の隙間を埋めるようにばらばらに置かれ、424の上に433、425の上に432の棒状木製品を南北方向に置く。それを422の桶を構成する6枚の板が西側に4枚、東側に2枚支えるように地山に突き刺した状態で置かれていた。この囲いの上に428の桶が据えられ、井戸枠となっていたと考えられる。428の桶は胴部の底近い部分のみ残存しており、上の部分は中世の溝造成時に壊されたと考えられる。井戸底から井戸が廃棄されるときの祭祀に使用されたのか、完形の壺が2個逆さまの状態で出土した。西側が12、東側が11である。どちらの壺も外面がきれいに磨かれており、11は細頸の有段口縁で、胴部は算盤玉状の形態である。12は有段口縁の壺で胴部最大径がほぼ同部中心に位置し外面には赤彩が施されている。この井戸はこれらの土器が使用された弥生時代末頃に廃絶されたと考えられる。その他の出土遺物は、13~22の壺や壺であるが、これらの時期も弥生時代末頃と考えられる。16~22は有段口縁の壺で口縁部外面に擬凹線が施されている。胴部外面はハケ調整、内面ハケ、ケズリ調整がみられる。井戸枠や井戸枠を支えるために使用されていた、428や422の桶も弥生時代のものになろうか。

SE204（遺構図第1分冊P110図版No35、第4図、遺物実測図第9・34図）

3区中央で検出した。平面形は不定形である。規模は長径139cm、短径97cm、深さ70cmを測る。この井戸も作図用壁面が崩落し、断面図を作成できなかった。井戸枠は検出していない。出土遺物は23の白磁碗で12世後半頃のものか。また同時期の土師器皿24、25の底部、26の輪の羽口の他、9世紀頃の須恵器無台片、須恵器壺片、土師器細片などが出土している。この他、439の木柱根が出土した。

SE205（遺構図第1分冊P110図版No35、第4図、遺物実測図第9図）

第1分冊では、SE025と表記してあるが、SE205の間違いである。ここで訂正する。3区北側中央で検出した。SE203に隣接する。平面形は楕円形を呈する。規模は長径270cm、短径226cm、深さ130cm

を測る。井戸枠は検出していない。出土遺物は、30の古墳時代前期の甕と31の土師器の器台である。脚部に透かし穴が3箇所残る。この他、同時期と考えられる土師器片が多数出土している。

SE206（遺構図第1分冊P120図版No40・P130図版No46、第4図、遺物実測図第9・10・34～37図）

3区南西で検出した。掘削中に壁面が崩落し、辛うじて残った上部分の断面図しか作図していない。平面形は不定形である。規模は長径270cm、短径208cm、深さ約95cmを測る。井戸枠は2段組であった。448～455が上の段を構成する木材で、板同士を桜の皮でつないでいた痕跡が残っている。456～463は井戸枠の下段を構成する木材である。井戸の底には石が敷き詰められており、その上にヤマトシジミの殻が塊状になって出土している。第1分冊に掲載したパリノ・サーヴェイ（株）による自然科学分析¹によると井戸枠にはスギを用いており、木材の年代は3世紀中葉～5世紀前葉頃である。出土遺物は、32の土師器壺で受け口状口縁の外面に波状文が巡る。さらに胴部外面上部に格子状文が施され、二重直線文が3条巡る。33も土師器壺で外面をミガキ口縁が外反する。（34は33と結合したため欠番）35も土師器壺で有段をもつ口縁で胴部上部に最大径がある形である。36・37は土師器壺である。38はひさご型の壺で、口縁部が内湾する。頸部に突帯が巡る完形品である。39～46は土師器甕である。39・40は有段口縁で口縁部外面に擬四線が巡る。41は受け口状口縁である。42・43はくの字状の口縁部で端部を面取りしてある。47は土師器高坏で、坏部内面もミガキではなくハケ調整してある。48は土師器高坏で外面及び坏部内面に赤彩が施してある。古墳時代初頭のものか。49は骨角器のヤスである。鹿の角製か。本来腐食しやすい骨角器が出土したのは、SE206の下層部に貝殻が堆積していたため、豊富なカルシウムにより骨角器が保存されたためであろう。2000年、北浦弘人氏が『青谷上寺地遺跡3（本文編）』で漁撈具ヤスの分類を行っている²。この分類によると、49の形態はII Aa類となる。アグ（かえり）のあるII類で、さらに身の先端部から基部までが直線的な形態をとる（直状ヤス）A類となっている。柄との装着法、身の下半部の面取りがない（a類）である。アグは片側だけに付き、基部には突起が作り出されている。その他、図化できないような土師器の甕・壺・高坏片や器種分類できない土師器細片が大量に出土している。木製品は上記の井戸枠と440～447の木製品が出土している。

SE208（遺構図第1分冊P120図版No40・P130図版No46、第5図、遺物実測図第11・12・38・44図）

3区南西で検出した。平面形は不定形で規模は長径272cm、短径178cm、深さ104cmを測る。出土遺物は50の土師器台付壺がある。胴部に斜格子文が巡る。古墳時代前期のものか。51・52の土師器壺、53から59の土師器甕、60の土師器鉢、61・62の土師器の器台、63の土師器高坏、466～470・472の板状木製品、471・473～475の棒状木製品、581の変質安山岩からなる敲き石などの他、土師器細片が大量に出土した。出土土器から遺構の廃棄年代は古墳時代前期頃であろうか。61の器台は内外面に赤彩を施し磨いたもので供獻用に使用したものか。木製品は466～475である。井戸枠は検出していないが、469が井戸枠であったのかもしれない。471は一部炭化しており孔が開けられている。石製品は581の変質安山岩からなる敲き石が1点出土している。

1 パリノ・サーヴェイ（株） 2006年 「木曳野遺跡群の自然科学分析」「寺中B道跡VI 桂町南道跡I 竝田・寺中道跡III 木曳野道跡群」

2 北浦弘人 2001年 「青谷上寺地遺跡3（本文編）」

3 石製品については、パリノ・サーヴェイ（株）による肉眼鑑定により岩種を判定した。

第3節 土坑

SK204（遺構図第1分冊 P120図版No.40、第5図、遺物実測図第38図）

3区中央西より、SD201の川の斜面にあたる低い場所で検出した。平面形は不定形で規模は長径120cm、短径96cm、深さは31cmを測る。出土遺物は476の舟形と思われる木製品が出土している他、土師器細片が少量出土している。

SK205（遺構図第1分冊 P120図版No.40、第5図）

3区中央西より、SD201の川の斜面にあたる低い場所で検出した。SK204の北に隣接する。平面形は楕円形を呈し規模は長径202cm、短径140cm、深さ30cmを測る。出土遺物はない。

SK206（遺構図第1分冊 P120図版No.40、第5図）

3区中央南より、SD201の川の斜面にあたる低い場所で検出した。平面形は不定形で規模は長径156cm、短径122cm、深さ28cmを測る。出土遺物はない。

SK208（遺構図第1分冊 P110図版No.35、第5図、遺物実測図第12・44図）

3区中央でSD201の川の斜面にあたる低い場所で検出した。平面形は不定形で規模は長径222cm、短径154cm、深さ42cmを測る。出土遺物は64～66の須恵器壺、67～70の土師器椀、71の内面黒色土器椀、72の白磁碗、73の土錘、582の流紋岩からなる砥石などの他、弥生時代末～古墳時代初頭にかけての壺の口縁部細片、土師器細片や、須恵器の壺や甕などが出土している。67～69は口径15cmを測る大振りの土師器椀で時期は概ね12世紀代のものである。この他、ヒトの脛骨1点、ウシの脛骨が1点出土している。第1分冊のパリノ・サーヴェイ（株）による自然科学分析によると、ヒトの脛骨は成人男性のもので、ウシは在来ウシの中型に属する個体であるとのことである。

SK211（遺構図第1分冊 P110図版No.35、第5図、遺物実測図第12・44図）

3区の中央で川の斜面にあたる低い場所で検出された。SK208に北側に隣接する。平面形は不定形を呈する。規模は長径545cm、短径108cm、深さ30cmを測る。出土遺物は74～76の土師器皿、77の台付椀、78の壺、79の須恵器双耳瓶、80の無孔土玉、81の須恵器製の権状錘、583の砂岩からなる砥石の他、弥生時代末～古墳時代初頭にかけての壺の口縁部細片や土師器細片が大量に出土した他、古墳時代初頭の須恵器蓋細片、須恵器の壺や甕などの細片、ヤマトシジミの貝殻などが出土している。81の須恵器製権状錘は秤のつもりを模したものである。小松市の額見町遺跡で類例がみられる。2003年、望月精司氏が「古代権状錘に関する一考察」で北陸出土の権衡資料の検討を行っている。⁴ 望月氏の分類によると、81の紐通しの形態は縦穴が貫通するⅡ類で錘形状は球形基調の花弁状笠部で笠部下に突出部をもたず縦方向の棱をもつ笠が球形に底部へ向かい窄まるAd類となる。81に類似する額見町遺跡出土の権状錘は望月氏の古代権状錘の形態変遷図では11世紀後半とされている。SK208、SK211はともに川岸から川にかけての傾斜地にあり、深さも45cm程度であることや、出土遺物も時期幅があり、細片が多いことから、ゴミ捨て場もしくは川に捨てられたゴミが自然に溜まった場所である可能性が高い。

SK223（遺構図第1分冊 P110図版No.35、第5図）

3区の中央西端で検出した。調査区外に土坑がかかるため平面形は不明である。規模は検出できた

4 望月精司 2003年 「古代権状錘に関する一考察」 『北陸古代土器研究第10号』

範囲で、長径140cm、短径132cm、深さ63cmを測る。出土遺物はない。

SK225（遺構図第1分冊 P120図版No40、第5図）

3区南西側で検出した。平面形は梢円形を呈し、規模は長径90cm、短径70cmを測る。出土遺物はない。

SK226（遺構図第1分冊 P130図版No46、第5図、遺物実測図第13・44図）

3区南西端で検出した。平面形は調査区外に土坑がかかるため不明である。規模は検出した範囲で、長径192cm、短径118cm、深さ20cmを測る。出土遺物は82・84の布留式壺、83・85～87の土師器くの字状の壺と88～91の土師器高杯、92の土師器の器台、93の須恵器長頸壺、94の鉢などがある。90は杯部中程を胴部に沿って打ち欠いたように見受けられる。杯部内面は汚れが著しい。杯意外に転用したものか。石製品は584の変質流紋岩（緑色凝灰岩）の加工品、585の軽石が出土している。585は全面に使用痕がみられるので、砥石として使用した可能性もある。その他、図化できない土師器片が多数とヤマトシジミの殻が1点出土している。古墳時代前中期～中期頃の土坑か。

第4節 柱穴

第1分冊の遺構図では3区にP205～P221まで重複して報告してあるため、第1分冊図版No35掲載分の柱穴番号末尾にaを付け、第1分冊図版No40掲載分の柱穴番号末尾にはbをつけて区別する。

P202（遺構図第1分冊 P110図版No35、第4図、遺物実測図第7図）

3区北側中央で検出した。SE205の西側に隣接する。平面形は梢円形で規模は長径64cm、短径52cm、深さ42cmを測る。出土遺物は1の小型土器の鉢または壺である。完形で出土した。口縁部はくの字状に開き、外面はハケ調整した後ナデ調整をしてあり内面ケズリ調整した後ナデ調整してある。胎土は砂礫を多く含む。その他、古墳時代初頭と考えられる壺や高杯の細片が出土している。

P205b（遺構図第1分冊 P120図版No40、第4図）

3区中央西よりで検出した。平面形は不定形で規模は長径94cm、短径66cm、深さ44cmを測る。出土遺物は土師器細片が少量出土している。

P206b（遺構図第1分冊 P120図版No40、第4図）

3区中央西よりで検出した。平面形は梢円形で規模は長径86cm、短径64cm、深さ22cmを測る。出土遺物は土師器細片が少量出土している。

P207b（遺構図第1分冊 P120図版No40、第4図）

3区中央西よりで検出した。平面形は不定形で規模は長径66cm、短径58cm、深さ38cmを測る。出土遺物は土師器細片が少量と須恵器の細片が1点出土している。

P208b（遺構図第1分冊 P120図版No40、第4図）

3区中央西よりで検出した。平面形は不定形で規模は長径56cm、短径46cm、深さ26cmを測る。出土遺物は土師器の細片が1点出土している。

P209b（遺構図第1分冊 P120図版No40、第4図）

3区中央南寄りで検出した。平面形は楕円形で規模は長径78cm、短径66cm、深さ32cmを測る。出土遺物は土師器の細片が多数出土している。

P211b（遺構図第1分冊P120図版No40、第4図）

3区中央西端で検出した。平面形は調査区外に柱穴がかかるので不明である。規模は検出した範囲で長径86cm、短径68cmを測る。出土遺物は2の有段口縁の土師器壺の他、土師器細片が2点出土するのみである。2は有段口縁で外面はスヌが大量に付着している。調整は外面が口縁部がナデ、胴部がハケ調整しており、内面は口縁部がナデ、胴部をケズリ調整してある。

P214b（遺構図第1分冊P120図版No40、第4図）

3区中央西よりで検出した。平面形は楕円形で規模は長径19cm、短径16cmを測る。出土遺物は3の脚部の他、土師器細片が少量と須恵器細片が1片出土した。

P224（遺構図第1分冊P130図版No46、第4図）

3区南西隅で検出した。平面形は楕円形で規模は長径70cm、短径48cm、深さは約10cmを測る。出土遺物は4の高環の脚部の他、脚部が3点と古墳時代初頭頃の壺の口縁部細片などが出でている。

第5節 その他の遺構

SX211（遺構図第1分冊P110図版No35、第5図、遺物実測図第7図）

3区北側西端で検出した。平面形は調査区外に遺構がかかるが不定形である。規模は検出した範囲で長径330cm、短径300cm、深さ数cmである。出土遺物は弥生時代末～古墳時代初頭にかけての土器細片が出土している。

第6節 溝

2区のSD303、SD240、SD244と3区SD201、4区大河跡は同じ川である可能性が高いが、本報告書では遺構番号の統一は行わなかった。ご容赦願いたい。この川跡は平成14年度に石川県が金沢市調査区に隣接する場所を発掘しているが、石川県が調査したO1～W区で検出した旧河道の続きと考えられ、金沢市の調査区においても2区～5区と南から北へと蛇行しながら流れしていく。出土遺物は弥生時代末～古墳時代、古代の土器が出土している。

SD222（2区）（遺構図第1分冊P144図版No53・P154図版No58・P170図版No67、遺物実測図第26図）

2区の南～北方向に走る溝で、3区のSD222とは別の溝である。規模は幅370cm、深さ約70cmを測る。第4分冊で説明してあるとおり、中世の区画溝である。石川県の調査区から金沢市調査区1区へ続き、2区へと北上し、2区で東へ曲がる。金沢市の平成16年度調査区である、東工区で再び検出されている。出土遺物に関しては、第4分冊で報告できなかった墨書き器のみ本報告書で紹介する。343は須恵器有台壺で外面底部に袋文字の「人」が書かれている。345は須恵器蓋で、内面に袋文字の「人」が書かれている。

SD240・SD244（遺構図第1分冊P131図版No46・P132図版No47・P143図版No52・P143図版No53、遺物実測図第26～31図）

2区のSD240とSD244は同一の川跡でSD303と3区SD201の中間に位置する。調査時は西工区側から延びる部分をSD240とし、2区中程から北に向かって延びるSD244と区別していたが、平成16年の調査で西工区にSD240の続きが検出されなかったことから石川県調査区から続く旧河道の分流であると判断した。出土遺物は、概ね8世紀中頃～9世紀前半の須恵器の墨書き土器である。344が盤、346・347が蓋、349～363が無台坏、364～368が有台坏で袋文字の「人」が墨書きされている。373が無台坏、374が有台坏で「工」、376が無台坏、378～380無台坏、381が有台坏で「卅」、383が無台坏、384・385が有台坏で「津」、387が蓋、388～391・393が無台坏、392が器種不明で「平」、394・395が蓋で「五戸」、396が無台坏の「遊名安カ」、397は無台坏で「大刀自」、398は無台坏で「□刀女」、401は無台坏で「古人」、405が有台坏で「人」、408は無台坏で「女」、409は無台坏で「公」、411は有台坏で「□」、412・418・419は無台坏で判読不明の文字が書いてある。420は蓋で内面に墨痕がある。

SD303（遺構図第1分冊P154・155図版No58・P166・P167図版No64・P170図版No67、遺物実測図第28図）

2区で調査時は西工区から延びる別の川跡かと思い遺構番号を変えたが、平成16年の西工区の調査で岸がみつかったことから、石川県調査区から延びている川跡が西に大きく膨らんでいるだけであったと判明した。規模は第4分冊で記述してあるように、幅約200cm、深さ140cmの規模で、下層が古墳時代の土器が出土し、中層から墨書き土器が大量に出土している。舟着き場または舟溜まりの様な場所であったのかもしれない。今回は第4分冊で報告しなかった墨書き土器のみ報告する。大半は第4分冊で報告済である。348が須恵器無台坏で底部に袋文字「人」、370が須恵器無台坏、371が須恵器有台坏で「井」、375の須恵器無台坏で底部に「文」が墨書きされている。377が須恵器盤で「文」、399は須恵器無台坏で「主□ 秋女」と書かれている。「秋女」は石川県の畝田西遺跡群でも確認されている。400は須恵器無台坏で「古人」と書かれている。

SD201（遺構図第1分冊P90・91図版No24・P110・111図版No35・P121図版No40、第6図、遺物実測図第14～20・28・30・31・38～40・44・45図）

3区の南～北方向に走る溝で、2区のSD303・SD240の続きである。3区では西側の岸が検出されている。出土遺物は下層部から弥生時代末～古代にかけての遺物や古墳時代中期の須恵器などが出土し、上層部から平安時代の須恵器や土師器、中世の青磁など時期幅がみられる。中世の遺物に関しては極少量なので、3区SD222など中世の遺構が造営された時の混入品の可能性もある。95～101の口縁部に擬凹線をもつ土師器の甕、102～108はくの字状の口縁部の土師器甕、109～115は土師器の壺、116・118は土師器の脚部、117・120は鉢などの台か。119・121・122～124は土師器の器台、125～135は土師器の高坏である。136・137は土師器の鉢、138～140は土師器の蓋である。141～145は手捏ね土器である。146～151は須恵器蓋である。152～163は須恵器有蓋坏、164～181は須恵器無台坏であるが、168は内面及び外面一部に黒色の漆状の付着物がつく。176は口縁部に灯芯油痕がみられる。182～190は須恵器有台坏で182は底部のみを残すように胴部を16箇所程度打ち欠いている。191・192は須恵器のツマミのある蓋である。193～195は須恵器高坏である。脚部に透かし穴がみられる。墨書き土器は合計10点出土している。須恵器有台坏406「大」が1点、413と414の判読不明文字が2点出土している。須恵器無台坏の407「中」、382「卅」、410「東」、404「得」、402「荒田」が各1点ずつ、417判読不明が1点ずつ、須恵器蓋のツマミ横に判読不明文字を配した421の墨書き土器が1点出土している。196～202は須恵器壺類、203は須恵器甕である。204は須恵器鉢である。205～207が土師器の甕で、208・209は壺であろうか。210・211は土師器の高坏であろうか。212は土師器の鉢で、内外面赤彩を施して

ある。213～216は土師器鉢である。217～221は内面黒色土器の椀および鉢である。223は土師器の把手、222・224～226は瓶であろうか。227は青磁の碗である。内面に型押し文様がみられ、高台には胎土目押し当ていたような跡が残る。龍泉窯系青磁碗I類か。228は輪の羽口である。229～240は土鍤で240のみ棗玉形をしている。241は穿孔をもつ土製品の一部である。木製品は、SD201の底近くから出土している。477・478の舟形と思われる。479は卒塔婆で梵字のような文字が一字墨書きされている。480は両端部を尖らせてある板状の木製品、481の穿孔のある、端部をV字状にカットした製品、482・483の箸、484～486の桶類の蓋または底板、487～497の用途不明の木製品の他、498～503の杭類などがある。石製品は586～599である。586ははんれい岩の石鍤、587は玄武岩の磨石、588は玄武岩、589はひん岩、590は輝石安山岩、591は砂岩の砥石である。592・594は凝灰岩の敲石、593は凝灰岩のすり石で595は蛇紋岩の石核である。2区のSD244出土の石核と接合した。596はデイサイト質凝灰岩の打製石斧、597は砂岩の磨製石斧で敲石に転用したような形跡が認められる。598は凝灰岩の石鍤、599は滑石の紡錘車と考えられる。この他、ウシの左側橈骨が1点出土している。

SD202（遺構図第1分冊 P111図版No35、第6図、遺物実測図第40図）

3区の中央付近を東～西方向に走る溝で、SD222（SD201分流）とSD201（SD240）を切ることから、中世以降の溝と考えられる。規模は幅160cm、深さ30cm程度で、出土遺物は504の板状木製品である。

SD205（遺構図第1分冊 P120図版No40、第6図）

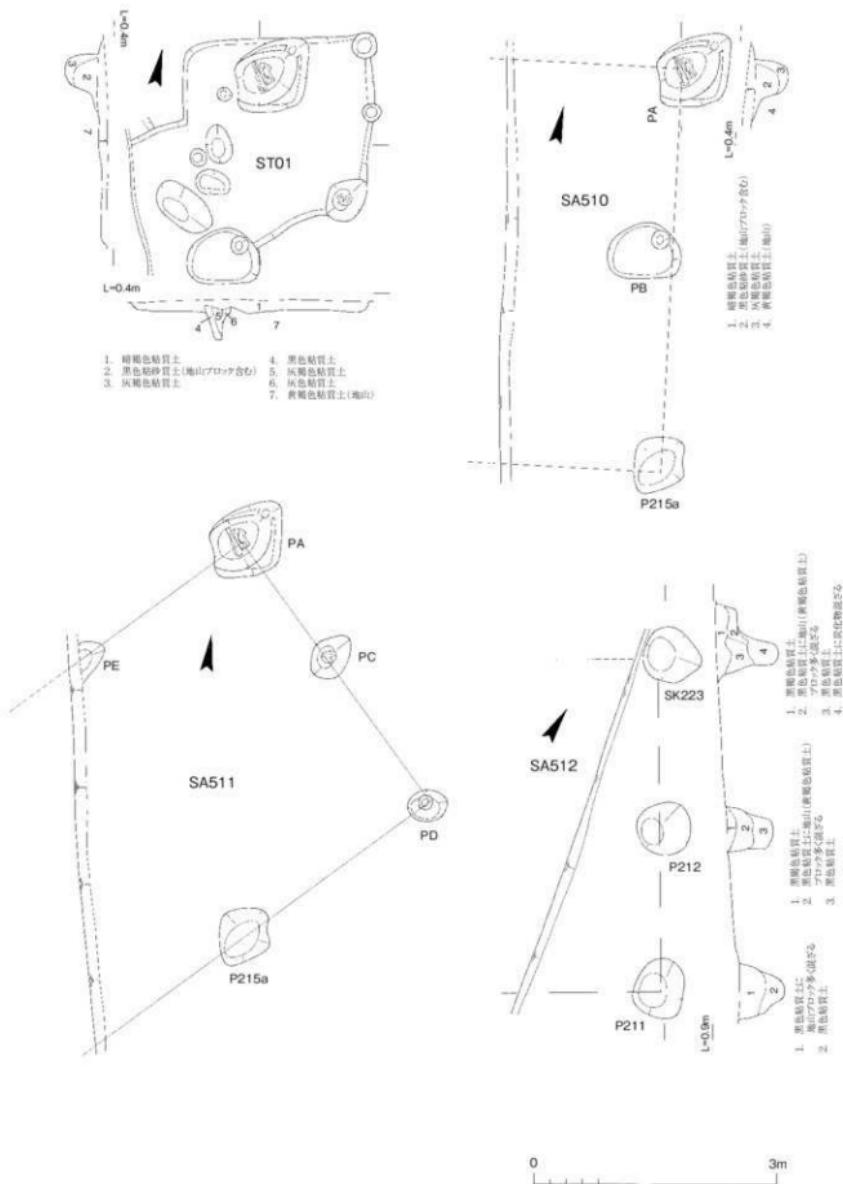
3区の南西を南～北方向に走る溝である。規模は幅100cm、深さ14cm程度で、出土遺物はない。

SD206（遺構図第1分冊 P120図版No40、第6図）

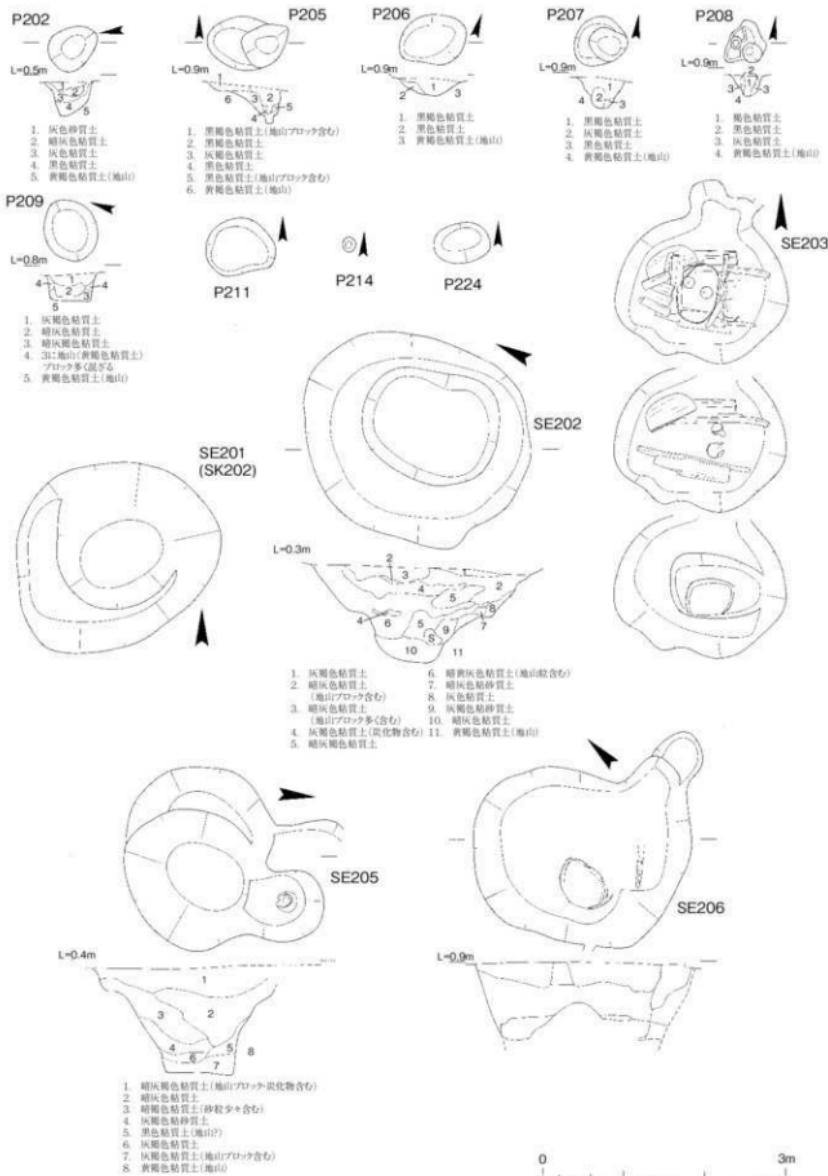
3区の南西を東～西方向に走る溝である。規模は幅40cm、深さ18cm程度で、出土遺物はない。

SD222（3区）（遺構図第1分冊 P90図版No24・P110・111図版No35、第6図、遺物実測図第21～25・40～43・45図）

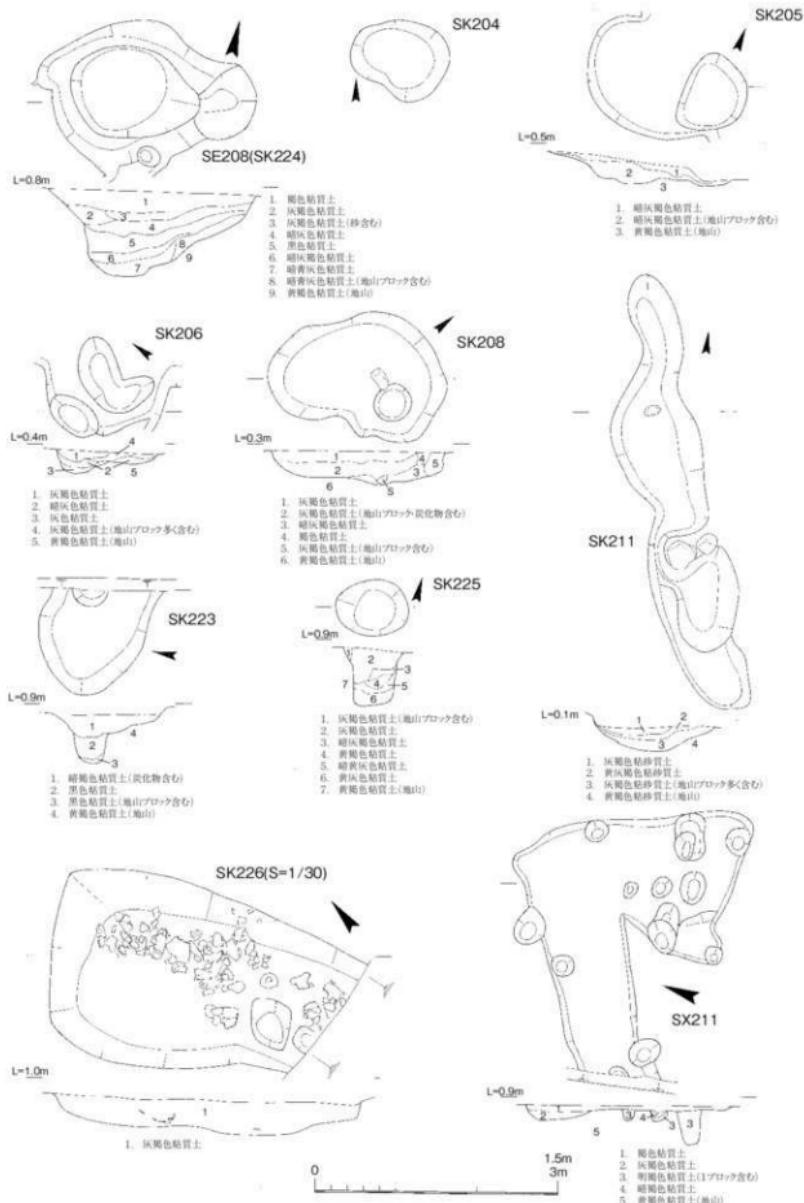
3区でもSD222とした溝があるが、2区のSD222と関連ではなく遺構名が重複しただけである。規模は幅320cm、深さ20cm程度で出土遺物は242～246の土師器甕がある。242・243は有段口縁で外間に擬凹線が巡る。246は口縁部が短い口縁帯となっている。247・248は土師器壺で247は有段口縁で外間に擬凹線が巡る。248は直口形を呈している。249は土師器鉢である。250は須恵器蓋、251・252は須恵器有台杯、253が須恵器無台杯である。254は須恵器高杯の頸部で透かし穴が3箇所見られる。255は土師器甕、256は土師器瓶の把手か。257～263は土師器壺で257は内外面を赤彩してある。内面の一部には油痕のようなものが帶状に付着している。264～266は内面黒色土器の椀である。267～283は土師器皿、284は京都産の瓦質土器の椀で体部に穿孔が1ヵ所開けられている。北陸での出土は珍しい。285～290・292・293は白磁碗で291は肥前磁器であろうか。294は漳州窯系の磁器碗で16世紀末～17世紀のものか。295は青磁碗、296は陶器碗である。297～299は珠洲の甕で300は珠洲の壺、301～307は珠洲の鉢である。概ね12世紀中頃～13世紀前半のものか。308・309は輪の羽口、310は有孔土玉、311～333は土鍤である。334・335は刀子で334は526の柄が付く。336は握り鉄、337は盤、338～340は火箸である。341のニホンジカの右角が出土している。SD222にはヤマトシジミの貝殻を廃棄する場所であったのか貝殻溜まりが5箇所あった。ニホンジカの角も本来なら腐食し残存する可能性が低い遺物であるが、貝殻のカルシウムにより残存していたと考えられる。角冠と呼ばれる最上部の枝は欠損



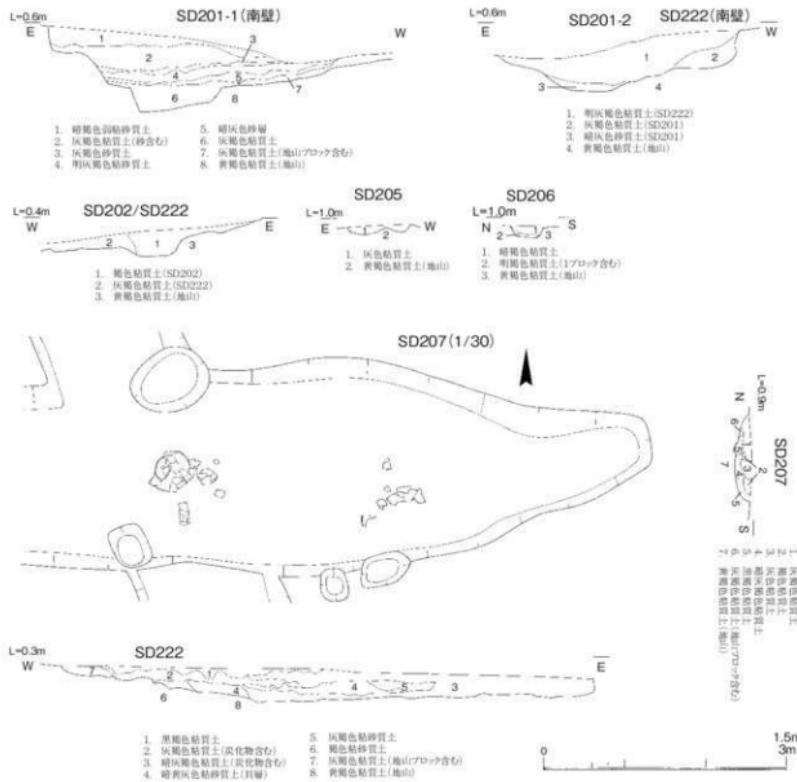
第3図 遺構図(1) (S=1/60)



第4図 遺構図(2) (S=1/60)

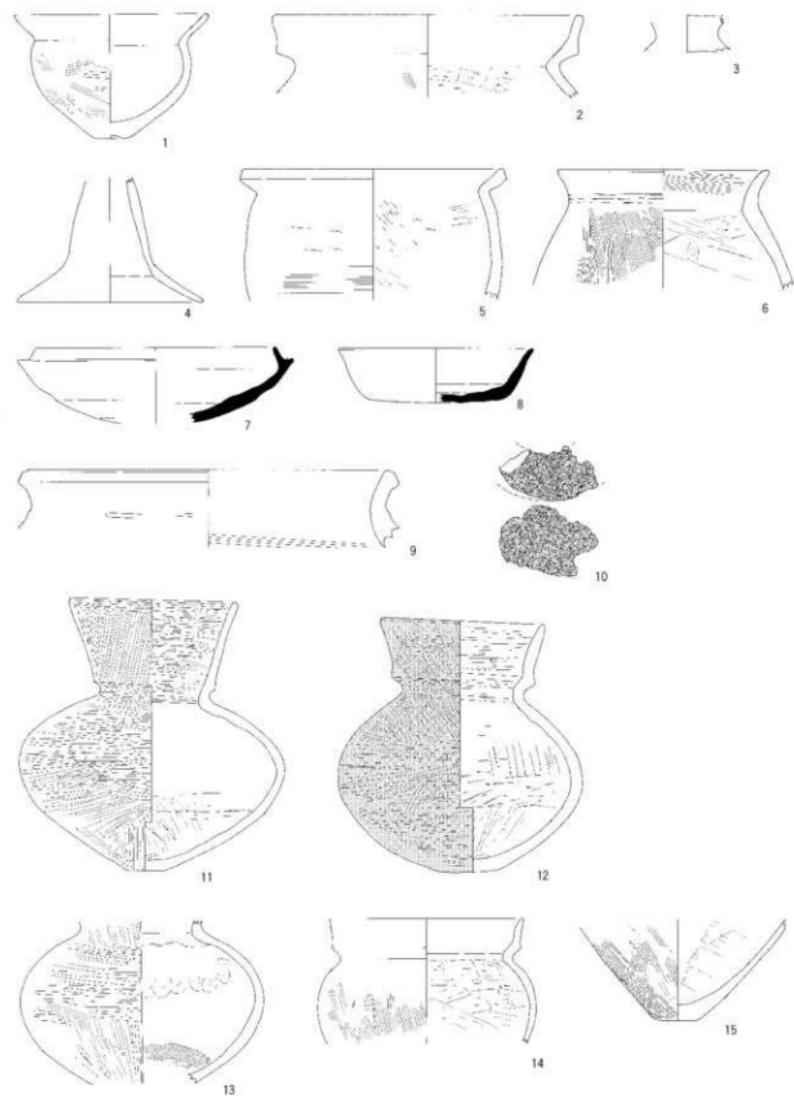


第5図 造構図(3) (S=1/60, 1/30)

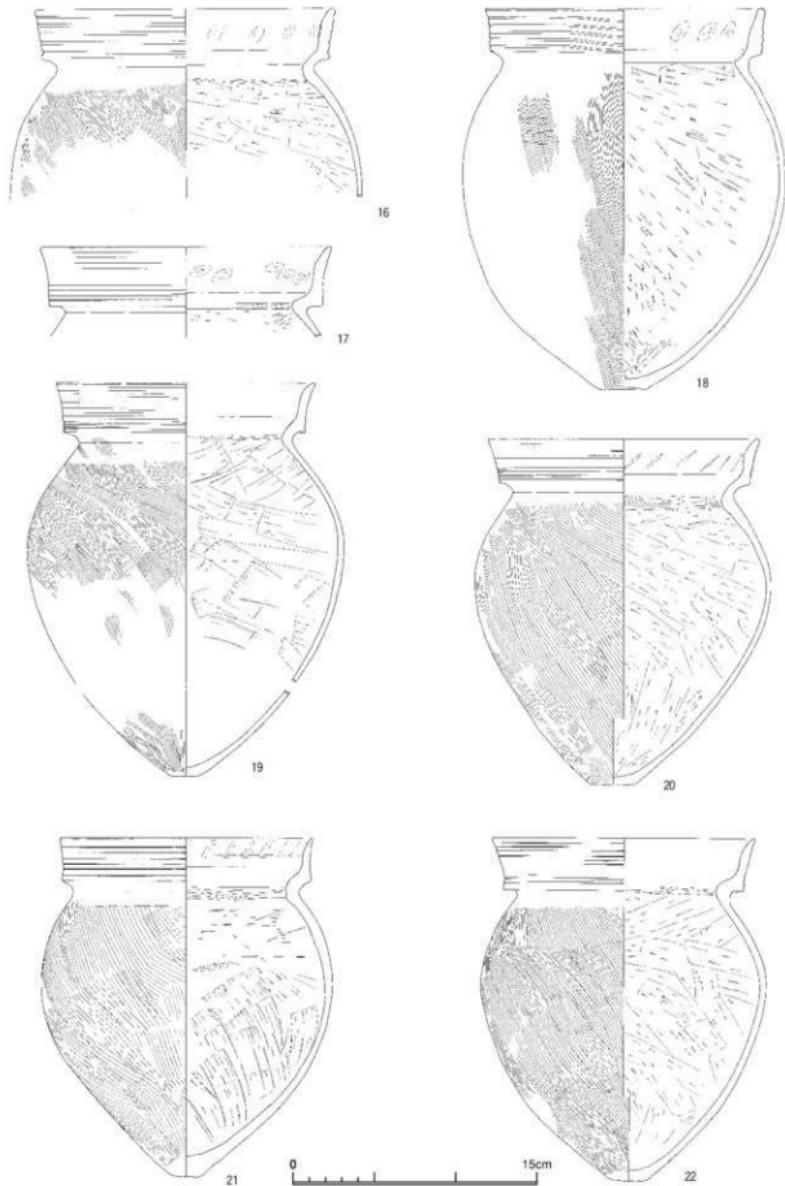


第6図 遺構図(4) (S=1/60, 1/30)

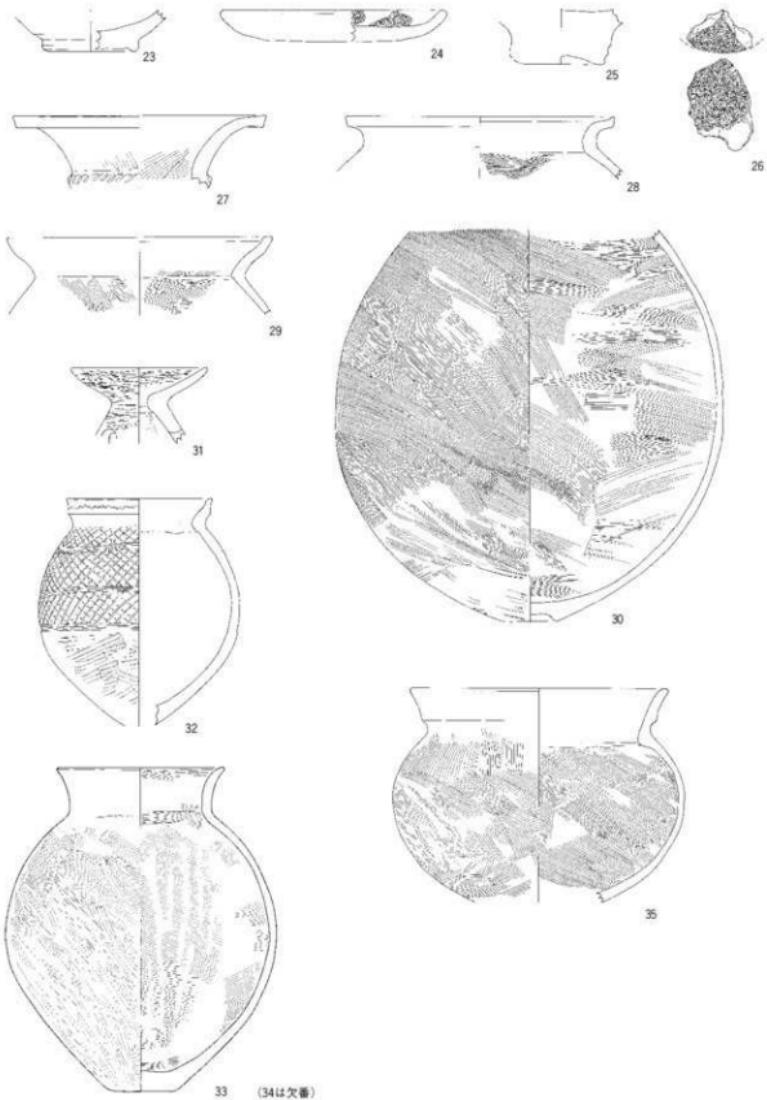
しており、この部分に穿孔痕が残るので、穴が開けられていたと思われる。角隆起、第1枝、第2枝が削られ、第2枝があった部分は深さ13mmの孔が開けられている。用途は不明である。木製品は、505～580までである。505・508は皿で508は内外面に黒漆を施し、赤漆で模様を描いている。506は椀、507は杯でともに内外面黒漆が塗られている。509は曲物、510は箱の一部か。511～520は箸、521・522は容器の底板、523は把手か。524は右足用の下駄、525は笠の部材、527は舟形か。528・529の端部に加工が施されているものなどが出土している。石製品は600～616が出土している。600・601は変質凝灰岩の加工品、602は砂岩の凹石である。603はひん岩の礫石、604ディサイトの台石である。片面のみ被熱痕がみられる。605・608は砂岩の砥石、606・607は流紋岩の砥石である。609は変質流紋岩の剥片、610・611は変質凝灰岩の石核、612は変質流紋岩の石核である。613・614は変質安山岩の打製石斧である。615はディサイトの石錘、616は漂質凝灰岩のすり石である。その他、ヒトの右下顎骨1点、ウマの左上腕骨1点、右上顎第2前臼歯1点、右上顎第3前臼歯1点、左桡骨+尺骨1点、右桡骨+尺骨1点、左脛骨1点、ウシ左上顎第3後臼歯1点、右下顎第2後臼歯1点、イヌ左下顎骨1点などの骨の他、ヤマトシジミが大量にかたまって出土した他、コタマガイという海辺で採れるハマグリに似た二枚貝も出土している。



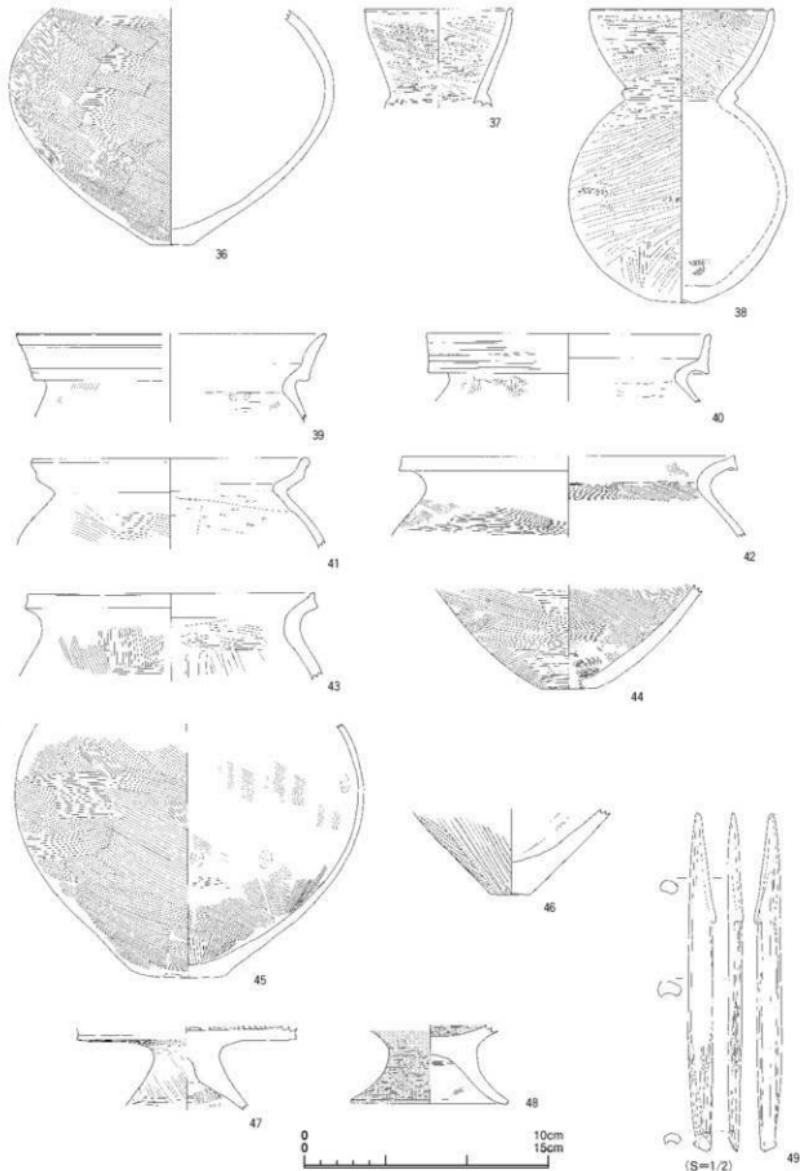
第7図 P+SE 出土遺物実測図 (S=1/3)



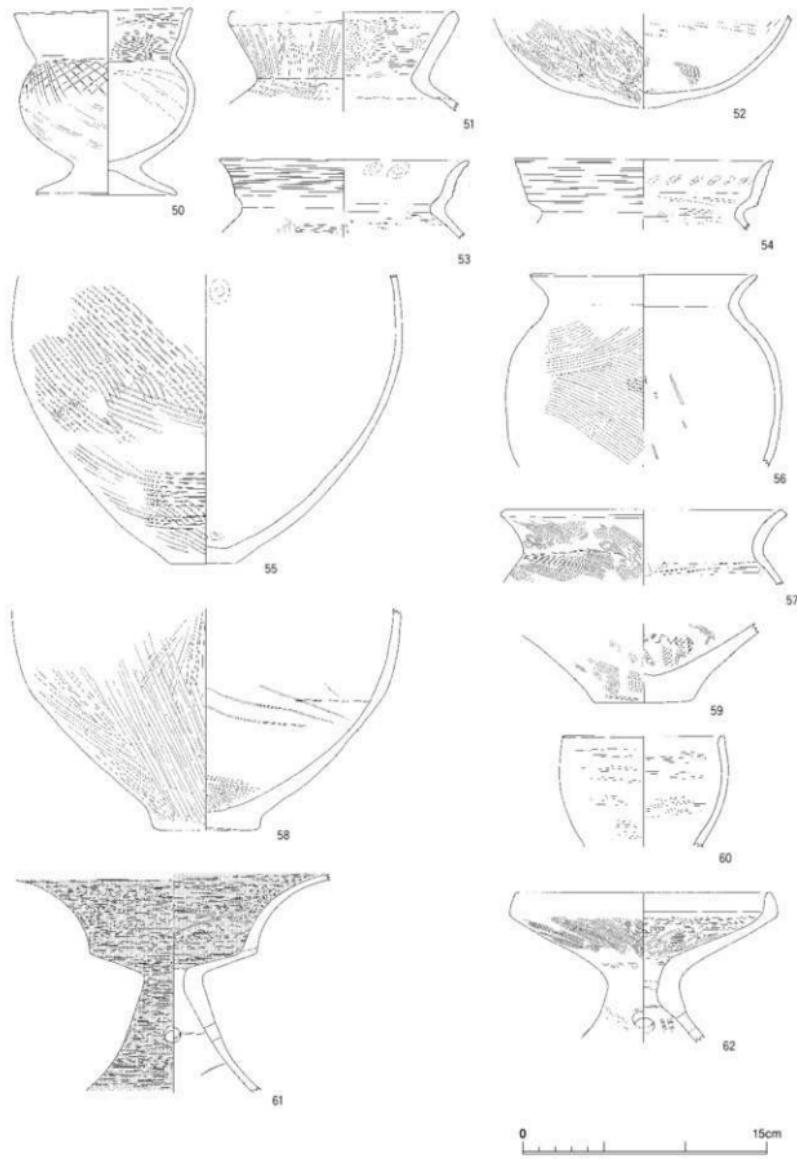
第8図 SE出土遺物実測図 ($S=1/3$)



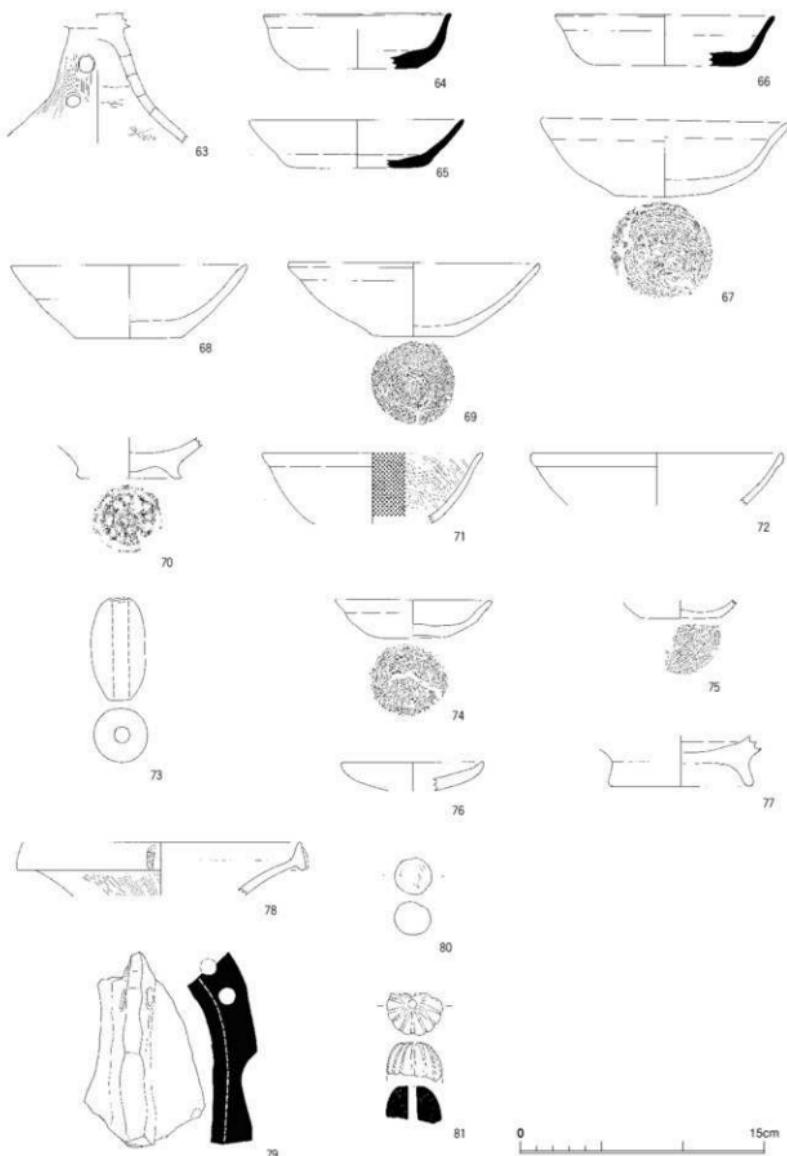
第9図 SE出土遺物実測図 (S=1/3)



第10図 SE出土遺物実測図 (S=1/3, 1/2)



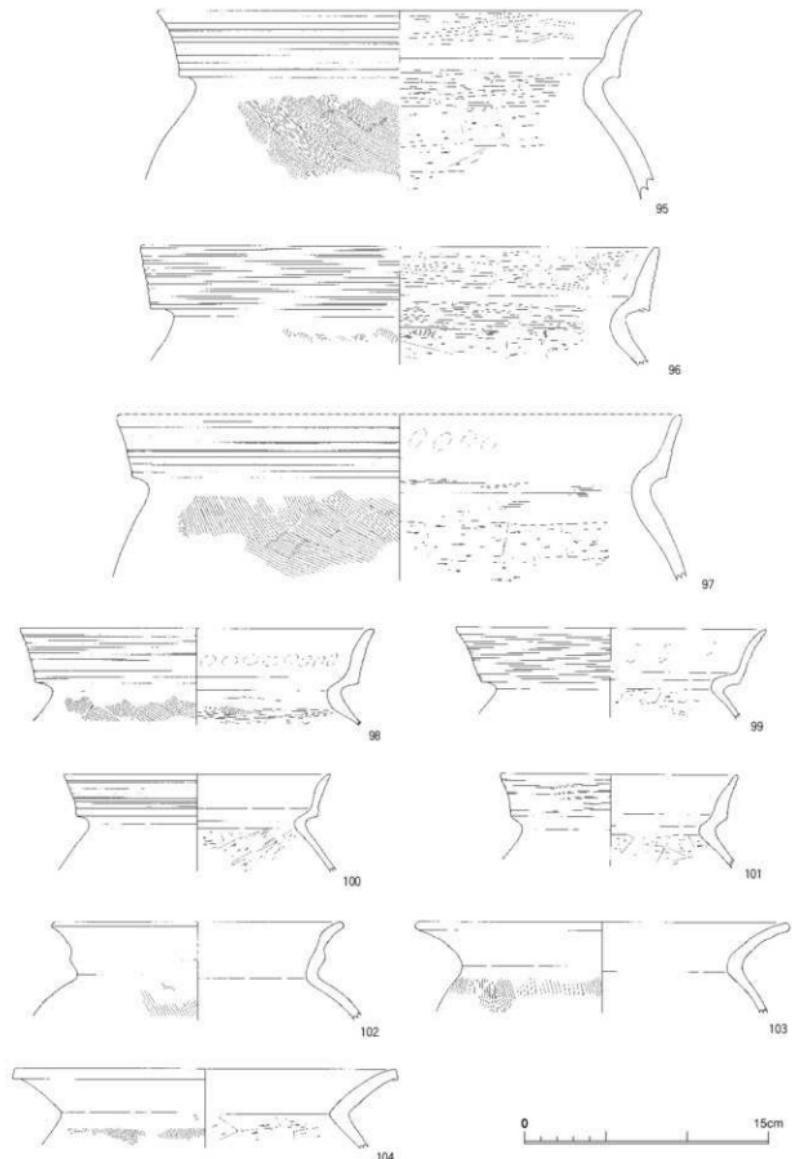
第11図 SE出土遺物実測図 (S=1/3)



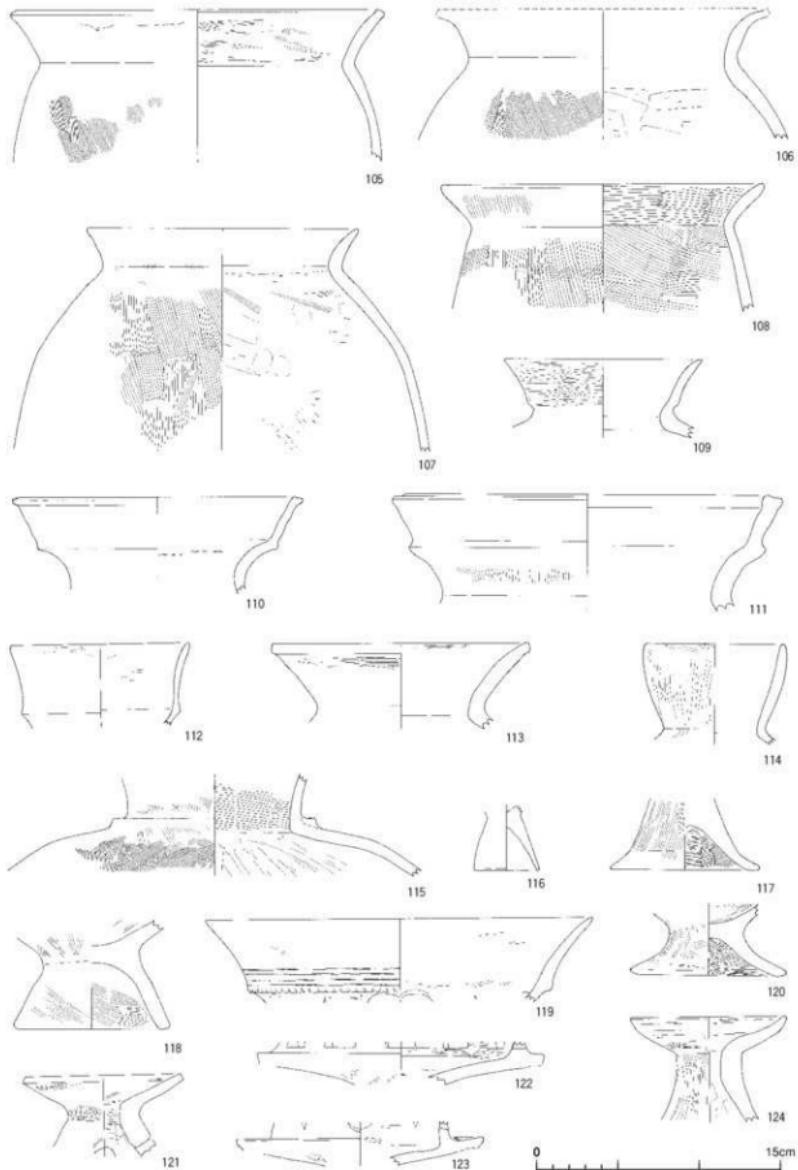
第12図 SE・SK 出土遺物実測図 ($S=1/3$)



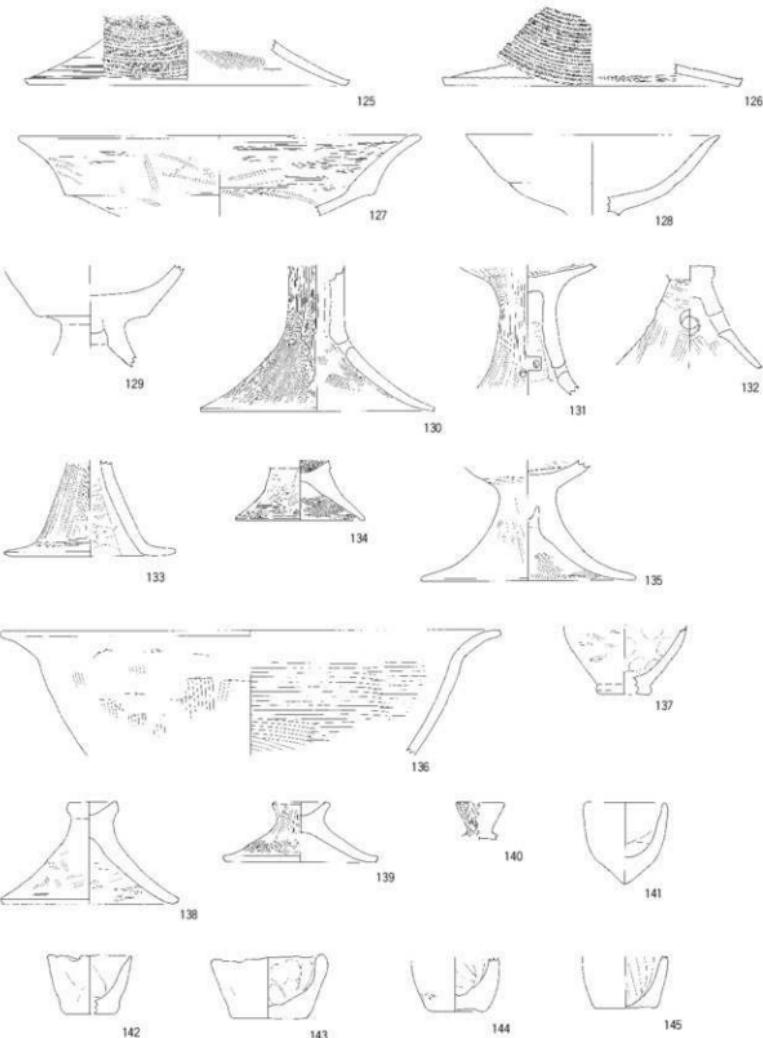
第13図 SK 出土遺物実測図 (S=1/3)



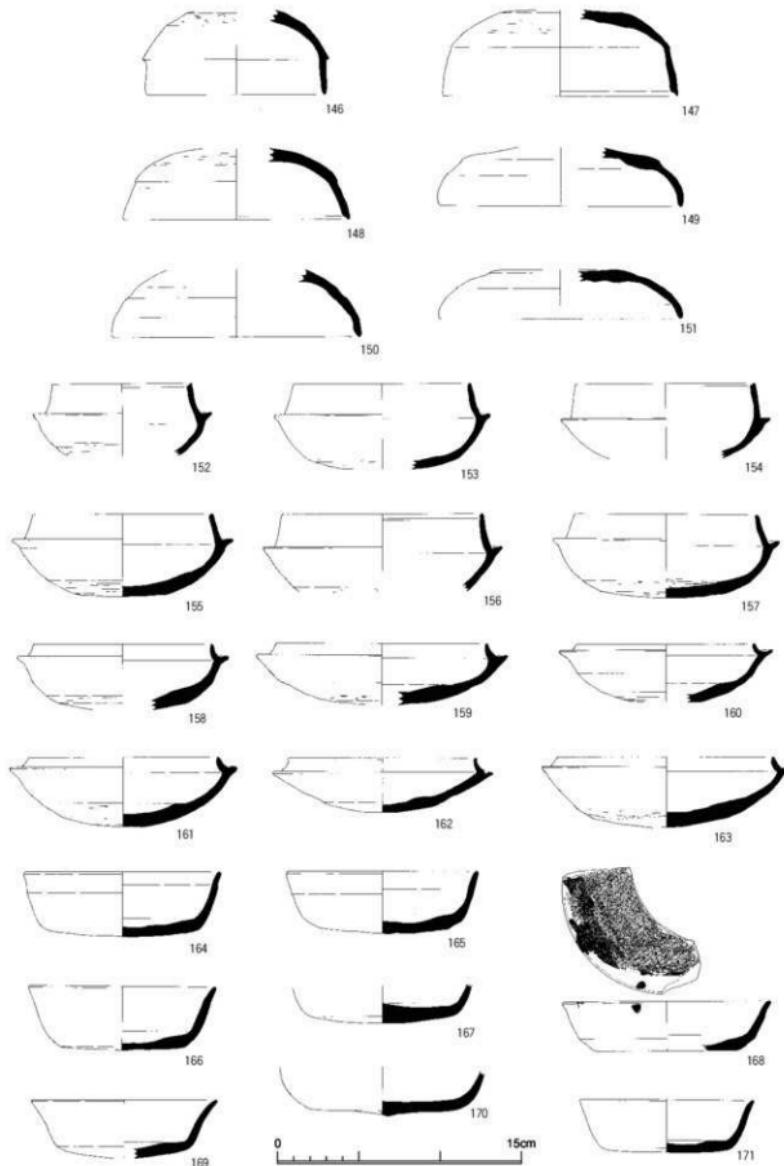
第14図 SD出土遺物実測図 (S=1/3)



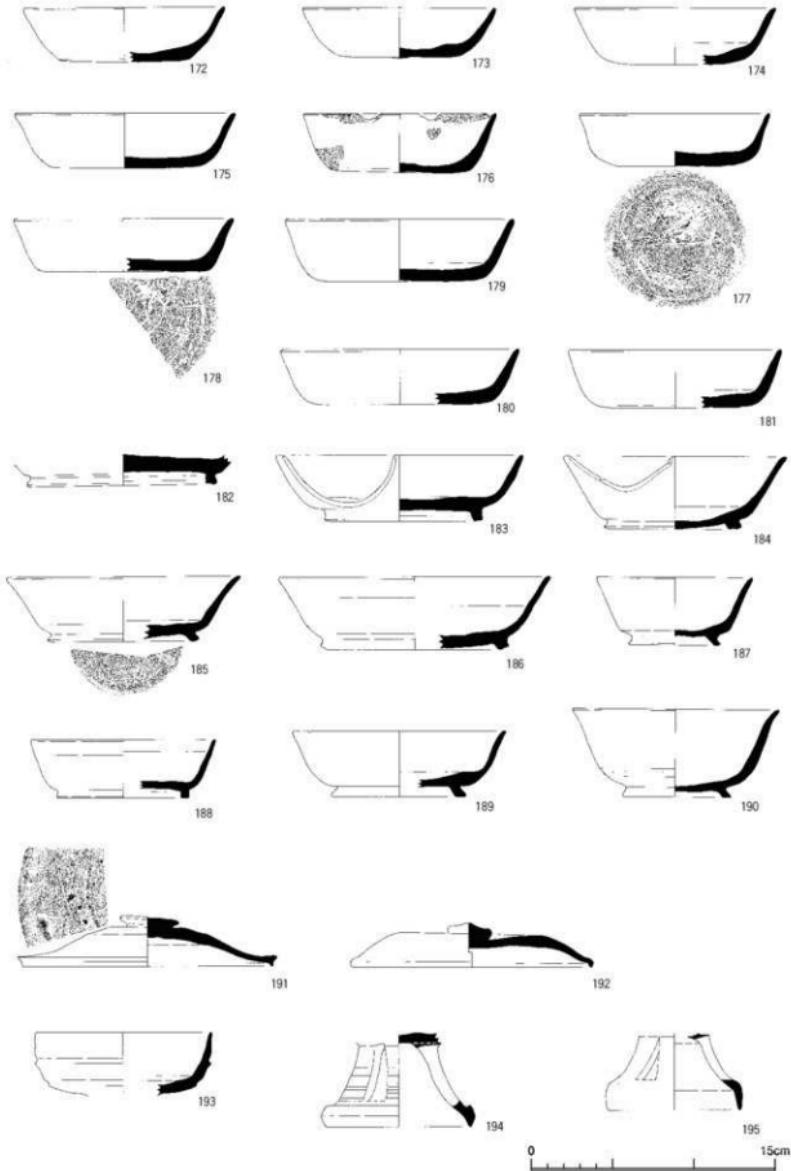
第15図 SD出土遺物実測図 (S=1/3)



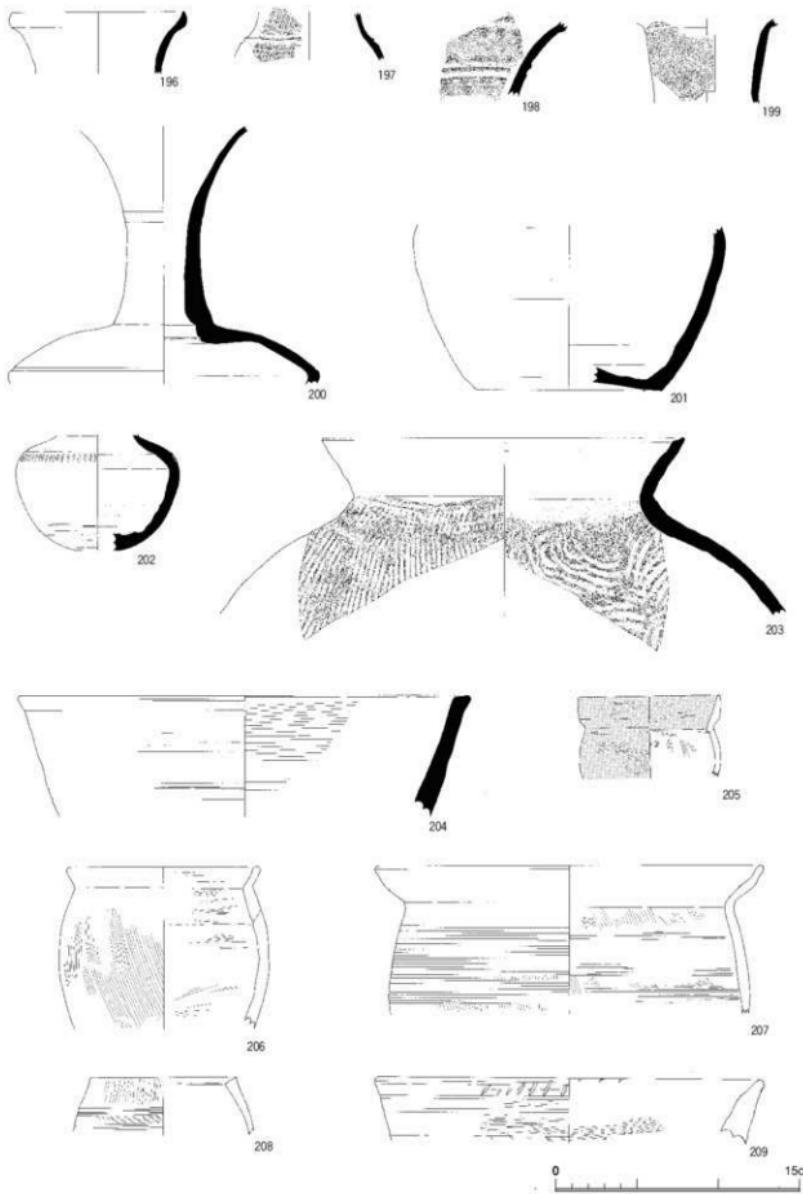
第16図 SD出土遺物実測図 (S=1/3)



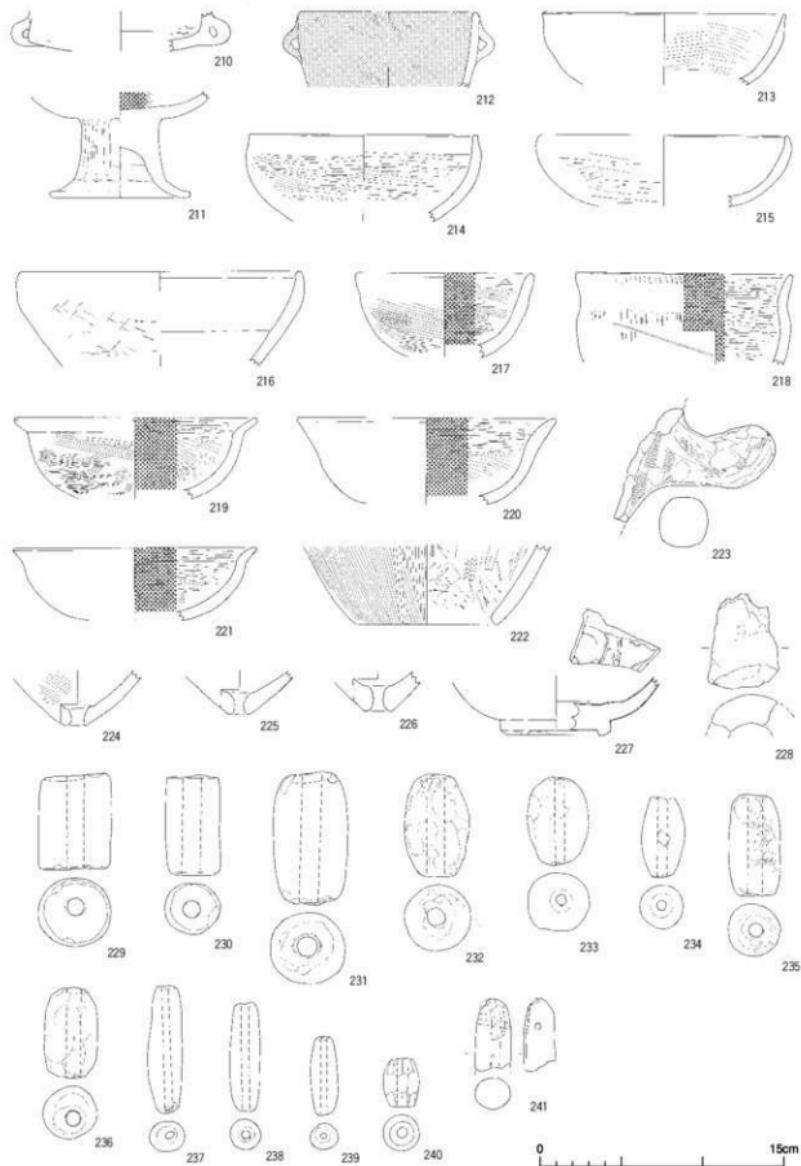
第17図 SD出土遺物実測図 (S=1/3)



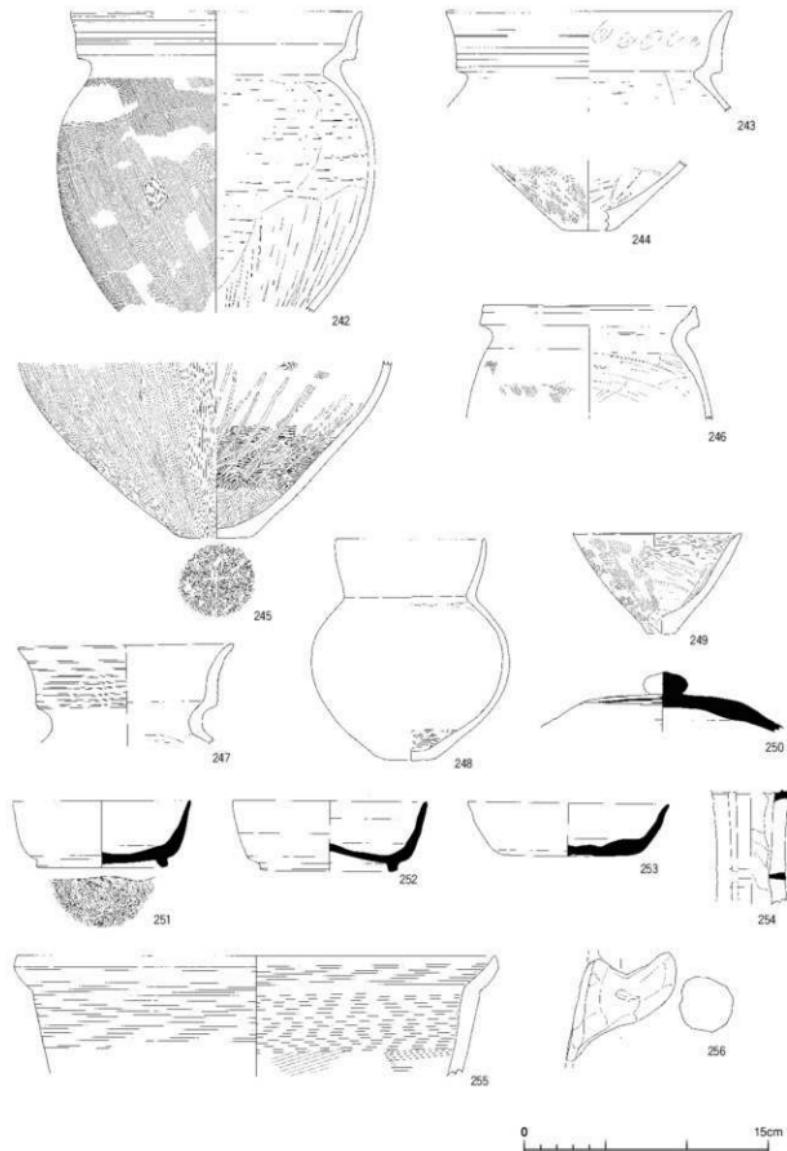
第18図 SD出土遺物実測図 (S=1/3)



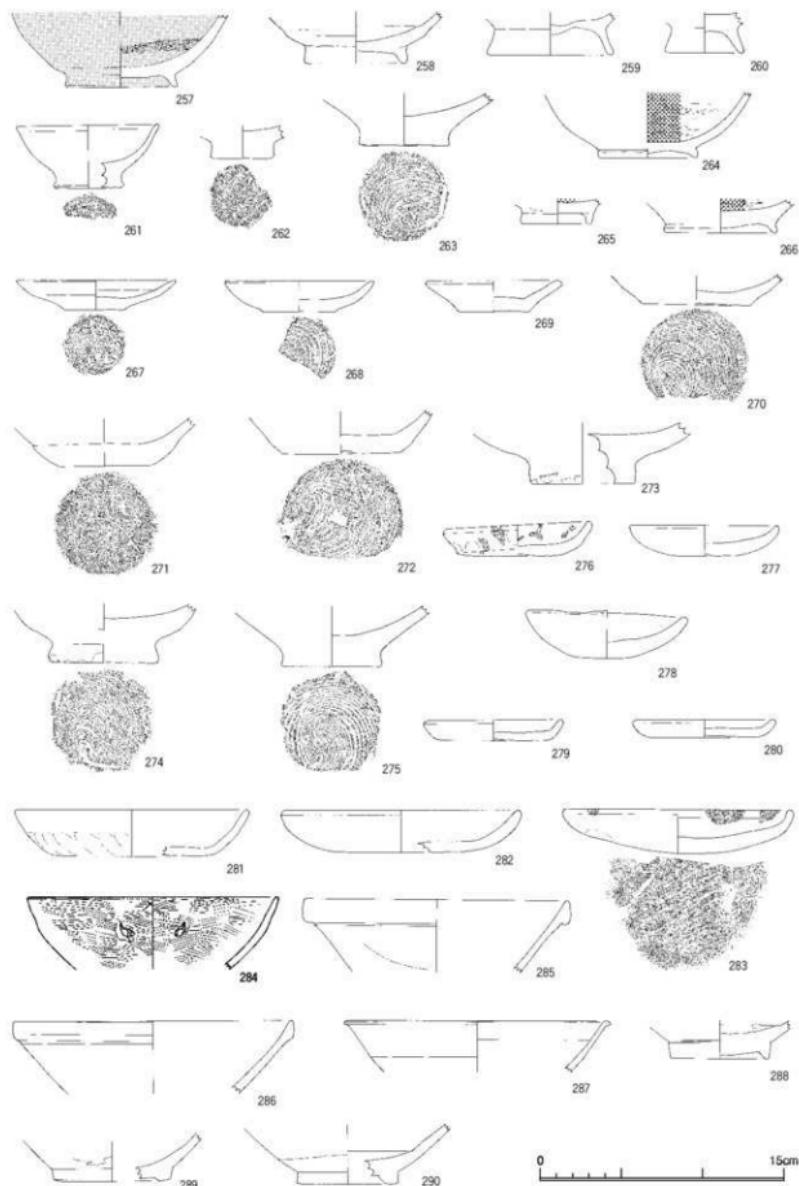
第19図 SD出土遺物実測図 (S=1/3)



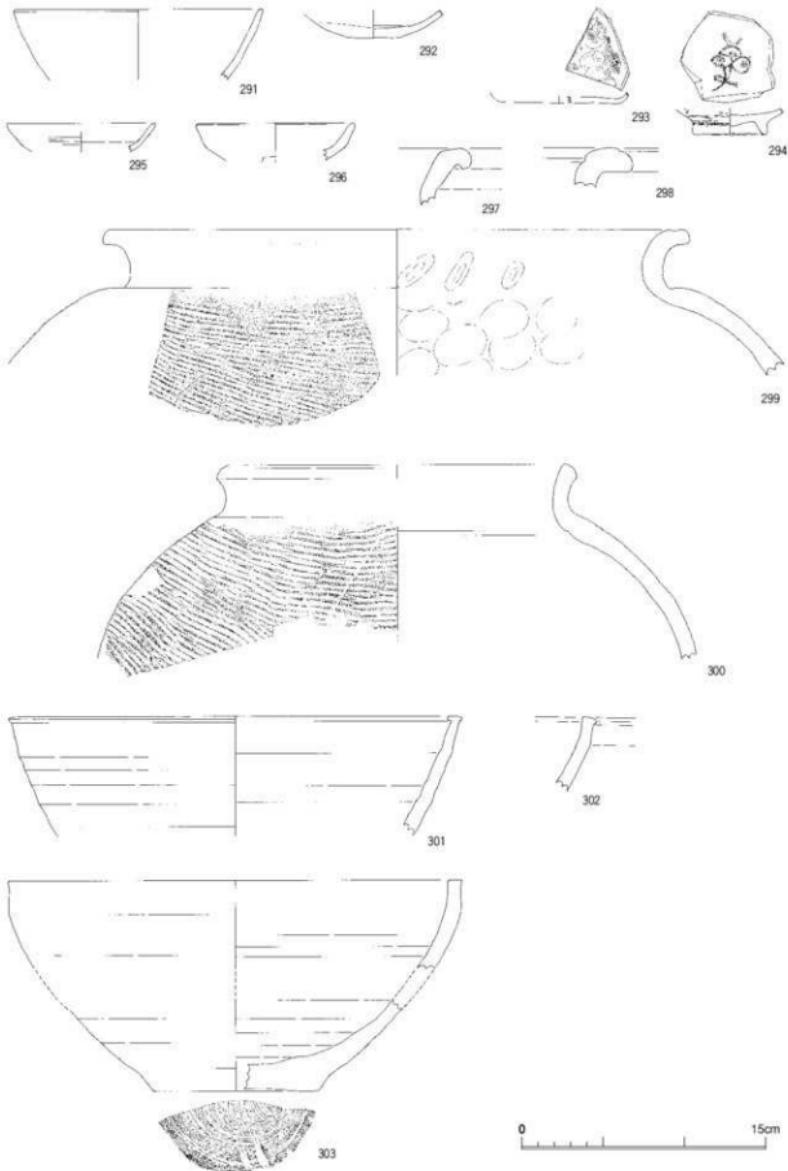
第20図 SD出土遺物実測図 (S=1/3)



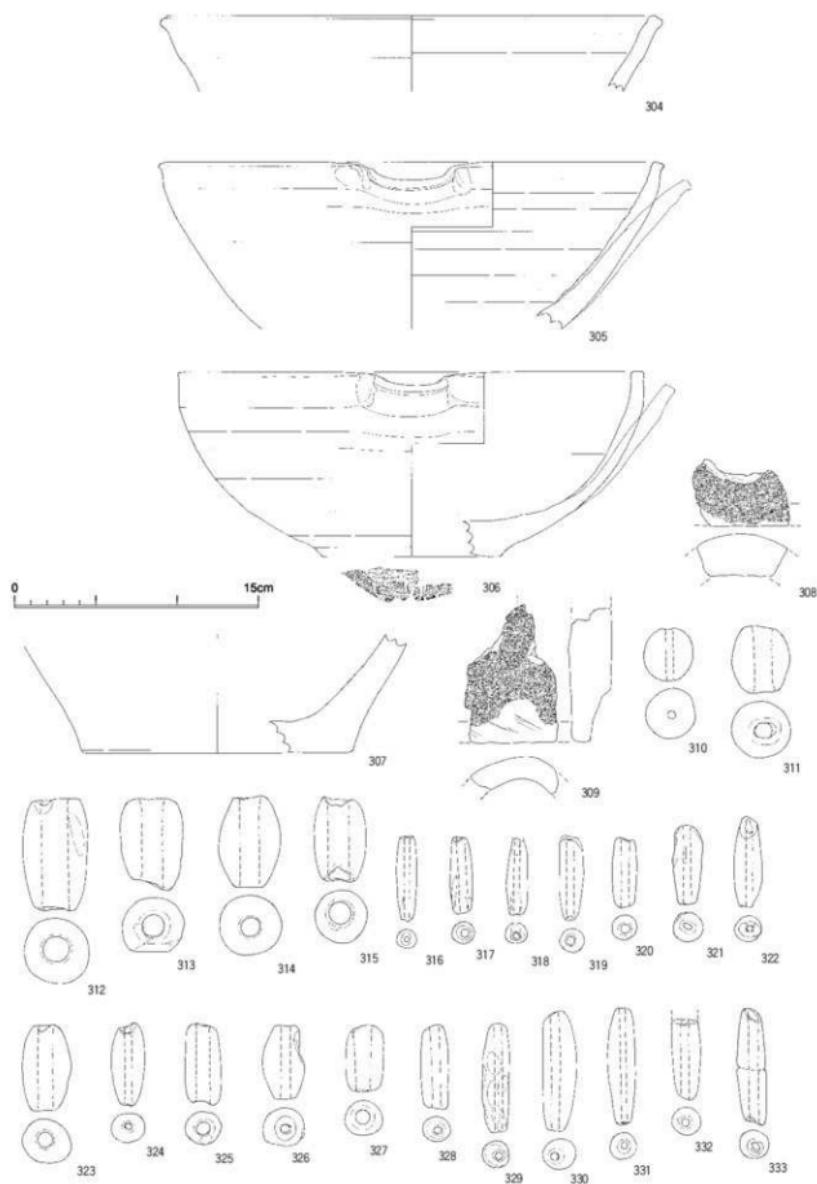
第21図 SD出土遺物実測図 (S=1/3)



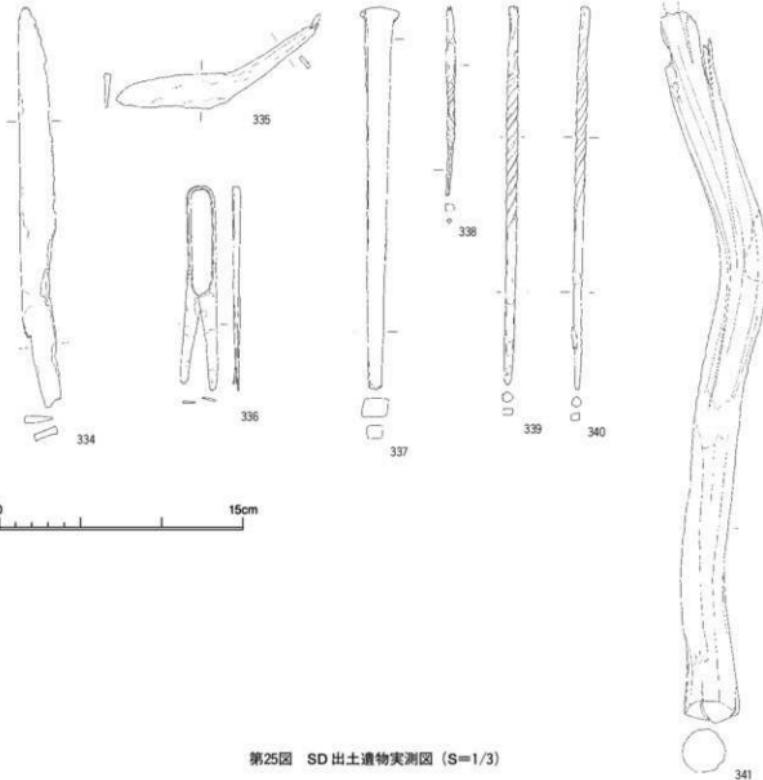
第22図 SD出土遺物実測図 (S=1/3)



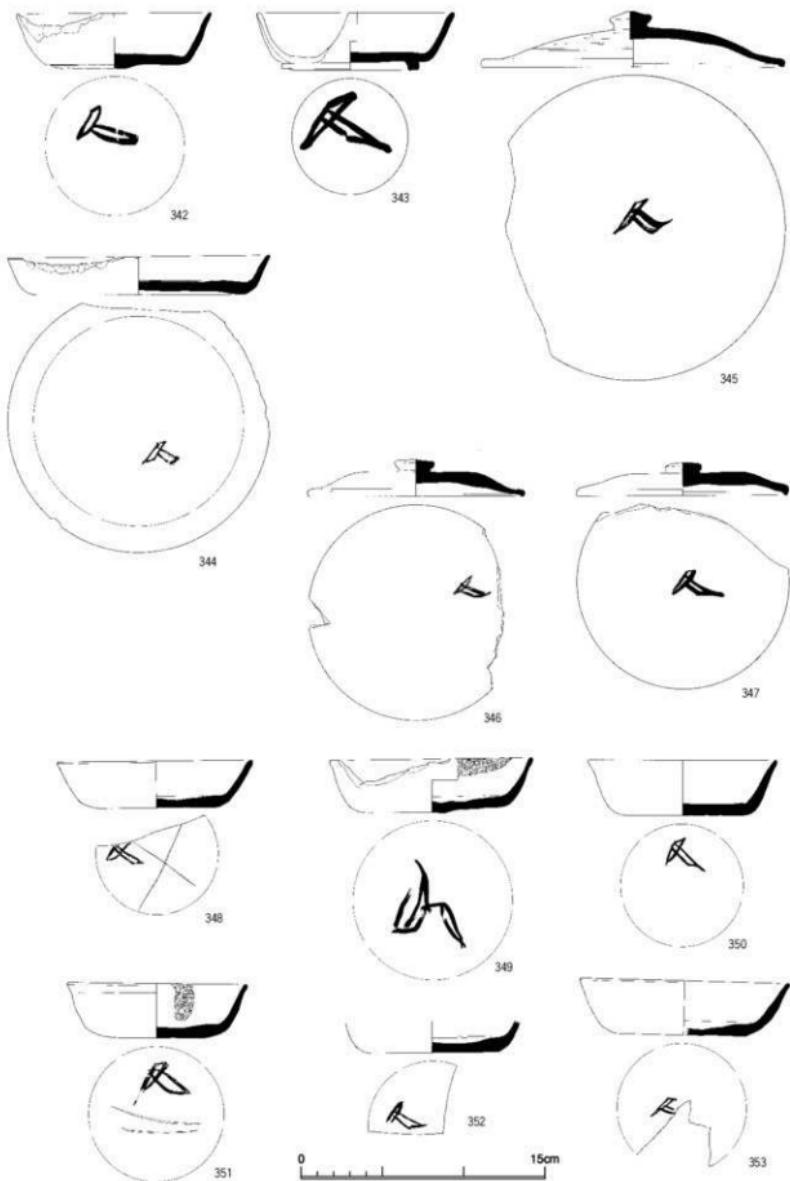
第23図 SD出土遺物実測図 (S=1/3)



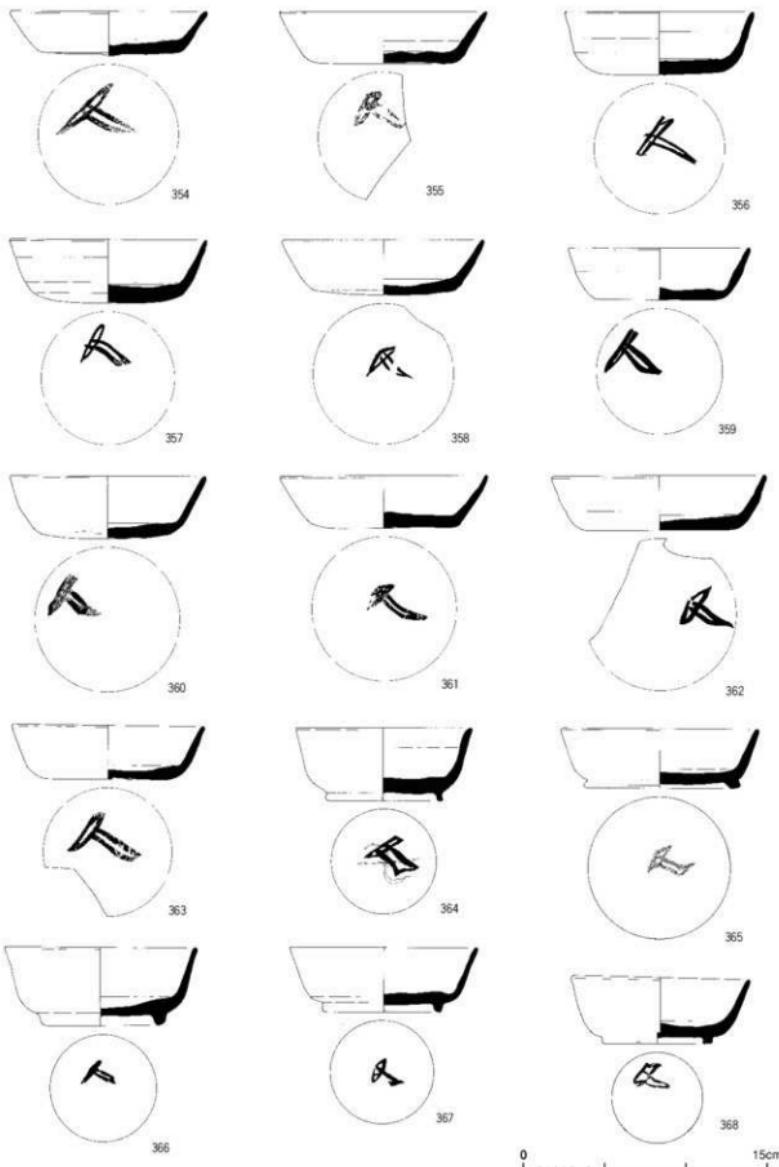
第24図 SD出土遺物実測図 (S=1/3)



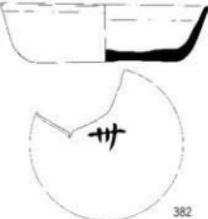
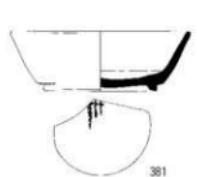
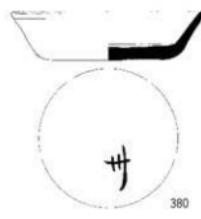
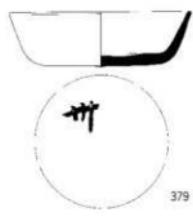
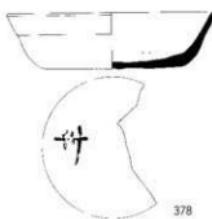
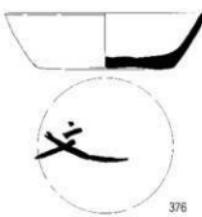
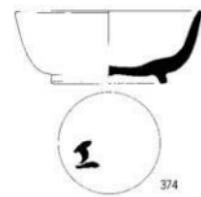
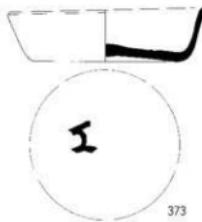
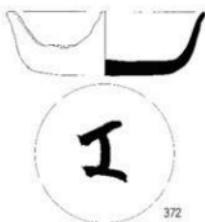
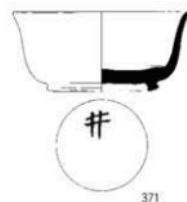
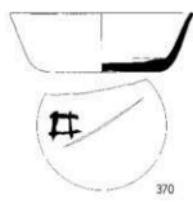
第25図 SD出土遺物実測図 (S=1/3)



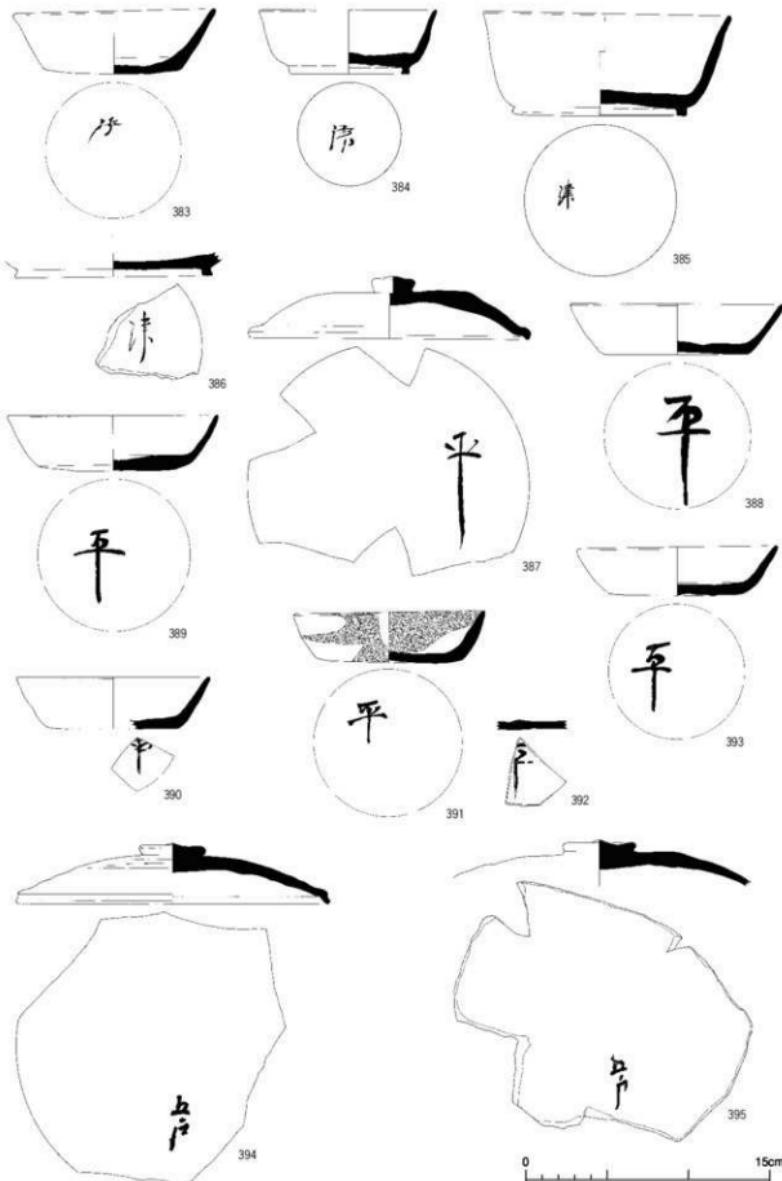
第26図 墓書土器実測図 (S=1/3)



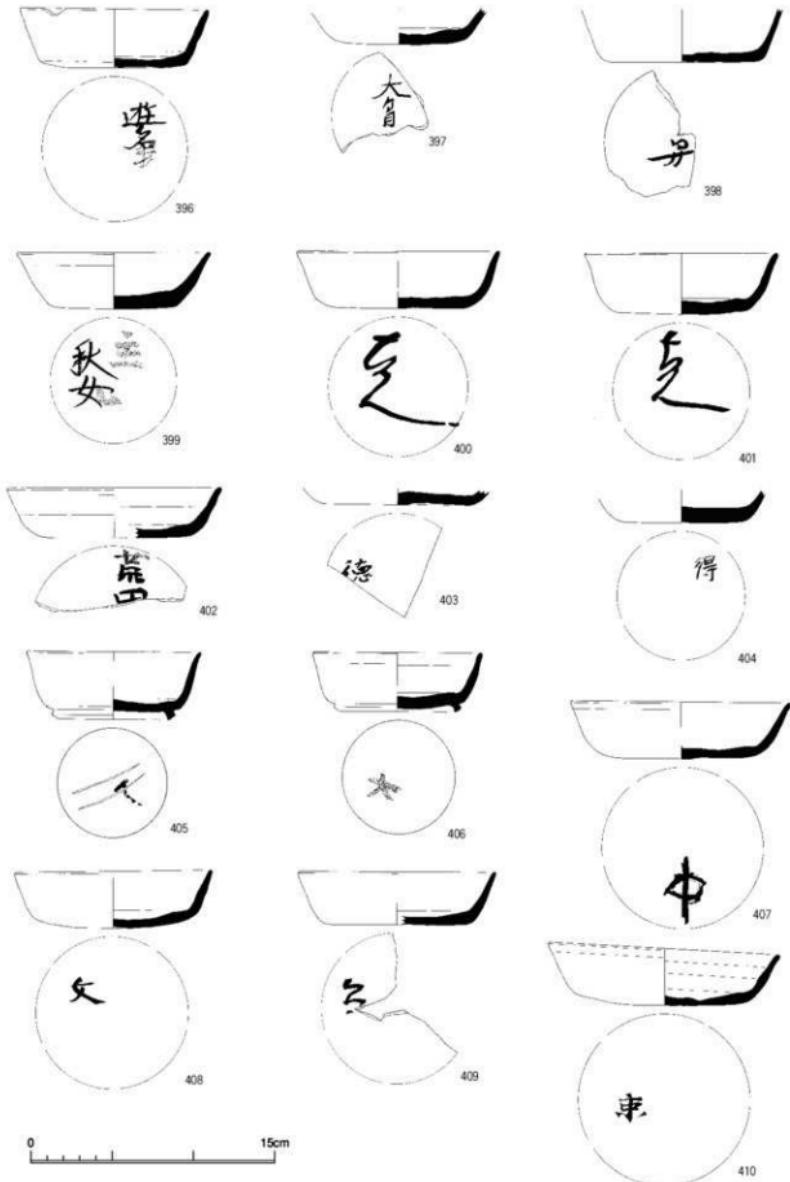
第27図 墨書土器実測図 ($S=1/3$)



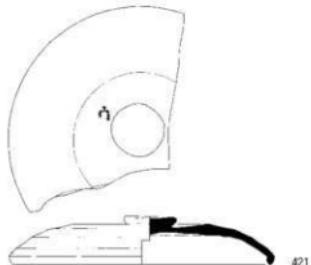
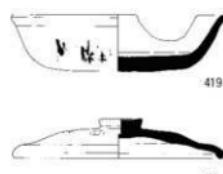
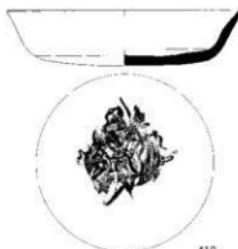
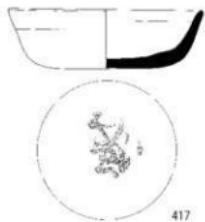
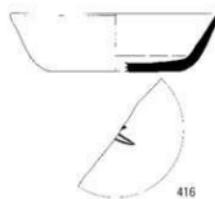
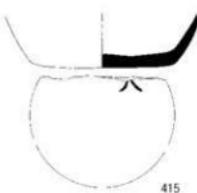
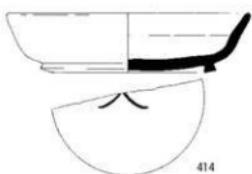
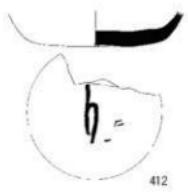
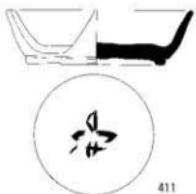
第28図 墨書き器実測図 ($S=1/3$)



第29図 墨書き器実測図 (S=1/3)

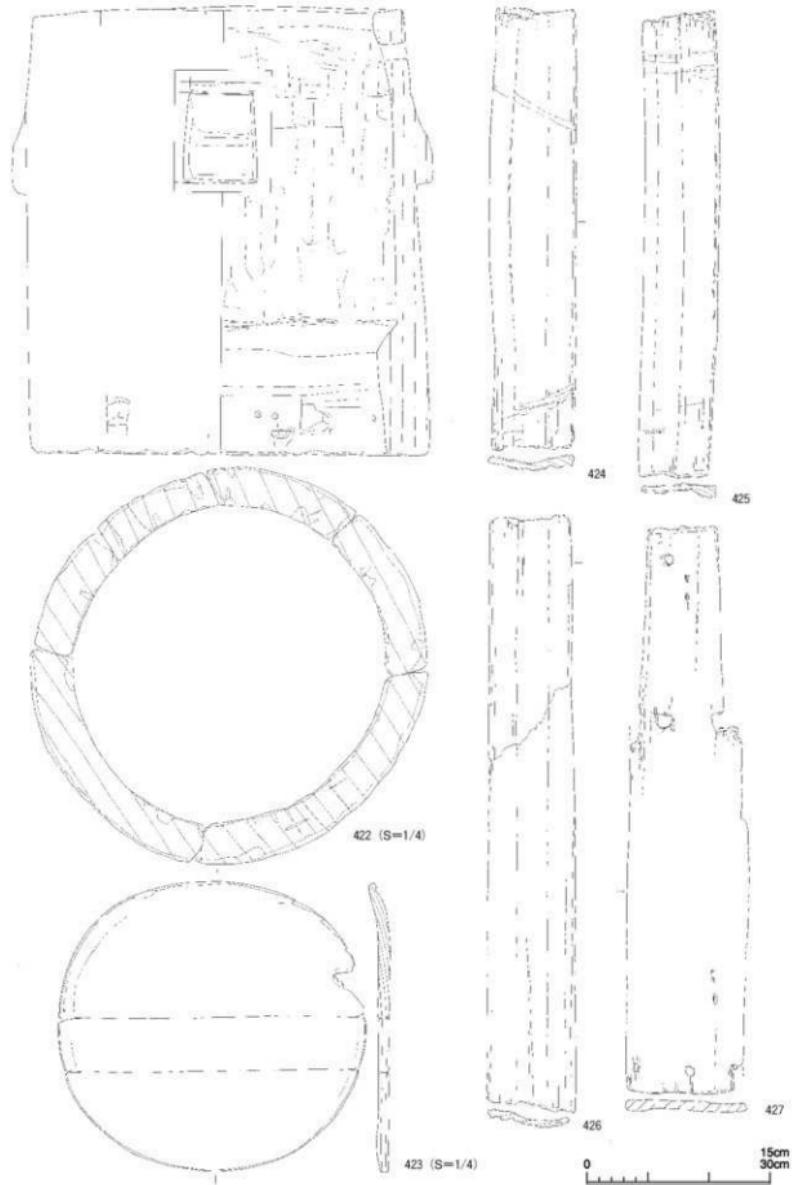


第30図 墨書土器実測図 ($S=1/3$)

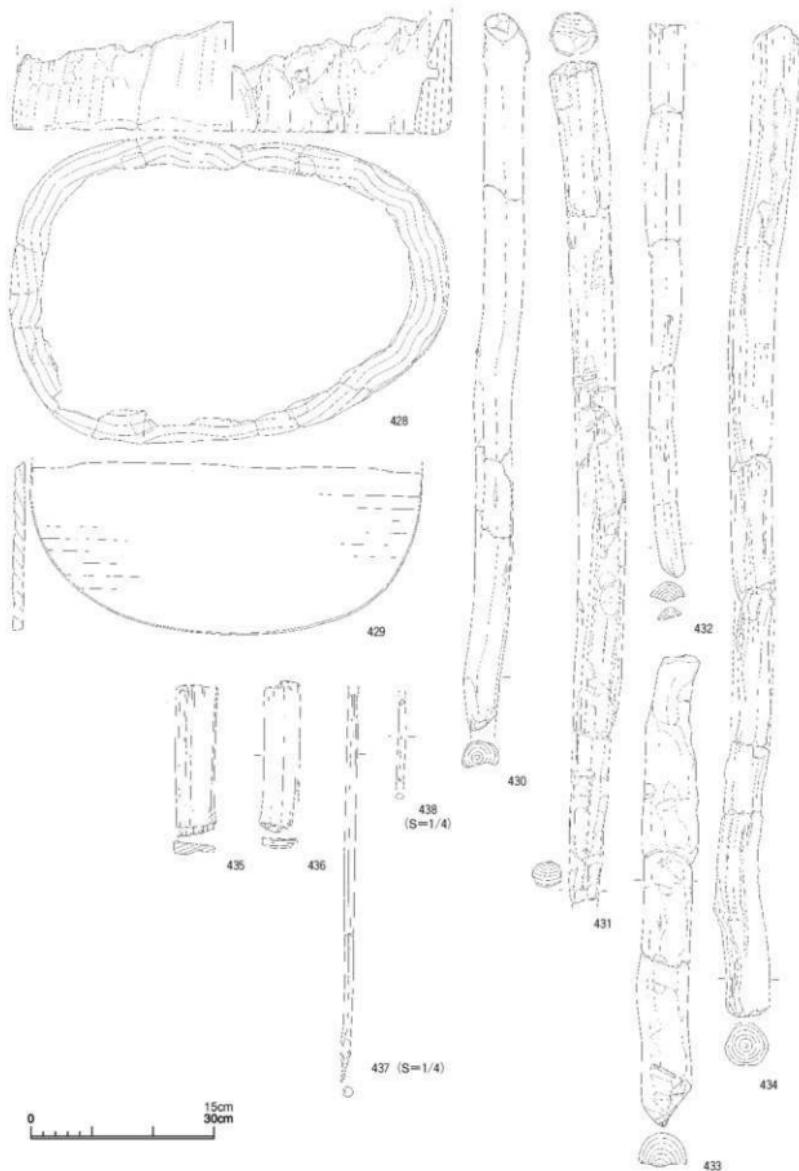


0 15cm

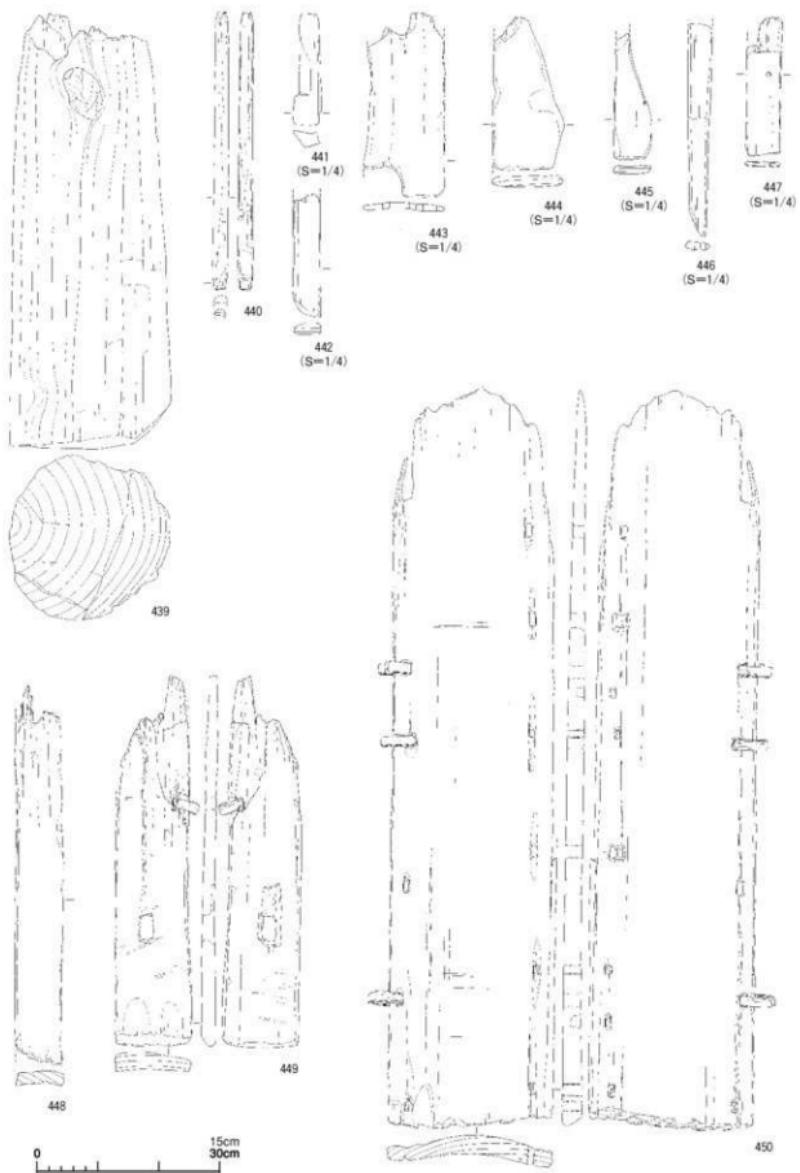
第31図 墓書土器実測図 (S=1/3)



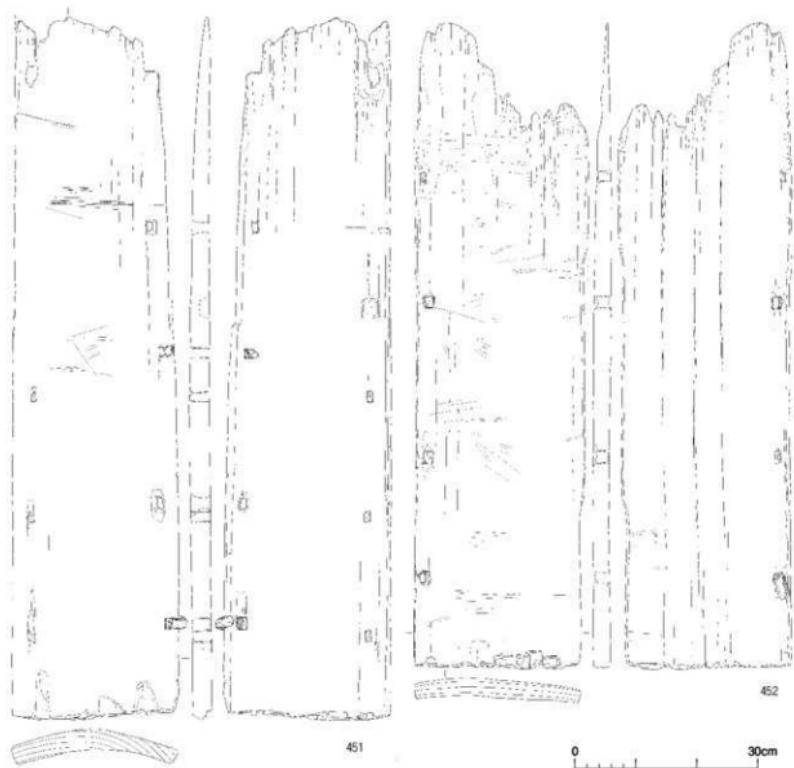
第32図 SE 出土木製品実測図 (S=1/4, 1/8)



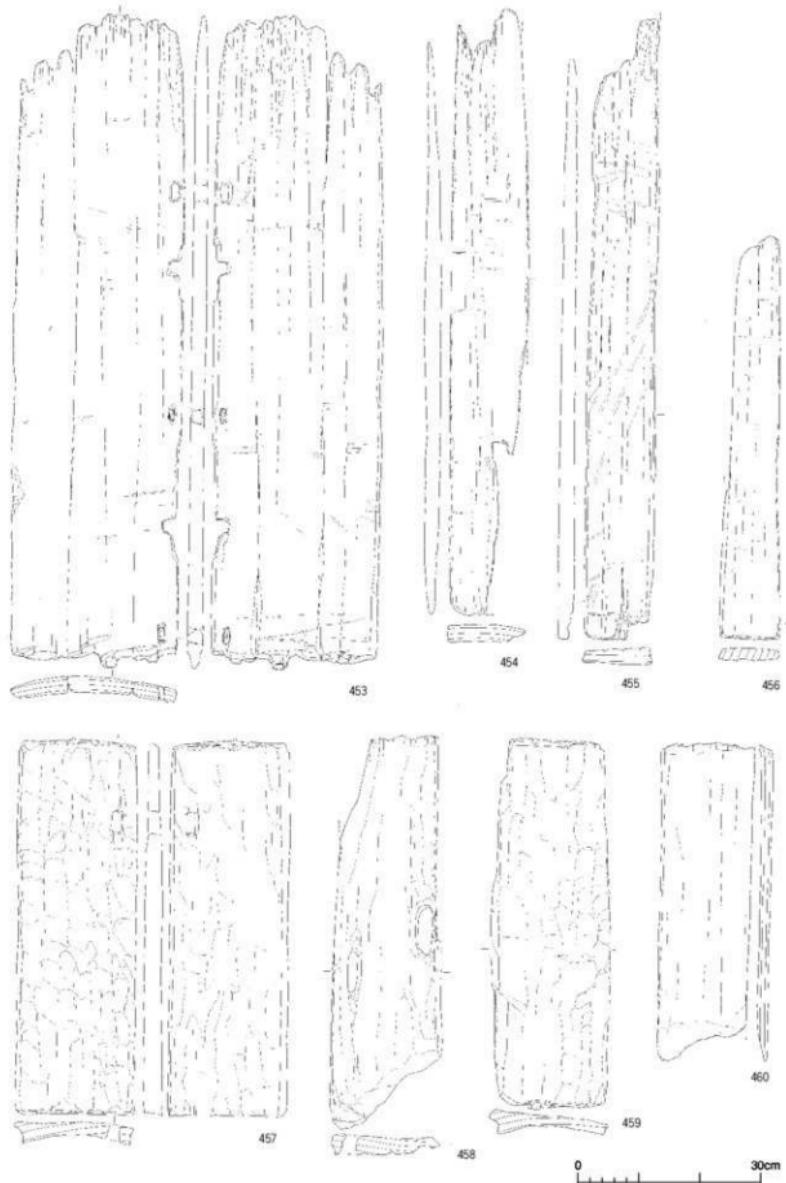
第33図 SE 出土木製品実測図 (S=1/4, 1/8)



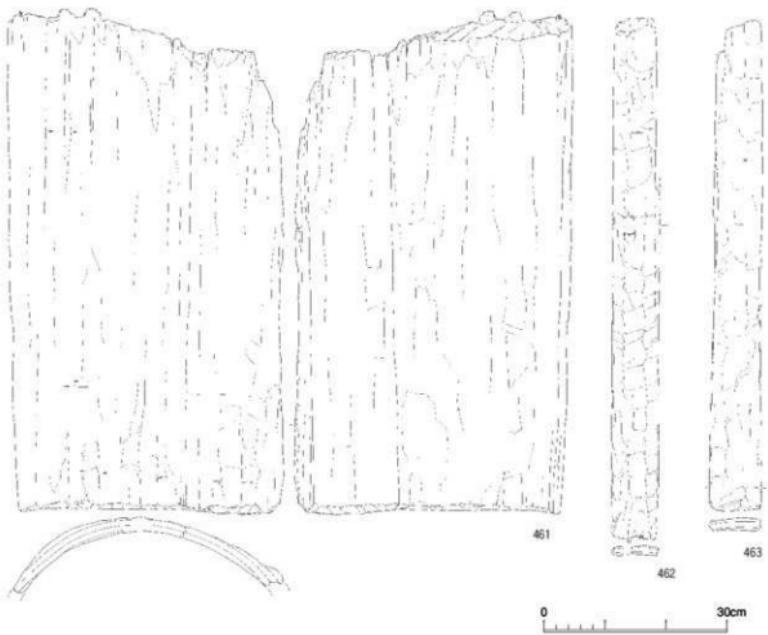
第34図 SE出土木製品実測図 (S=1/4、1/8)



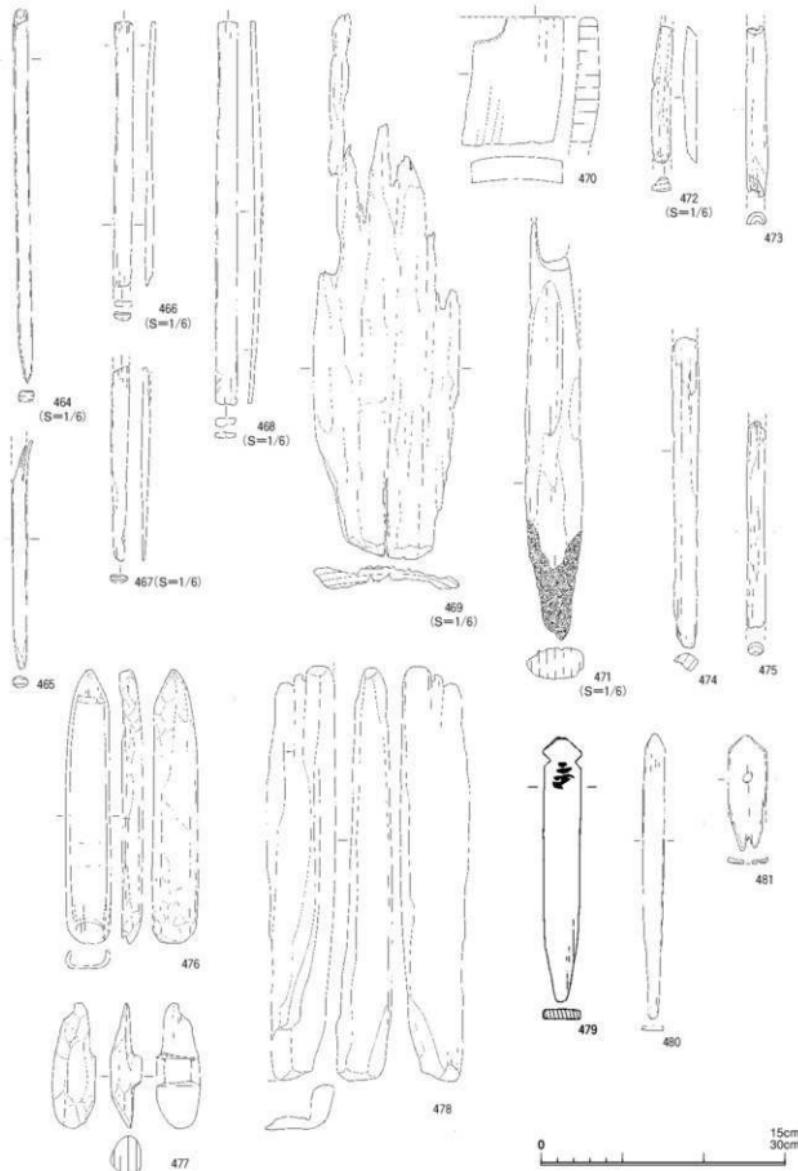
第35図 SE 出土木製品実測図 (S=1/8)



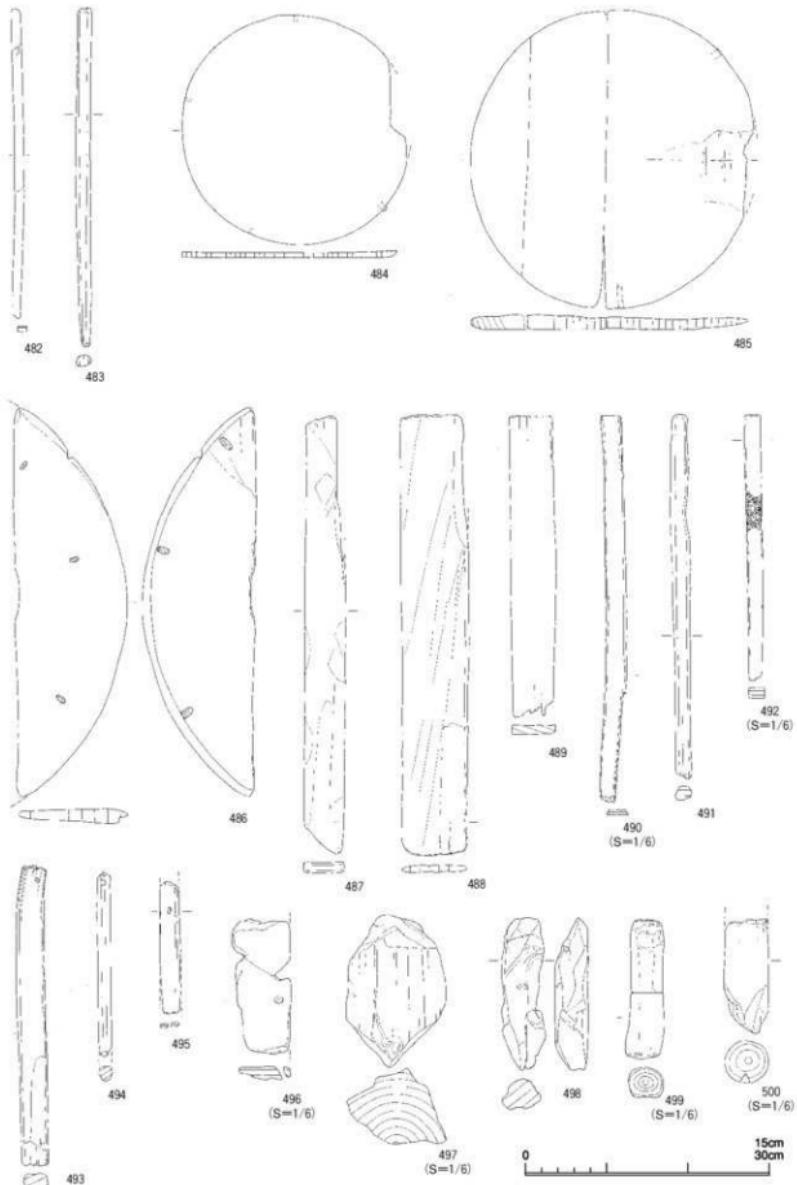
第36図 SE 出土木製品実測図 (S=1/8)



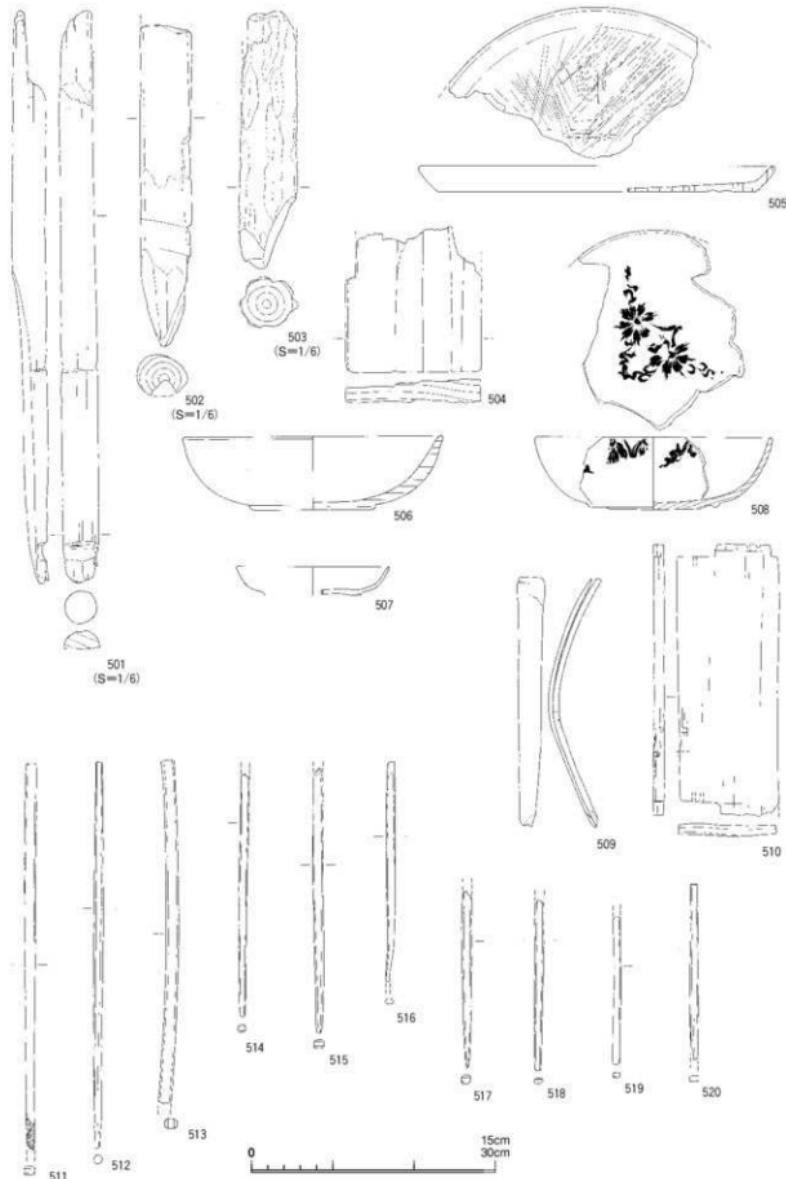
第37図 SE 出土木製品実測図 (S=1/8)



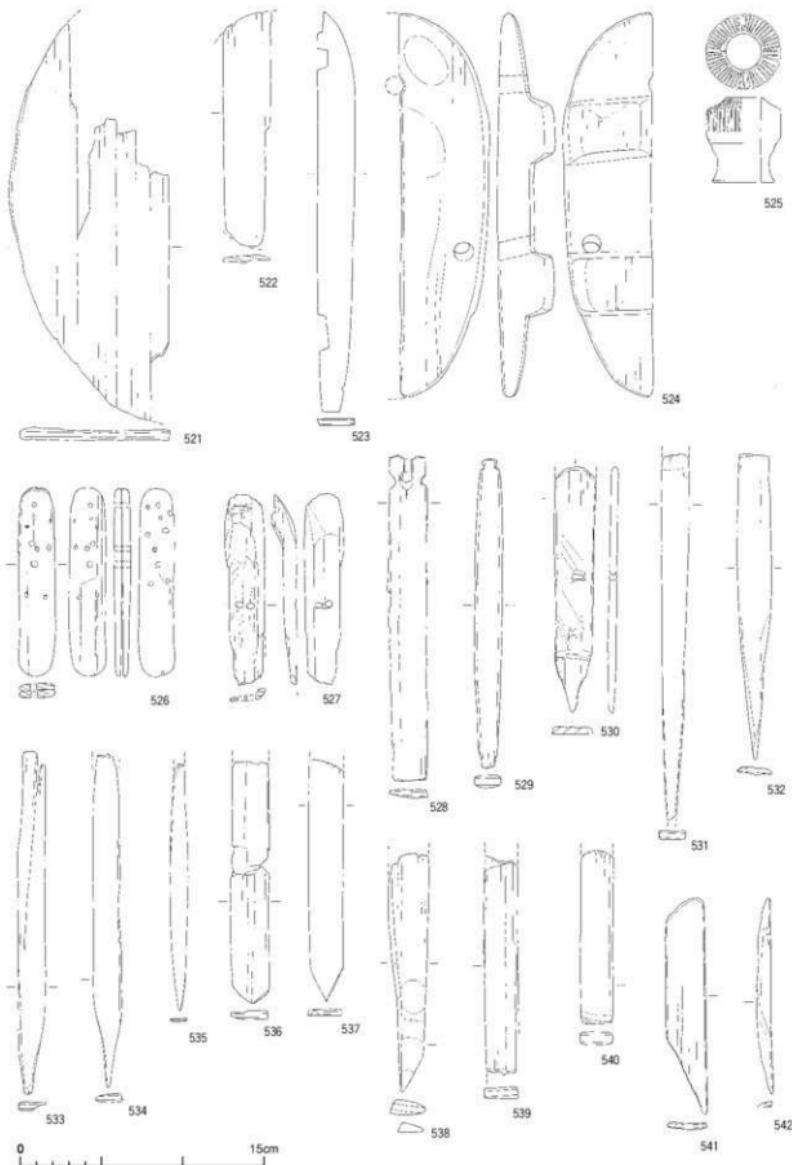
第38図 SE・SK・SD 出土木製品実測図 (S=1/3, 1/6)



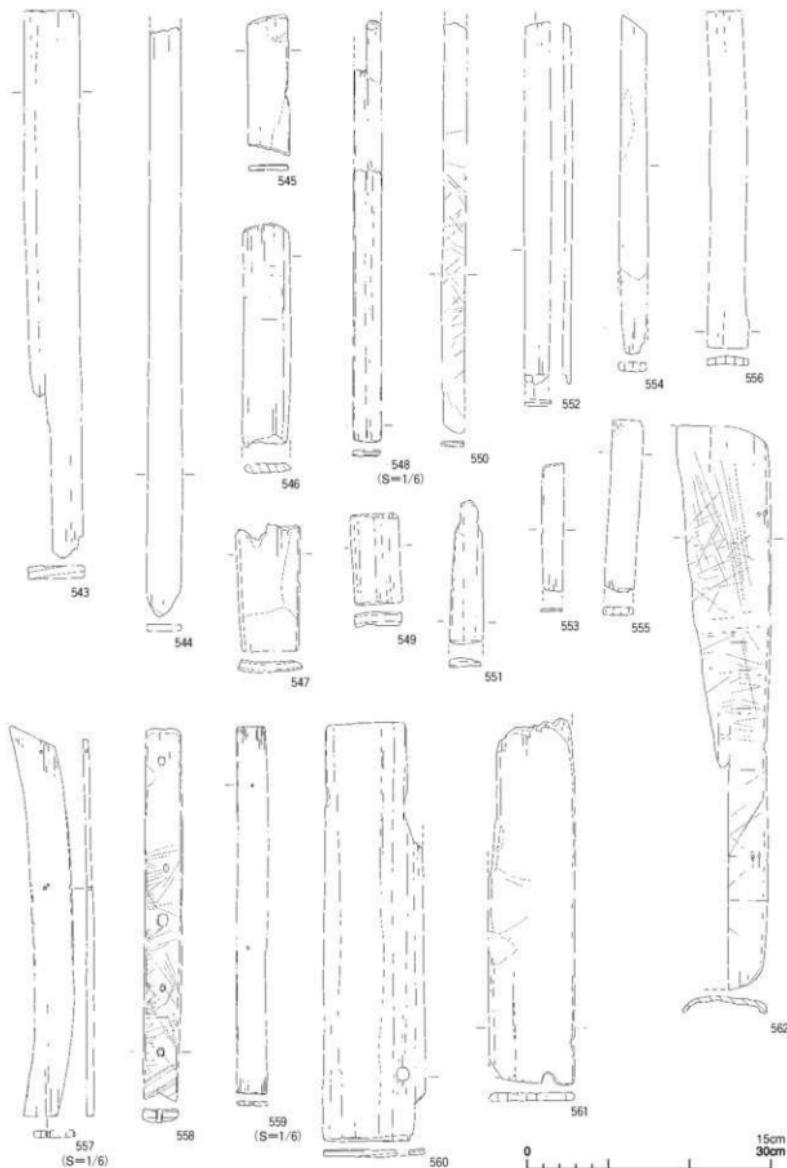
第39図 SD 出土木製品実測図 (S=1/3, 1/6)



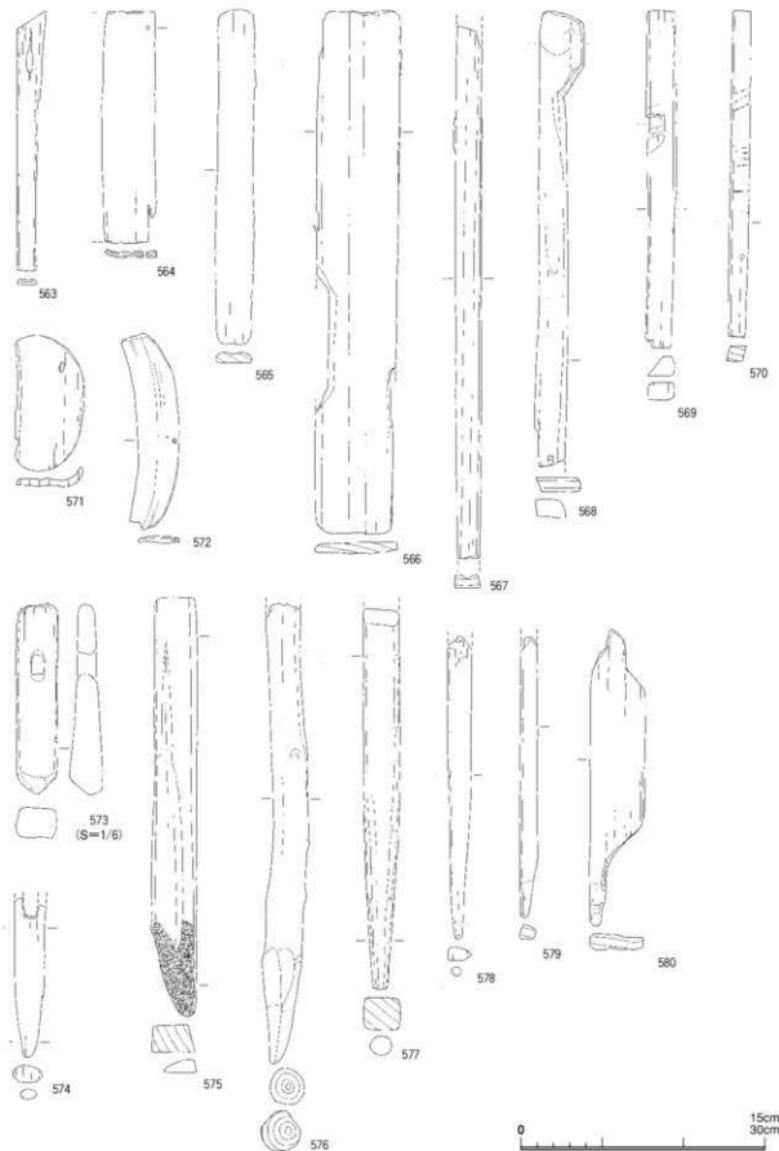
第40図 SD 出土木製品実測図 (S=1/3, 1/6)



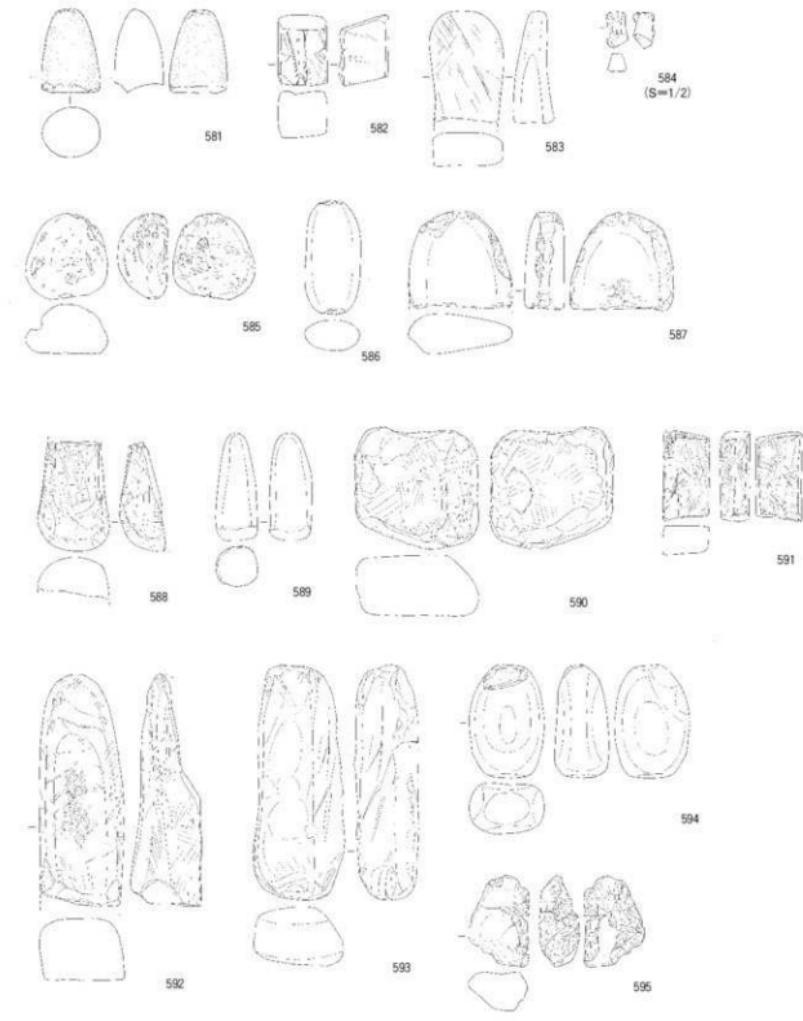
第41図 SD 出土木製品実測図 (S=1/3)



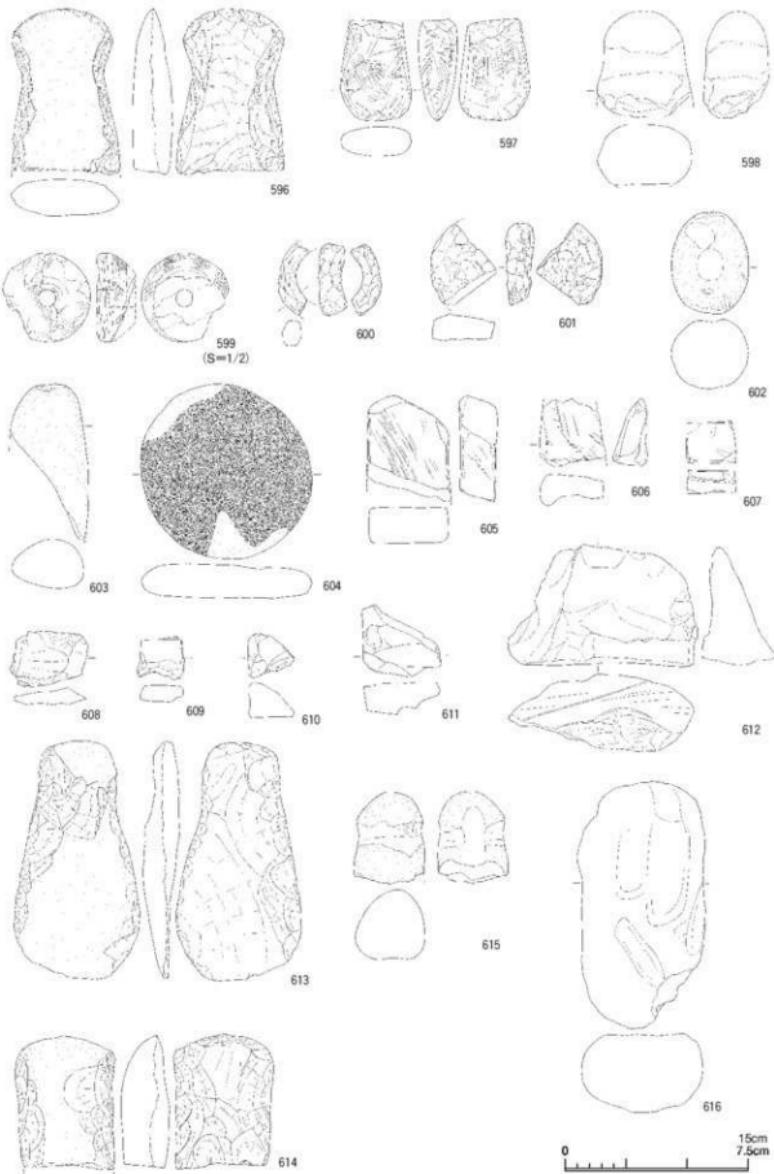
第42図 SD出土木製品実測図 (S=1/3, 1/6)



第43図 SD出土木製品実測図 (S=1/3, 1/6)



第44図 SE・SK・SD出土石製品実測図 (S=1/2、1/4)



第45図 SD 出土石製品実測図 ($S=1/2, 1/4$)

第3章 総括

第1節 3区についてのまとめ

弥生時代末～古墳時代初頭

この時期の遺構は、SE202、SE203、SX211、SD201、SD222などがある。建物関連の明確な遺構はなく、平成14年度に調査を行った寺中B遺跡・桂寺中遺跡で弥生時代終末の竪穴建物や掘立柱建物などが確認された集落の南東端と考えられる。

古墳時代

建物関連ではST01から古墳時代初頭の遺物が出土している。井戸では古墳時代初頭のSE206、古墳時代前期のSE205、SE208、土坑では古墳時代前期末～中期頃の土器が出土したSK226、溝ではSD201、SD222などである。しかし、集落の中心となるような建物跡は未検出である。平成14年度調査区では竪穴建物や掘立柱建物などが検出されており、さらに平成16年度に調査を行った、3区より西に位置する西調査区からも古墳時代の掘立柱建物や布堀建物、平地式建物跡が検出されていることから、古墳時代においても3区はSD201を東端とする集落の外れに位置すると考えられる。

古代

SE201、SE204、SK208、SK211、SD201、SD222などの遺構が該当する。平成14年度調査区で建物跡や庇付建物が1棟、区画溝などが検出されていることから集落の東端になると想定される。

SD201は石川県調査区から続く古代の河道跡であるが、3区で出土した墨書き土器は2区よりも少なくなっている、4区に入ると極少量となる。SD222出土の權状錘の出土から考えて、11世紀後半頃においても權を使用する機関が存在していたと想定される。

中世

SD202、SD222などがある。SD202は平成16年度調査区の東調査区でも検出されているので、区画溝のような性格であったのかもしれない。その他は明確な遺構は検出されていないが、SD222出土の白磁や珠洲焼などの陶磁器類をはじめとする土師器皿・金属製品など様々な生活用品の出土から平成14年度調査区で検出されている掘立柱建物などがある集落の南東端と想定できよう。

まとめ

3区は各時期をとおして平成14年度調査区で見つかった集落の縁辺部であったと推定される。弥生時代末～奈良・平安時代にかけてはSD201沿いに井戸が多く掘削されている。川近くの低い土地のはうが帶水層まで近く、掘削作業が容易だったのかもしれない。出土遺物から見るとSD201・SD222・SE204から舟形が出土しているので、水辺の祭祀を行っていたと考えられる。また、漁撈具としてSE206（古墳時代前期頃）からヤスが出土している。ヤスは小型の刺突具で柄に装着し使用する。アゲ（かえり）があることから中型魚を捕獲する際に使用したと考えられる。川で漁をするときに使用したのであろう。SD222からヤマトシジミの殻に混ざってコタマガイという海辺で採取される貝が出土していることから、弥生末～中世にかけて畠田・寺中遺跡では海や川の貝を食べ、出土した骨からウシやウマ、イヌなどの動物が身近にいたことがうかがわれる。SD201の底からは大量の土器の細片が出土していることから、廃棄の場であったと考えられる。

以上が3区についての概要である。今後、2区の未報告部分、3区の北にある4区・5区、東西にある東調査区や西調査区の報告を順次行う予定である。

第2節 墨書き土器について

第4分冊と第5分冊で報告した墨書き土器を、文字毎に出土遺構、器種別に分類した。合計141点を数える。

袋文字の「人」が48%を占め、次いで「平」、「卅」の5%が続く。圧倒的に袋文字の「人」が多いことが伺える。

袋文字とは文字の輪郭だけを書いた白抜き文字のことである。現在では文字を強調するために使用することが多いが、古代においてどういう意図で使用したのかは不明である。また、出土点数も68点と多いが、なぜ画数が倍になる袋文字を使用したのかも疑問が残る。

袋文字の「人」が67点、袋文字の「大」が2点出土しているが、出土地点をみると、すべて2区に集中している。

その他は「平」と「卅」が7点、「工」が5点、「大」が4点、「文」と「津司」が3点、「井」・「牛」・「津」・「五戸」・「得」・「古人」が2点、「人」・「中」・「東」・「徳」・「公」・「主□ 秋女」・「荒田」・「中河」・「山田」・「女」・「大刀自」・「□刀女」

・「遊名安カ」・「安カ」が各1点、その他判読不明が16点出土した。

器種別に墨書きが書かれている割合をみてみると、無台坏が53%と一番多い。次いで有台坏の28%、蓋の17%、盤の2%と続く。

出土地区でみると、およそ89.3%を2区が占め、3区8.5%、1区1.4%、4区0.7%となる。2区で出土する墨書き土器量が圧倒的に多いことが伺える。石川県調査区で報告されている、旧河道を中心とする75棟の掘立柱建物を管理する古代加賀郡の加賀郡津と想定される関連施設の一部が2区周辺にもあり、施設を管理する役人が墨書き土器を使用したり廃棄したりしたのではないかと考えられる。

第2表 紫田・寺中遺跡墨書き土器一覧

墨書き	通横	有台坏	無台坏	蓋	盤	小計	合計
人(袋文字)	2区 SD240	6	13	1		20	
	2区 SD303	16	13	14	1	44	67
	2区 SD222	1		1		2	
	2区 P20			1		1	
大(袋文字)	2区 SD303		2			2	2
	2区 SD240	1				1	
人	2区 SD240	1				1	1
2区 SD240		1				1	
工	2区 SD303	1	1	1	1	4	6
井	1区 合含層		1			1	
2区 SD303	1	1				2	2
文	2区 SD240		1			1	
2区 SD303		1	1			2	3
牛	2区 SD303		2			2	2
2区 SD240	1					1	
津	4区 大河跡	1				1	2
司	2区 SD303		2	1		3	3
2区 SD240		1				1	
大	2区 P20	1				1	
	2区 SD303		1			1	
	3区 SD201	1				1	
中	3区 SD201		1			1	1
平	2区 SD240	4	1			5	
	2区 SD303	1	1			2	
	2区 SD240	1	3			4	
井	2区 SD303		2			2	
	3区 SD201	1				1	
東	3区 SD201		1			1	1
五戸	2区 SD244			2		2	2
徳	1区 SD220		1			1	1
	2区 SD303		1			1	
得	3区 SD201		1			1	2
公	2区 SD240		1			1	1
吉(右カ)人	2区 SD240		2			2	2
主□ 秋女	2区 SD303		1			1	1
荒田	3区 SD201		1			1	1
中河	2区 SD303			1		1	1
山田	2区 SD303		1			1	1
女	2区 SD240		1			1	1
大刀自	2区 SD240		1			1	
□刀女	2区 SD240		1			1	1
遊名安カ	2区 SD240		1			1	1
安カ	2区 SD240	1				1	1
	2区 SD240	1	1	1		3	
不明	2区 SD244		1			1	
	2区 SD303	4	2			6	
	3区 SD201	2	3	1		6	
合	計	40	74	25	2	141	141

H15年度歓田・寺中遺跡出土遺物観察表

番号	通構	器種	法 量	道存 合	出土 合	調 査	調 査			色 調		産地	備 考	実測 番号		
							口径 底高 縦横 厚	斜径 底径 厚	口部外 面	脇部外 面	脇部内 面	底部外 面	底部内 面			
1	Ⅳ区 P202	土器 小口盤 裏	117 (77)	98 (19)	94 (9)	口12	○△△	△	ハケ ナデ	ハケ ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	法灰褐色 法灰褐色	F11	
2	Ⅳ区 P211	土器 裏	187 (51)			口1	○△	△	ナデ	ハケ	ナデ	ケズリ	法灰褐色 法灰褐色	F9		
3	Ⅳ区 P214	土器 裏	/33			△			マダツ		マダツ	マダツ	マダツ	法棕褐色 法灰褐色 法灰褐色	F10	
4	Ⅳ区 P224	土器 裏	(77)	114	底3	○△△			マメツ		マメツ	マメツ	マメツ	法灰褐色 法灰褐色	F8	
5	Ⅳ区 SE201	土器 裏	156 (80)	160		口1	○△	△	ナデ	カキメ	ナデ	ヘラケズリ	ナデ	法灰褐色 法灰褐色	T8	
6	Ⅳ区 SE201	土器 裏	128 (73)	40		口3	○△△	△	ハケ後ナデ	ハケ	ハケ後ナデ	ヘラケズリ 後ナデ	ナデ	法灰褐色 法灰褐色	外表面付着 T7	
7	Ⅳ区 SE201	土器 裏	146 (47)			口2	△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ナデ	灰 褐色	内外面付着 T307	
8	Ⅳ区 SE201	土器 裏	118 (33)	80		口1	○△	△	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ナデ	灰白 灰白	T6	
9	Ⅳ区 SE202	珠系 裏	220 (48)			口3	△△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	タタキ	ナデ	法灰褐色 法灰褐色	T9	
10	Ⅳ区 SE202	珠系 裏	142 (60)	160 (54)		口5	△△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ナデ			T11
11	Ⅳ区 SE203	土器 裏	100 (168)	164 (22)	68	口12	○○△	△	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ナデ	ナデ	法灰褐色 法灰褐色	外表面付着 T2	
12	Ⅳ区 SE203	土器 裏	100 (155)	151 (34)	75	口12	○△	△	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラケズリ ナデ	ナデ	法棕褐色 法棕褐色	外表面赤褐色 黑褐 T1	
13	Ⅳ区 SE203	土器 裏	(100)	150	75	底5	○○		ハケ後 ヘラミガキ	ハケ後 ヘラミガキ	ハケ後 ヘラミガキ	ナデ	ハケ	内表面指印痕 T3		
14	Ⅳ区 SE203	土器 裏	118 (77)	135	106	口5	○△	△	ナデ	ハケ	ナデ	ケズリ	ナデ	法灰褐色 法灰褐色	外表面付着 T205	
15	Ⅳ区 SE203	土器 裏	(63)		26	底12	○○		ハケ		ナデ	ケズリ	ナデ	法灰褐色 法灰褐色	外表面付着 T128	
16	Ⅳ区 SE203	土器 裏	182 (177)	217	158	口4	○○	△	泥留跡3本 ナデ	ハケ	ナデ	ハケ ケズリ	ナデ	法灰褐色 法灰褐色	外表面付着 T26	
17	Ⅳ区 SE203	土器 裏	178 (55)			口4	○△	△	泥留跡3本 ナデ	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	ヘラケズリ	ナデ	法白褐色 法灰褐色	外表面付着 T4	
18	Ⅳ区 SE203	土器 裏	179 (235)	200 (30)	151	口12	○△	△	泥留跡3本 ナデ	ナデ	ハケ	ヘラケズリ	ナデ	法灰褐色 法灰褐色	外表面スッペル化物 付着 外表面指印痕 T5	
19	Ⅳ区 SE203	土器 裏	166 (213)	183 (28)	136	口11	○△△	△	泥留跡3本 ナデ	ハケ	ナデ	ハケ ケズリ	ナデ	法棕褐色 法棕褐色	外表面斑点 F227	
20	Ⅳ区 SE203	土器 裏	160 (243)	196 (18)	132	口12	○△	△	泥留跡3本 ナデ	ハケ	ナデ	ハケ ケズリ	ナデ	法黄褐色 法黄褐色	外表面付着 E127	
21	Ⅳ区 SE203	土器 裏	154 (209)	180 (14)	140	口8	○○		ナデ	ハケメ	ナデ	ハケメ ケズリ	ナデ	法黄褐色 法黄褐色	外表面付着 E126	
22	Ⅳ区 SE203	土器 裏	160 (210)	175 (24)	131	口8	○△		泥留跡3本 ナデ	ハケ	ナデ	ケズリ	ナデ	法灰褐色 法灰褐色	外表面スッペル化物 白腐蝕 白腐蝕 土白 内表面凹凸凹入 T308	
23	Ⅳ区 SE204	器物 鉢	56 (26)		底2											
24	Ⅳ区 SE204	打頭器	138 (19)	80	口1△				ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	法灰褐色 法灰褐色	T10	
25	Ⅳ区 SE204	不明 器品	(34)			△			ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	内表面油迹 油迹	T309	
26	Ⅳ区 SE204	輪の口部	長 幅 厚	38	20 27.2											
27	Ⅳ区 SE205	土器 裏	176 (44)		83	口1	○△△	△	ハケ後ナデ キサツ	ナデ	ハケ	ナデ	ナデ	法灰褐色 法灰褐色	EE3	
28	Ⅳ区 SE205	土器 裏	165 (38)		144	口2	△○○	△	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ハケ	ナデ	法灰褐色 法灰褐色	EE1	
29	Ⅳ区 SE205	土器 裏	162 (48)		139	口1	○○○	△	ナデ	ハケ	ハケ後ナデ	ハケ	ナデ	外表面縁部にスッペル化物 付着	EE2	
30	Ⅳ区 SE205	土器 裏	(241)	240	31	底12	○△△	△	ハケ	ハケ	ナデ	ナデ	ナデ	外表面スッペル化物 内表面工具 底面も一部スッペル化物	E15	
31	Ⅳ区 SE205	土器 裏	82 (47)		35	口5	○△△	△	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ケズリ	ナデ	法核黄褐色 法核黄褐色 法核黄褐色 透かし穴3箇所	EE4	
32	Ⅳ区 SE206	土器 裏	86 (140)	124	82	口5	○○○		ナデ	グンシ後 ナデ	ナデ	横ナデ	ナデ	黄褐色 黄褐色	外表面斑点 TM119	
33	Ⅳ区 SE206	土器 裏	102 (202)	167 (40)	88	口6	○○○○		ナデ	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	ナデ	法黄褐色 法黄褐色	内表面斑点 TM115	
35	Ⅳ区 SE206	土器 裏	158 (132)		138	口3	○△△	○	ナデ	ハケ	ナデ	ハケ	ナデ	法核灰褐色 法核灰褐色	S45	
36	Ⅳ区 SE206	土器 裏	146 (202)	202 (24)	24	底12	○△△	△	ハケ	ハケ	ナデ	ナデ	ナデ	法黄褐色 法黄褐色	外表面斑点 TM114	
37	Ⅳ区 SE206	土器 裏	90 (61)		9	○○○○			ハケ後 ヘラミガキ		ヘラミガキ		ナデ	法核灰褐色 法核灰褐色	TM112	
38	Ⅳ区 SE206	土器 裏	112 (182)	135 (23)	71	口9	○○		ハケ後 ヘラミガキ	ハケ後 ヘラミガキ	ハケ後 ヘラミガキ	ハケ後ナデ	ナデ	法核灰褐色 法核灰褐色	外表面斑点 TM118	
39	Ⅳ区 SE206	土器 裏	192 (54)		154	口1	○△	△	泥留跡5本 ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	法核灰褐色 法核灰褐色	S50	
40	Ⅳ区 SE206	土器 裏	174 (42)		148	口1	○△	△	泥留跡5本 ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	法核灰褐色 法核灰褐色	S49	
41	Ⅳ区 SE206	土器 裏	168 (56)		144	口3	○○○	○	ナデ	ハケ	ナデ	ヘラケズリ	ナデ	法灰褐色 法灰褐色	外表面一部斑点有 S48	
42	Ⅳ区 SE206	土器 裏	204 (50)		176	口7	○△△	△	ナデ	ハケ	ナデ	ハケ	ナデ	法核灰褐色 法核灰褐色	S48	
43	Ⅳ区 SE206	土器 裏	176 (38)		160	口1	○△△	△	ナデ	ハケ	ナデ	ハケ ケズリ	ナデ	外表面付着 S44		
44	Ⅳ区 SE206	土器 裏	(64)	34	底6	○△			ハケ	ハケ	ナデ	ナデ	ナデ	法核灰褐色 法核灰褐色	S51	
45	Ⅳ区 SE206	土器 裏	156 (215)	57	底12	○○○			ハケ	ハケ後ナデ	ハケ	ハケ	ナデ	法黄褐色 法黄褐色	外表面付着 内表面斑点 TM117	
46	Ⅳ区 SE206	土器 裏	(53)	24	底12	△△			ハケ	ハケ	ハケ	ハケ	ハケ	法核灰褐色 法核灰褐色	S52	
47	Ⅳ区 SE206	土器 裏	(52)	40	○○△△				ナデ	ハケ	ナデ	ナデ	ナデ	法核灰褐色 法核灰褐色	S47	
48	Ⅳ区 SE206	土器 裏	(49)	96	54	脚11	○○○	△	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ナデ	赤褐色 灰褐色	S46	
49	Ⅳ区 SE206	土器 裏	(49)	85	86	口12	○○△	△	ハケ後ナデ	ハケ	ナデ	ナデ	ナデ	法核灰褐色 法核灰褐色	S48	
50	Ⅳ区 SE206	台付	109 (114)	105 (108)	85	口12	○○△	△	ハケ後ナデ	キサツ	ナデ	ナデ	ナデ	法核灰褐色 法核灰褐色	S48	

H15年度畠田・寺中遺跡出土器物観察表

番号	名称	法量		済存	出土	後	部屋		壁	色調		床地	備考	管理番号
		品目	口径	高さ	耕野	鉢底	鉢外縁	鉢内面	鉢外面	内面	外側			
51	直区 土師器 鉢	136	(81)	106	6	○ □ △ ▲	ナデ	ミガキ ハラメキ ミガキ	ハラメキ ナデ	ナデ	ナシ	内面一部黒斑有	BH 3	
52	直区 土師器 鉢	(56)	50	透12	○ □ △	△	ハラメキ ハラメキ ミガキ	ハラメキ ナデ	カゴメテ ナラタケテ ハラメキ	カゴメテ ナラタケテ ハラメキ	内面	内面茶葉	TM122	
53	直区 土師器 鉢	150	(48)	125	□ 4	○ ○ ○	開口縁7条	ナデ	ハラメキ	ナデ	ナシ	内面スズ付茶 口縁内面底面紅斑	TM123	
54	直区 土師器 鉢	158	(43)	124	□ 2	○ △ ▲	開口縁7条	ナデ	ナデ ハラメキ	ナデ	ナシ	内面スズ付茶 口縁内面底面紅斑	SH 1	
55	直区 土師器 鉢	(178)	242	40	透12	○ □ ○	△	ハラメキ	ナデ	ナデ	ナシ	内面指揮棒有	TM125	
56	直区 土師器 鉢	138	(119)	170	119	□ 2	○ ○ ○	ナデ	ハラメキ	ナデ	ナシ	内面指揮棒有	TM124	
57	直区 土師器 鉢	170	(46)	148	2	○ ○ △	△	ナデ ハラメキ	ナデ	ナシ	ナシ	内面指揮棒有	SH 2	
58	直区 土師器 鉢	(137)	65	○ ○ ○	○ ○ ○	△	△	ハラメキ ハラメキ	ナデ ハラメキ	ナシ	ナシ	内面スズ付茶 口縁内面底面紅斑	TM121	
59	直区 土師器 鉢	(49)	60	透12	○ □ ○	△	△	ハラメキナデ	ハラメキナデ	ナシ	ナシ	内面茶葉	TM120	
60	直区 土師器 鉢	98	(66)	104	口 3	○ △ □	△	マツブ ミガキ	マツブ ミガキ	マツブ ミガキ	ナシ	内面スズ付茶 口縁内面底面紅斑	SH 4	
61	直区 土師器 鉢	(134)	36	△ △	△	△	△	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ナシ	内面茶葉 底かし↓黒斑有	SH 7	
62	直区 土師器 鉢	156	(92)	口 7	○ ○ △	△	△	ハラメキ ミガキ	ナデ	ミガキ ナデ	ナシ	内面茶葉 底かし↓黒斑有	SH 5	
63	直区 土師器 鉢	(80)	33	△ △ △	△ △	△	△	ミガキ	ナデ	ナシ	ナシ	内面茶葉 底かし↓黒斑有	SH 6	
64	直区 陶器 無柄台	114	34	74	□ 2	△ ▲	口ロコナ	ロコナ	ロコナ	ロコナ	ナシ	口縁部黒ねじき痕 口縁部黒ねじき痕	HK 8	
65	直区 陶器 無柄台	131	30	82	□ 2	△ ○	口ロコナ	ロコナ	ロコナ	ロコナ	ナシ	口縁部黒ねじき痕 口縁部黒ねじき痕	HK 9	
66	直区 陶器 無柄台	134	31	90	□ 2	○ ○	ロコナ	ロコナ	ロコナ	ロコナ	ナシ	口縁部黒ねじき痕 口縁部黒ねじき痕	HK 7	
67	直区 陶器 無柄台	152	47	60	□ 9	△ △ ▲	△	ナデ	ナデ	ナシ	ナシ	内輪赤切端	HK 2	
68	直区 土師器 鉢	144	45	64	底7	○ ○	△	ナデ	ナデ	ナシ	ナシ	内輪赤切端	HK 3	
69	直区 土師器 鉢	154	45	52	口11	△	△	ナデ	ナデ	ナシ	ナシ	内輪赤切端	HK 1	
70	直区 土師器 鉢	(25)	63	底7	○ ○ □	△	△	ナデ	ナシ	ナシ	ナシ	内輪赤切端	HK 4	
71	直区 内輪 白磁	135	(43)	43	口 3	△	△	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	内輪白磁	HK 5	
72	直区 白磁 鉢	154	(32)	口2	△	△	△	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	白磁白	HK 6	
73	直区 土師器 鉢	長63 厚33	△	△	△	△	△	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	内輪白磁	HK 10	
74	直区 土師器 鉢	95	24	44	口7	○ ○	△	横ナデ	横ナデ	横ナデ	ナシ	内輪赤切端	HK 15	
75	直区 土師器 鉢	(11)	48	底3	△	△	△	ナデ	ナシ	ナシ	ナシ	内輪赤切端	HK 13	
76	直区 土師器 鉢	87	(17)	口2	○ ○	△	△	ナデ	ナシ	ナシ	ナシ	内輪赤切端	HK 14	
77	直区 土師器 鉢	(31)	89	底6	△ △	△	△	ナデ	ナシ	ナシ	ナシ	内輪赤切端 ナシ	HK 12	
78	直区 土師器 鉢	170	(32)	口1	○ ○	△	△	ナデ	ナシ	ナシ	ナシ	内輪赤切端	HK 16	
79	直区 土師器 鉢	170	(32)	口1	○ ○	△	△	ナデ	ナシ	ナシ	ナシ	内輪赤切端	HK 17	
80	直区 無孔玉 鉢	無孔玉 鉢	22	20	△	△	△	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	内輪赤切端	HK 19	
81	直区 陶器 桂枝形	徑 高さ 34.5 (24)	34.5 (24)	透12	○ ○ ○	△	△	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	内輪5 mm 重量15g	A10	
82	直区 土師器 鉢	176	(205)	210	口1	○ ○	△ ▲	△	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	内輪赤切端	T18
83	直区 土師器 鉢	153	(100)	100	口3	○ ○ ○	○	ナデ	ナシ	ナシ	ナシ	内輪赤切端	T17	
84	直区 土師器 鉢	188	(54)	100	口2	○ ○	△	マツブ	マツブ	マツブ	マツブ	内輪赤切端	T20	
85	直区 土師器 鉢	150	(88)	88	口3	○ ○	△	ナデ	ナシ	ナシ	ナシ	内輪赤切端	T19	
86	直区 土師器 鉢	164	(60)	136	□ 2	○ △	△	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	内輪赤切端	T15	
87	直区 土師器 鉢	138	(93)	100	□ 2	○ △	△	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	内輪赤切端	T16	
88	直区 土師器 鉢	144	(60)	100	□ 8	○ △	△	ハラメキ ミガキ ミガキ	ハラメキ ミガキ ミガキ	ハラメキ ナシ	ナシ	内輪赤切端	T22	
89	直区 土師器 鉢	(73)	110	底6	△ □	△	△	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	内輪赤切端	T25	
90	直区 土師器 鉢	(89)	98	透12	○ ○ ○	○	△	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	内輪赤切端	T26	
91	直区 土師器 鉢	(90)	108	底1	○ ○ △	△	△	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	内輪赤切端	T24	
92	直区 土師器 鉢	(61)	48	透12	○ ○	△	△	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	内輪赤切端	T23	
93	直区 陶器 桂枝形	102	(50)	50	口1	△	△	ロコナ	ロコナ	ロコナ	ナシ	内輪赤切端	T13	
94	直区 土師器 鉢	295	(117)	291	口3	○ ○	△	開口縁7条 ナシ	ミガキ ナシ	ミガキ ナシ	ナシ	内輪茶葉	F25	
95	直区 土師器 鉢	318	(73)	278	□ 2	○ ○ ○	○	開口縁7条 ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	内輪茶葉	口縁部内面に指揮 棒有	
96	直区 土師器 鉢	344	(102)	308	□ 1	○ ○ ○	○	開口縁7条 ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	内輪茶葉	口縁部内面に指揮 棒有	
97	直区 土師器 鉢	214	(60)	177	□ 2	○ ○ △	△	開口縁7条 ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	内輪茶葉付 口縁部内面に指揮 棒有	F24	
98	直区 土師器 鉢	190	(56)	140	□ 2	○ ○ ○	△	開口縁7条 ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	内輪茶葉付 口縁部内面に指揮 棒有	F21	
99	直区 土師器 鉢	162	(60)	142	□ 4	○ ○ △	△	開口縁7条 ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	内輪茶葉付 口縁部内面に指揮 棒有	F23	
100	直区 土師器 鉢	144	(56)	119	□ 2	○ ○ △	△	開口縁7条 ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	内輪茶葉付 口縁部内面に指揮 棒有	F22	

H15年度歓田・寺中遺跡出土遺物観察表

番号	名称	法 量	遺存 状況	出土 品種	地 位	調 査 部				色 調	産 地	備 考	管 理 番 号
						口縁外面	底部外面	底部内面	側面部外				
102	単区 土器底	176 (61)	148 口 1 ○	○	ナデ	ハケ	ナデ	ナデ	淡灰褐色				F15
103	単区 土器底	225 (55)	173 口 2 ○ △	△	ナデ	ハケ	ナデ	ナデ	灰褐色	灰褐色			F31
104	単区 土器底	236 (48)	183 口 2 ○ △ ○ △	△	ナデ	ハケ	ナデ	ハケ	淡黄灰褐色	淡黄灰褐色			F29
105	単区 土器底	222 (95)	193 口 2 ○	○	ナデ	ハケ	ハケ後ナデ	ナデ	淡黄灰褐色	淡黄灰褐色			F30
106	単区 土器底	200 (80)	164 口 1 ○ ○	○	ナデ	ハケ	ナデ	ケズリ	灰褐色	灰褐色			F26
107	単区 土器底	173 (137)	154 口 2 ○ ○ △	△	ナデ	ハケ	ナデ	ハケ ナデ ケズリ	淡灰褐色	淡灰褐色			F33
108	単区 土器底	195 (80)	162 口 2 △ △	△	ハケ後ナデ	ハケ	ハケ	ハケ	灰褐色	灰褐色			F32
109	単区 土器底	129 (48)	86 口 3 ○ △ △	△	ミガキ	ナデ	ナデ	ナデ	淡灰褐色	淡灰褐色			F14
110	単区 土器底	170 (59)	107 口 2 ○ △ ○	○	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	淡黄灰褐色	淡黄灰褐色			F18
111	単区 土器底	222 (71)	177 口 1 ○	○	ナデ	ハケ	ナデ	ナデ	細粒褐色	黑	内面黒斑有		F19
112	単区 土器底	109 (52)	90 ○ 4 ○ △ ○	△	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	淡灰褐色	淡灰褐色			F13
113	単区 土器底	156 (53)	103 口 3 ○ △ ○ ○ ○	○ ○	ナデ	ハケ	ナデ	ナデ	淡灰褐色	淡灰褐色			F16
114	単区 土器底	84 (62)	63 口 8 ○ ○ ○ ○	○ ○ ○	ミガキ	ナデ	ナデ	ナデ	淡灰褐色	淡灰褐色			F12
115	単区 土器底	63 (63)	106 ○ △ △ △	△	ハケ	ナデ	ハケ	ケズリ	淡黄灰褐色	淡黄灰褐色			F20
116	単区 土器底	(40)	39 20 席12 ○ ○	○ ○	マツリ	ナデ	ナデ	ナデ	淡反黃	淡反黃			EEO9
117	単区 土器底	(44)	90 直5 ○	○	ハケ後ナデ	ハケ	ナデ	ナデ	褐	褐	内面黒斑有 外面部付有		EE105
118	単区 土器底	(68)	96 60 直2 ○	○	ハケ	ハケ	ハケ	ハケ	褐	褐	内面部付有		EE91
119	単区 土器底	236 (52)	口1 △ △ △ △	△	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	灰褐色	桃灰褐色	外面部有 - 淡綠 内面有 - 深綠		F17
120	単・合 土器底	(45)	90 45 直11 ○	○	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	淡灰黃	淡灰黃			EE104
121	単区 土器底	96 (50)	42 口1 ○ △	△	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ケズリ	淡灰黃	淡灰黃			EEO17
122	単区 土器底	(23) 177	△ △ △	△	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	淡桃灰褐色	淡桃灰褐色	内面ややマツリ 外面部付有		EEO12
123	単区 土器底	(27) 152	○ △	△	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	淡桃灰褐色	淡桃灰褐色	内面淡綠 - 深綠 外面部有 - 深綠		EEO13
124	単区 土器底	94 (64)	40 口2 ○	○	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ケズリ	淡灰黃	淡赤灰	内面ややマツリ		EEO16
125	単区 土器底	196 (28)	直1 ○ ○	○ ○	ナデ	ハケ	ナデ	ナデ	暗黃褐色	暗黃褐色	内面底部付有 外面部付有		EEO10
126	単区 土器底	180 (14)	直1 △	△	グンゼ ギンゼ	ナデ	ナデ	ナデ	黑	黑	内面底部付有 外面部付有		EEO101
127	単区 土器底	254 (50)	口1 ○	○	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	淡褐色	淡褐色	内面淡綠 - 深綠 外面部付有		EEO99
128	単区 土器底	154 (50)	口3 △ ○ △	○ △	ナデ	ケズリ後 ナデ	ナデ	ナデ	淡橙褐色	淡橙褐色	内面淡綠 - 深綠		EEO98
129	単区 土器底	(64)	40 頸12 △	△	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	ナデ	ナデ	黄灰褐色	黄灰褐色	外面部有		EEO96
130	単区 土器底	(90)	143 追3 △	△	ミガキ ナデ	ミガキ ナデ	ミガキ ナデ	ミガキ ナデ	淡黄灰 淡桃	淡黄灰 淡桃	透(六.六三編残存 六.六五編残存 六.六三 mm)		EEO92
131	単区 土器底	(81)	34 頸12 △	△	ハケ後 ミガキ	ミガキ	ミガキ	ケズリ	淡褐色	淡桃褐色	透(六.六三編残存 六.六五編残存 六.六三 mm)		EEO95
132	単区 土器底	(63)	27 頸12 ○ △	△	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ケズリ	淡黄桃 淡桃	淡黄桃 淡桃	透(六.六四三編 六.六四四編 六.六二mm)		EEO97
133	単区 土器底	(59)	106 追7 ○ △	△	ミガキ ナデ	ミガキ ナデ	ミガキ ナデ	ケズリ	淡桃褐色	淡桃褐色	内面部黒斑		EEO94
134	単区 土器底	(37)	78 37 追9 △ ○	○ ○	ハケ	ハケ	ハケ	ハケ	淡桃褐色	淡桃褐色	内面部付有		EEO89
135	単区 土器底	(74)	133 追3 △	△	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ケズリ ハケ	淡桃褐色	淡桃褐色	内面部淡綠 外面部淡綠		EEO93
136	単区 土器底	304 (77)	口2 ○ △ △	△	ハケ ナデ	ハケ ナデ	ナデ	ハケ	淡反褐色	淡反褐色	内面部接合部有 スズ付有		F34
137	単区 土器底	(42)	32 底4 △	△	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ナデ	黄橙褐色	黄橙褐色	内面指標庄重		EEO84
138	単区 土器底	110 63	フリ2 27	○ ○	マツリ ミガキ	マツリ ミガキ	マツリ ミガキ	マツリ ミガキ	黄褐色	淡黄褐色			EEO82
139	単区 土器底	96 37	フリ2 29 29	○ ○	ナデ	ハケ ナデ ケズリ	ナデ	ハケ後ナデ	淡灰褐色	淡灰褐色	便け口に 1 カ所ス ズ付有		EEO80
140	単区 土器底	(23)	フリ2 29 15	△ △ △	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	淡桃褐色	淡桃褐色	内面部淡綠		EEO81
141	単区 土器底	48 50	1 口1 △	△	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	淡灰褐色	淡灰褐色			EEO83
142	単区 土器底	51 36	30 口1 △ △	△	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	褐	褐	内面部淡綠 内面指標庄重		EEO85
143	単区 土器底	66 40	44 口2 △ △	△	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	淡灰褐色	淡灰褐色	内面部淡綠 内面指標庄重		EEO88
144	単区 土器底	(33)	36 追12 △ ○ △	○ ○	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	淡灰褐色	淡灰褐色			EEO86
145	単区 土器底	(32)	49 底12 ○ △	△	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	淡灰褐色	淡灰褐色			EEO87
146	単区 土器底	109 (52)	61 口2 ○ △	△	ナデ	ナデ ケズリ	ナデ	ナデ	淡灰褐色	淡灰褐色			F56
147	単区 土器底	144 (53)	77 口4 ○ △	△	ナデ	ナデ ケズリ	ナデ	ナデ	褐灰	褐灰			F58
148	単区 土器底	136 (44)	68 口1 △	△	ナデ	ナデ ケズリ	ナデ	ナデ	褐	褐			F54
149	単区 土器底	148 (36)	50 ○ △	△	ナデ	ナデ ケズリ	ナデ	ナデ	淡灰	淡灰			F59
150	単区 土器底	151 (41)	口4 ○	○	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	褐	褐			F53
151	単区 土器底	149 (30)	88 口5 ○	○	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	灰	灰	天井部外壁へラ切 ・ヘラ起こし		F55

H15年度歓田・寺中遺跡出土遺物観察表

番号	構造	基盤	法量			遺存 状況	出土 状況	調 査			色調		産地	備考	実測 番号
			口径	底高	側径			口縁外面	肩部外面	口縁内面	肩部内面	外部外面	内部内面		
152	三区 S0201	直筒 筒	96	(44)	口1 ○			ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	緑灰	緑灰		F48
153	三区 S0201	直筒 筒	108	(52)	65	口1 ○		ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	緑灰	灰		F50
154	三区 S0201	直筒 筒	110	(47)		口3 △		ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	灰	灰		F45
155	三区 S0201	直筒 筒	112	51	63	口1 ○		ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	灰	緑灰	緑灰有	F51
156	三区 S0201	直筒 筒	122	(48)		口5 △		ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	緑灰	緑灰		F44
157	三区 S0201	直筒 筒	112	52	78	口2 ○		ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	灰白	緑灰		F42
158	三区 S0201	直筒 筒	109	(40)	80	口2 ○ △		ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	緑灰	皮		F49
159	三区 S0201	直筒 筒	129	(38)	74	口5 △ △		ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	緑灰	緑灰		F41
160	三区 S0201	直筒 筒	109	(35)	62	口5 △		ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	緑灰	皮		F47
161	三区 S0201	直筒 筒	116	42	75	口3 △ △ △		ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	白灰	白灰	緑灰有	F46
162	三区 S0201	直筒 筒	114	34	70	口3 ○		ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	反	反	外表面	F52
163	三区 S0201	直筒 筒	132	43	80	口2 △		ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	緑灰	緑灰		F43
164	三区 S0201	直筒 筒	120	40	97	口7 ○ △		ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	灰	灰	口縁部裏ね焼き模	S129
165	三区 S0201	直筒 筒	116	39	80	口2 ○ △		ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	灰	灰	口縁部裏ね焼き模	S126
166	三区 S0201	直筒 筒	114	40	76	底6 ○ △		ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	白灰	灰	口縁部裏ね焼き模	S142
167	三区 S0201	直筒 筒			86	底6 △		ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	白灰	灰		S144
168	三区 S0201	直筒 筒	126	31	92	口3 △		ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	灰白	灰白	外表面付裏	S134
169	三区 S0201	直筒 筒		94		口3 ○ △		ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	灰	灰	底面部裏	S139
170	三区 S0201	直筒 筒		90	底12 △	△		ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	白灰	白灰		S132
171	三区 S0201	直筒 筒	106	33	78	口4 △		ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	灰	灰	内底面部	S135
172	三区 S0201	直筒 筒	122	34	80	口1 ○ △		ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	灰	灰	内底面部裏付裏 内底部灰色付	S140
173	三区 S0201	直筒 筒	118	31	74	口1 ○		ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	白灰	白灰	口縁部及ぶ内面に 重ね焼き模有 くわれ有	S141
174	三区 S0201	直筒 筒	122	35	90	口4 △ △		ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	灰	灰	口縁部裏ね焼き模	S136
175	三区 S0201	直筒 筒	134	34	95	口12 △ △		ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	濃灰	濃灰	口縁部裏ね焼き模	S127
176	三区 S0201	直筒 筒	118	37	90	口9 △ △		ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	灰白	灰白	口縁部裏ね焼き模 口縁部打灰有	S131
177	三区 S0201	直筒 筒	116	33	90	底12 △ △		ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	灰	灰		S133
178	三区 S0201	直筒 筒	132	33	110	口3 ○ △		ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	灰	灰	口縁部裏ね焼き模 重ね焼き模有	S143
179	三区 S0201	直筒 筒	140	38	104	口8 △ △		ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	濃灰	濃灰	口縁部裏ね焼き模	S128
180	三区 S0201	直筒 筒	146	34	114	口2 △ △		ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	白灰	白灰	内底面部裏付裏 内底部灰色付	S138
181	三区 S0201	直筒 筒	130	36	96	口3 ○ △		ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	灰	灰		S137
182	三区 S0201	直筒 筒			116	底9 ○ △		ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	灰	灰		S145
183	三区 S0201	直筒 筒	140	41	97	口9 ○ △		ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	灰	灰	内底面部及ぶ外表面 倒伏有 口縁部打灰有	S124
184	三区 S0201	直筒 筒	136	45	94	口7 △ △		ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	灰	灰	口縁部打灰有	S120
185	三区 S0201	直筒 筒	142	40	92	口1 △ △		ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	灰	灰	内底面部裏付裏 ナテ有り	S123
186	三区 S0201	直筒 筒	166	45	116	口2 △		ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	自然灰	灰		S118
187	三区 S0201	直筒 筒	92	42	56	口1 ○ △		ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	灰	灰	外底部裏付裏 自然灰	S121
188	三区 S0201	直筒 筒	112	36	80	口4 △		ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	灰	灰		S119
189	三区 S0201	直筒 筒	130	41	83	口3 ○		ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	灰	灰	口縁部裏ね焼き模 底面部裏及ぶ外表面 倒伏有	S125
190	三区 S0201	直筒 筒	126	55	65	口4 ○ △		ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	濃灰	濃灰	内底面部裏に 倒伏有	S122
191	三区 S0201	直筒 筒	152	31	74	口5 ○ △		ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	灰白	灰白	天井部ハラ切模ナテ 内底にハラ切模ナテ	T68
192	三区 S0201	直筒 筒	147	27	74	口5 ○ △		ロクロナテ ロクロナテ	ロクロナテ ロクロナテ	ロクロナテ ロクロナテ	ロクロナテ ロクロナテ	灰	灰白	天井部ハラ切模ナテ	T70
193	三区 S0201	直筒 筒	106	(39)		口2 ○ △		ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	濃灰	濃灰	内底面部裏	F37
194	三区 S0201	直筒 筒		(58)	89	46 底1 △ △		ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	緑灰	緑灰	倒伏有	F37
195	三区 S0201	直筒 筒		(48)	81	43 底3 △ △		ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	灰	灰	倒伏有 倒伏部の結合 倒伏有 倒伏部に透かし穴有	F39
196	三区 S0201	直筒 筒		105	(38)	口2 △ △		ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	ナテ ナテ ケズリ	緑灰	緑灰	内底面部裏	F40
197	三区 S0201	直筒 筒		(29)		△								外表面樹木模様有	F38
198	三区 S0201	直筒 筒				○ △								外表面淡黄灰	F35

H15年度歓田・寺中遺跡出土遺物観察表

番号	通構	基種	法量	遺存	出土	調			整			色調		産地	備考	実測 番号		
						口径	底高	耕経	底径	厚	口縁外側	底部外側	脚部内面	脚部外側	内面	外面		
199	Ⅲ区 SD001	須恵器 瓶				○		△							灰	灰	F36	
200	Ⅲ区 SD001	須恵器 瓶	160		36	鏡12	△				ロウロナテ	ロウロナテ	ロウロナテ	ロウロナテ	灰白	灰白	外表面透光 底灰	T75
201	Ⅲ区 SD001	須恵器 瓶	102	193	114	底5	△				ロウロナテ	ロウロナテ	ロウロナテ	ロウロナテ	灰白	灰白	外表面透光 底灰	T71
202	Ⅲ区 SD001	須恵器 瓶	(71)	101	27	底6	○				ロウロナテ ロウロナテ ロウロナテ	ロウロナテ	ロウロナテ	ロウロナテ	灰	灰	外表面目模様 底灰	T73
203	Ⅲ区 SD001	須恵器 瓶	229	[110]		184	口1	○	△	ナデ	タラキ	ナデ	タラキ	ナデ	灰黄	灰白	内外陶質灰有	T74
204	Ⅲ区 SD001	須恵器 瓶	276	(75)		口1	○	△	ハケ後ナテ	ハケ後ナテ	カキメ	カキメ	カキメ	ナデ	灰白	灰白	外表面・内面口縁部 底灰	T72
205	Ⅲ区 SD001	須恵器 瓶	87	(50)	87	口3	○	△	△	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ナデ	淡赤灰 暗褐色	暗褐色	F3	
206	Ⅲ区 SD001	土器	115	[100]	130	110	口1	○	△	ナデ	ハケ	ナデ	ハケ	ナデ	桃紅褐	桃紅褐	F2	
207	Ⅲ区 SD001	土器	236	(91)		203	口1	○	△	ナデ	カキメ ハケ	ナデ	カキメ ハケ	ナデ	桃紅褐	桃紅褐	F1	
208	Ⅲ区 SD001	土器	90	(36)		口2	△	△	△	ヘラミガキ	ヘラミガキ 底灰有	ナデ	ナデ	ナデ	桃紅褐	桃紅褐	T55	
209	Ⅲ区 SD001	土器	117	(39)		口1	○	△	△	ハケ後 ハラミガキ	ハケ後 ハラミガキ	ハケ後ナテ	ハケ後ナテ	ナデ	淡黃 淡黃	淡黃	T56	
210	Ⅲ区 SD001	土器	不明	(25)		○	△	△		マメツ				ナデ	淡黃	淡黃	T53	
211	Ⅲ区 SD001	内裏 片耳	(65)		師	底2	△	○	○	ナデ ハラ カキナテ	ハラミガキ ナデ	ナデ ハラ ミガキ	ナデ ハラ ミガキ	ナデ	桃紅褐 黑	桃紅褐 黑	T63	
212	Ⅲ区 SD001	土器	107	(47)		口2	○			ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ナデ	桃紅灰 桃紅灰	桃紅灰 桃紅灰	F4	
213	Ⅲ区 SD001	土器	148	(44)		口2	△			横ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	桃紅褐	桃紅褐	T65	
214	Ⅲ区 SD001	土器	140	(53)		口4	△	△	△	横ナデ	ヘラミガキ	横ナデ	ヘラミガキ	ナデ	桃紅褐	桃紅褐	T64	
215	Ⅲ区 SD001	土器	152	(44)		口3	△			横ナデ ハラミガキ 後ナテ	ハラミガキ ナデ	横ナデ	ハラミガキ ナデ	ナデ	淡黃 淡黃	淡黃	T66	
216	Ⅲ区 SD001	土器	170	(59)		口1	○	△		横ナデ	ハラミガキ	横ナデ	ナデ	ナデ	淡黃	淡黃	T67	
217	Ⅲ区 SD001	土器	106	(52)		口1	△			ナデ	ハケ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ナデ	淡黃	黑	T61	
218	Ⅲ区 SD001	内裏 片耳	132	(55)	132	口3	△	△	△	ナデ カキナテ	ナデ カキナテ	ナデ カキナテ	ナデ カキナテ	ナデ	桃紅灰 桃紅灰	桃紅灰 桃紅灰	T58	
219	Ⅲ区 SD001	内裏 片耳	148	(50)		口2	○	△		横ナデ	ハラミガキ	横ナデ	ヘラミガキ	ナデ	桃紅褐	桃紅褐	T62	
220	Ⅲ区 SD001	内裏 片耳	158	(53)		口1	△	△		横ナデ	ナデ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ナデ	桃紅褐	桃紅褐	T60	
221	Ⅲ区 SD001	内裏 無柄	148	(45)		口2	△	△		横ナデ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ナデ	桃紅全体的に黒斑 有	桃紅全体的に黒斑 有	T59	
222	Ⅲ区 SD001	土器	(49)		86	底4	○			ハケ	ハケ	ハケ	ハラミガキ	ナデ	桃紅	桃紅	T57	
223	Ⅲ区 SD001	土器	(77)			○	△			ハケ	ハラミガキ	ハラミガキ	ハラミガキ	ナデ	赤褐色	赤褐色	T54	
224	Ⅲ区 SD001	土器	(34)		13	底12	○			ハケ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	桃紅	桃紅	T49	
225	Ⅲ区 SD001	土器	(23)		12	底5	△			ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	淡黃	淡黃	T50	
226	Ⅲ区 SD001	土器	(24)		18	底6	○	△		ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	淡黃	淡黃	T51	
227	Ⅲ区 SD001	馬蹄 瓶	78		底1									青磁胎	青磁胎	見込み型押し	Q40	
228	Ⅲ区 SD001	輪の口羽	(57)	(42)				△						淡黃	淡黃	F5		
229	Ⅲ区 SD001	土器	長69	厚44										丸径10mm 重さ120g		T48		
230	Ⅲ区 SD001	土器	長62	厚34										丸径10mm 重さ68.1g		T46		
231	Ⅲ区 SD001	土器	長62	厚34										丸径12mm 重さ150g		T47		
232	Ⅲ区 SD001	土器	長82	厚45										丸径14mm 重さ66.2g		T45		
233	Ⅲ区 SD001	土器	長63	厚41										丸径6mm 重さ63.1g		T42		
234	Ⅲ区 SD001	土器	長54	厚36										丸径6mm 重さ29.8g		T39		
235	Ⅲ区 SD001	土器	長49	厚27										丸径6mm 重さ65.3g		T44		
236	Ⅲ区 SD001	土器	長62	厚32										丸径9mm 重さ51.8g		T43		
237	Ⅲ区 SD001	土器	長56	厚33										丸径5mm 重さ26.3g		T40		
238	Ⅲ区 SD001	土器	長78	厚22										丸径6mm 重さ22.7g		HK87		
239	Ⅲ区 SD001	土器	長67	厚19										丸径4mm 重さ8.10.4g		T41		
240	Ⅲ区 SD001	土器	長48	厚17										丸径7mm 重さ12.3g 玉玉形		HK88		
241	Ⅲ区 SD001	土器	長30	厚22										厚さ19mm 穿孔有		T32		
242	Ⅲ区 SD001	土器	41	22														
243	Ⅲ区 SD001	土器	180	(186)	196	154	口11	○	△	△	脚部7条 ナデ	ハケ	ナデ	ハラミガキ ナデ	灰褐色	灰褐色	口縁部外ス付 蓋	SH15
244	Ⅲ区 SD001	土器	176	(62)		150	口7	○	△		脚部7条 ナデ	ナデ	ナデ	ケズリ	淡黃	淡黃	口縁部内面に指頭 圧痕有	SH11
245	Ⅲ区 SD001	土器	(43)		32	底6	○	△			ハケ	ケズリ	ケズリ	ケズリ	桃紅褐	桃紅褐	SH13	
246	Ⅲ区 SD001	土器	(109)		48	底12	△				ハケ後ナテ ミガキ	ハケ後ナテ ミガキ	ハラミガキ ナデ	ヘラ記号	淡黃	淡黃	内外面黒斑有	SH17
247	Ⅲ区 SD001	土器	130	(70)		118	口8	△	△	△	ナデ	ハケ	ナデ	ケズリ	灰褐色	灰褐色	SH10	
248	Ⅲ区 SD001	土器	130	(62)		92	口6	○	△	△	マメツ	マメツ	マメツ	ケズリ	淡黃	淡黃	SH12	
249	Ⅲ区 SD001	土器	90	136	122	32	口1	○	△	△	マメツ	マメツ	マメツ	マメツ	淡黃	淡黃	外面一部黒斑有	SH14

H15年度歓田・寺中遺跡出土遺物観察表

番号	通構	基盤	法量	遺存	出土	調			色調			産地	備考	実測 番号	
						口径	底径	厚	口縁外側	縁部内面	縁部内面				
249	Ⅲ区 SD222	土器 盤	106 62	10	口3 ○	○	ナデ	ハケ ケシリ	ハケ ケシリ	ハケ ケシリ	ハケ ケシリ	淡灰褐		SH16	
250	Ⅲ区 SD222	瓦器 盤	(37) 27	ツマミ △	△	△	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	灰白	灰白	天井脚力キメ	
251	Ⅲ区 SD222	陶器 盤	118 41	76	口2 △	△	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切縫 ナナヘラ 起し縫	灰	灰	E665
252	Ⅲ区 SD222	陶器 盤	118 43	85	口1 ○	△	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	縫痕	灰		HK36
253	Ⅲ区 SD222	陶器 盤	123 33	78	口2 △	△	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切縫 ナナヘラ 起し縫	灰白	灰白	E667
254	Ⅲ区 SD222	陶器 盤	(71)	脚4 △			ナデ					灰	灰	透かし穴3箇所	E679
255	Ⅲ区 SD222	土器 盤	294 (74)	口2	△	△	ナデ	カキメ	カキメ	カキメ	カキメ	淡桃黄	淡黄褐		E668
256	Ⅲ区 SD222	長 幅 厚 脚半	(64) (34) (33)		○○							淡桃灰	淡桃灰		E678
257	Ⅲ区 SD222	土器 盤	(46)	67	底1 ○	△	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	淡褐	淡褐	内外面赤彩	E669
258	Ⅲ区 SD222	土器 盤	(32)	58	底12 ○	○	ナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	淡桃黄	淡桃黄	貼り付け蓋台	E681
259	Ⅲ区 SD222	土器 盤	(25)	75	底1 ○	△	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	淡灰褐	淡灰褐		E652
260	Ⅲ区 SD222	土器 盤	(25)	46	底12 ○		ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	淡桃灰	淡桃灰		E650
261	Ⅲ区 SD222	土器 盤	86 39	38	口3 ○	△	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	糸切り底	淡桃灰	淡桃灰	E659
262	Ⅲ区 SD222	土器 盤	(20)	39	底10 △	○	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	糸切り底	褐色	褐色	E654
263	Ⅲ区 SD222	土器 盤	(32)	57	底12 △	○	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	糸切り底	淡黄褐	淡黄褐	E660
264	Ⅲ区 SD222	内裏 板	(41)	58	底12 △		ナデ	三ガキ	ナデ	ナデ	ナデ	淡黄灰	淡黄褐		E646
265	Ⅲ区 SD222	内裏 板	(16)	42	底9 △	△	ナデ	三ガキ	ナデ	ナデ	ナデ	淡桃灰	黑褐		E645
266	Ⅲ区 SD222	内裏 板	(21)	67	底4 △		ナデ	三ガキ	ナデ	ナデ	ナデ	青褐	黑褐		E647
267	Ⅲ区 SD222	土器 皿	98 18	37	口4 ○	△○	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	糸切り底	明暗桃	明暗桃	E656
268	Ⅲ区 SD222	土器 皿	86 19	46	口2 ○	△	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	糸切り底	暗桃褐	暗桃褐	E657
269	Ⅲ区 SD222	土器 皿	86 19	42	口1 ○	○	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	糸切り底	淡黄褐	淡黄褐	E653
270	Ⅲ区 SD222	土器 皿	(20)	66	底10 △	△	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	糸切り底	淡黄褐	淡桃褐	E661
271	Ⅲ区 SD222	土器 皿	(29)	56	底12 △	○	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	糸切り底	淡桃褐	淡桃褐	E655
272	Ⅲ区 SD222	土器 皿	(28)	72	底6 ○	△○	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	糸切り底	淡黄褐	淡黄褐	E662
273	Ⅲ区 SD222	土器 皿	(37)	60	底12 △							糸切り底	淡桃灰	淡桃灰	E658
274	Ⅲ区 SD222	土器 皿	(36)	64	底12 ○	○						糸切り底	淡黄褐	淡黄褐	E663
275	Ⅲ区 SD222	土器 皿	(37)	64	底2 △	△	マメツ	マメツ	マメツ	マメツ	マメツ	糸切り底	淡桃褐	淡黄褐	E664
276	Ⅲ区 SD222	土器 皿	87 21	87	口6 △	△	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	暗黄褐	暗黄褐	外外面に油漬有	E636
277	Ⅲ区 SD222	土器 皿	90 (19)	38	口2 △	△	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	淡黄褐	淡黄褐	底面に工具痕有	E639
278	Ⅲ区 SD222	土器 皿	100 29	28	口6 △	△	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	淡黄褐	淡黄褐		E638
279	Ⅲ区 SD222	土器 皿	92 13	64	口11 △	△	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	指觸江痕	淡黄褐	淡黄褐	E637
280	Ⅲ区 SD222	土器 皿	85 11	64	口6 △	○	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	指觸褐	指觸褐		E640
281	Ⅲ区 SD222	土器 皿	142 28	90	口4 ○	△	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	淡黄褐	淡黄褐	外表面に指觸江痕有	E643
282	Ⅲ区 SD222	土器 皿	142 26	74	口4 △	○	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	淡黄	淡黄		E642
283	Ⅲ区 SD222	土器 皿	142 27		口3 △		ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	工具痕	淡桃褐	淡桃褐	E644
284	Ⅲ区 SD222	瓦片 土器 板	155 (45)	口3			三ガキ	三ガキ	三ガキ			外表面に指觸江痕有			E675
285	Ⅲ区 SD222	瓦片 土器 板	161 (44)	口2								白磁褐	白磁褐	中国 他土色灰色	E618
286	Ⅲ区 SD222	瓦片 土器 板	175 (43)	口1								白磁褐	白磁褐	中国 他土色灰色	E619
287	Ⅲ区 SD222	瓦片 土器 板	159 (33)	口1								白磁褐	白磁褐	中国 他土色灰色	E613
288	Ⅲ区 SD222	瓦片 土器 板	(23)	61	底2							白磁褐	白磁褐	中国 他土色灰白色、外 面黒から斑付無	E617
289	Ⅲ区 SD222	瓦片 土器 板	(29)	60	底1							白磁褐	白磁褐	中国 他土色灰白色、外 面黒から斑付無	E616
290	Ⅲ区 SD222	瓦片 土器 板	(36)	55	底2							白磁褐	白磁褐	中国 他土色灰白色、外 面黒から斑付無	E611
291	Ⅲ区 SD222	瓦片 土器 板	152 (43)	口1								白磁褐	白磁褐	中国 他土色灰白色	E610
292	Ⅲ区 SD222	瓦片 土器 板	(17)	34	底6							白磁褐	白磁褐	中国 他土色灰白色	E612
293	Ⅲ区 SD222	瓦片 土器 板	(6)	72	底2							白磁褐	白磁褐	中国 他土色灰白色	E617
294	Ⅲ区 SD222	瓦片 土器 板	(17)	46	底10							透明褐	透明褐	中国 他土色灰白色	E616
295	Ⅲ区 SD222	瓦片 土器 板	91 (18)	口1								青磁褐	青磁褐	中国	E615
296	Ⅲ区 SD222	陶器 板	95 (23)	口1								铁物	铁物		E614

H15年度歓田・寺中遺跡出土遺物観察表

番号	通構	基盤	法量	遺存 深度 (cm)	地質 層	出土 位置 (層)	調 査			剖 面		色 調		産地	備 考	実測 番号	
							口径 底径 厚	側径 底径 厚	底径 厚	口縁外 面	側部外 面	側部内 面	底部外 面	底部内 面			
297	Ⅲ区 SD022	珠光 鉢	(36)			口1 △							灰	白灰		T36	
298	Ⅲ区 SD022	珠光 鉢	(25)			口1 ○				□クロナテ	□クロナテ	□クロナテ			灰	灰	T35
299	Ⅲ区 SD022	珠光 鉢	352 (90)			口1 △ △	△	□クロナテ	タキ	ナテ	当其痕		白灰	白灰	内部施釉有 内部施釉有	T37	
300	Ⅲ区 SD022	珠光 鉢	208 (121)	210	口4 △ △		ナテ	タキ	ナテ	ナテ						T38	
301	Ⅲ区 SD022	珠光 鉢	280 (74)			口1 △ △		□クロナテ	□クロナテ	□クロナテ	□クロナテ	□クロナテ	白灰	白灰		T32	
302	Ⅲ区 SD022	珠光 鉢	(45)			口1 ○		□クロナテ	□クロナテ	□クロナテ	□クロナテ	□クロナテ	青灰	青灰		T33	
303	Ⅲ区 SD022	珠光 鉢	278 (111)	110		口1 ○ △ △	△	□クロナテ	□クロナテ	□クロナテ	□クロナテ	□クロナテ	系切痕	灰	皮	T31	
304	Ⅲ区 SD022	珠光 鉢	300 (47)			口1 ○ △	△	□クロナテ	□クロナテ	□クロナテ	□クロナテ	□クロナテ	灰褐色	灰褐色		T34	
305	Ⅲ区 SD022	珠光 鉢	290 (107)			口2 ○ ○	○	□クロナテ	□クロナテ	□クロナテ	□クロナテ	□クロナテ	灰	灰		T29	
306	Ⅲ区 SD022	珠光 鉢	268 117	110		口1 ○ △ △	△	□クロナテ	□クロナテ	□クロナテ	□クロナテ	□クロナテ	系切痕	淡褐色	皮	T30	
307	Ⅲ区 SD022	珠光 鉢	(73)	166	底5 △								ナテ	ナテ	内外面及裏面に スヌ付量	T28	
308	Ⅲ区 SD022	繩の羽口 内径 厚	102 25													HK43	
309	Ⅲ区 SD022	繩の羽口 内径 厚	90 25													HK44	
310	Ⅲ区 SD022	有孔玉土	長32 厚30										孔径 5mm 重さ 25g			H90	
311	Ⅲ区 SD022	土錐	長41 厚36										孔径 12mm 重さ 42g			EE27	
312	Ⅲ区 SD022	土錐	長69 厚44										孔径 14mm 重さ 90g			EE22	
313	Ⅲ区 SD022	土錐	長57 厚38										孔径 13mm 重さ 60g			EE25	
314	Ⅲ区 SD022	土錐	長56 厚38										淡黄橙 塊			EE23	
315	Ⅲ区 SD022	土錐	長53 厚32										淡橙塊			EE24	
316	Ⅲ区 SD022	土錐	長52 厚13										明黃灰			EE34	
317	Ⅲ区 SD022	土錐	長47 厚14										孔径 5mm 重さ 8g			Q2	
318	Ⅲ区 SD022	土錐	長47 厚14										孔径 5mm 重さ 8g			Q1	
319	Ⅲ区 SD022	土錐	長53 厚16										孔径 6mm 重さ 8g			EE35	
320	Ⅲ区 SD022	土錐	長43 厚15										孔径 6mm 重さ 8g			EE21	
321	Ⅲ区 SD022	土錐	長49 厚18										孔径 6mm 重さ 13g			EE26	
322	Ⅲ区 SD022	土錐	長56 厚21										孔径 4mm 重さ 12g			EE33	
323	Ⅲ区 SD022	土錐	長53 厚30										孔径 9mm 重さ 33g			EE20	
324	Ⅲ区 SD022	土錐	長51 厚21										赤褐色 塊			EE32	
325	Ⅲ区 SD022	土錐	長50 厚22										孔径 8mm 重さ 23g			EE18	
326	Ⅲ区 SD022	土錐	長46 厚26										淡灰黃			EE28	
327	Ⅲ区 SD022	土錐	長41 厚23										孔径 6mm 重さ 15g			EE29	
328	Ⅲ区 SD022	土錐	長52 厚17										孔径 6mm 重さ 14g			EE30	
329	Ⅲ区 SD022	土錐	長67 厚17										孔径 5mm 重さ 15g			Q3	
330	Ⅲ区 SD022	土錐	長74 厚21										孔径 6mm 重さ 29g			EE31	
331	Ⅲ区 SD022	土錐	長72 厚17										孔径 4mm 重さ 17g			EE19	
332	Ⅲ区 SD022	土錐	長50 厚18										孔径 5mm 重さ 14g			HK89	
333	Ⅲ区 SD022	土錐	長72 厚16										赤褐色 塊			Q4	
342	Ⅱ区 SD0240	須磨面 有孔球	110 45	73	口10 ○ △ △	○	□クロナテ	□クロナテ	□クロナテ	□クロナテ	□クロナテ	□クロナテ	ヘア切痕 ナテ	青灰	須磨 鐵文字「人」	S17	
343	Ⅱ区 SD0240	須磨面 有孔球	118 34	96	口9 ○ △ △	○	□クロナテ	□クロナテ	□クロナテ	□クロナテ	□クロナテ	□クロナテ	ヘア切痕 ナテ	灰白	須磨 鐵文字「人」 須所打文	TM280	
344	Ⅱ区 SD022	須磨面 有孔球	120 36	85	口9 △ △ ○	△	□クロナテ	□クロナテ	□クロナテ	□クロナテ	□クロナテ	□クロナテ	ヘア切痕 ナテ	灰	須磨 鐵文字「人」 須所打文	TM281	
345	Ⅱ区 SD022	須磨面 裏	26 34	186	口9 ○ ○ ○ ○	○	□クロナテ	□クロナテ	□クロナテ	□クロナテ	□クロナテ	□クロナテ	天井入ラ ケズ	灰	須磨 鐵文字「人」	TM35	
346	Ⅱ区 SD0240	須磨面 無孔球	160 24	130	口7 △ △ ○	△	□クロナテ	□クロナテ	□クロナテ	□クロナテ	□クロナテ	□クロナテ	ヘア切痕 ナテ	灰	須磨 鐵文字「人」 1箇所打文	TM216	
347	Ⅱ区 SD0240	須磨面 無孔球	25 23	132	口8 △ ○ ○	○	□クロナテ	□クロナテ	□クロナテ	□クロナテ	□クロナテ	□クロナテ	天井入ラ ケズ	灰	須磨 鐵文字「人」	E28	
348	Ⅱ区 SD0303	須磨面 裏	22 20	130	口7 ○ ○ ○ ○	○	□クロナテ	□クロナテ	□クロナテ	□クロナテ	□クロナテ	□クロナテ	ナテ	灰	須磨 鐵文字「人」	E30	
349	Ⅱ区 SD0240	須磨面 無孔球	119 29	76	口7 △ ○ △ ○	△	□クロナテ	□クロナテ	□クロナテ	□クロナテ	□クロナテ	□クロナテ	ヘア切痕 ナテ	灰	須磨 鐵文字「人」	TM63	
350	Ⅱ区 SD0240	須磨面 無孔球	124 33	96	口9 ○ ○ △ ○	○	□クロナテ	□クロナテ	□クロナテ	□クロナテ	□クロナテ	□クロナテ	ナテ	須磨 鐵文字「人」 打心	FJ10		
351	Ⅱ区 SD0240	須磨面 無孔球	115 34	76	口7 ○ △	△	□クロナテ	□クロナテ	□クロナテ	□クロナテ	□クロナテ	□クロナテ	ヘア切痕 ナテ	須磨 鐵文字「人」	TM39		
352	Ⅱ区 SD0240	須磨面 無孔球	116 39	80	口10 ○ ○ ○ ○	○	□クロナテ	□クロナテ	□クロナテ	□クロナテ	□クロナテ	□クロナテ	ヘア切痕 ナテ	須磨 鐵文字「人」	TM40		
353	Ⅱ区 SD0240	須磨面 無孔球	(19)	80	△ ○ △ △	△	□クロナテ	□クロナテ	□クロナテ	□クロナテ	□クロナテ	□クロナテ	ヘア切痕 ナテ	須磨 鐵文字「人」	TM44		
354	Ⅱ区 SD0240	須磨面 無孔球	128 34	80	口10 ○ ○ ○ ○	○	□クロナテ	□クロナテ	□クロナテ	□クロナテ	□クロナテ	□クロナテ	ナテ	須磨 鐵文字「人」	TM45		

H15年度歓田・寺中遺跡出土遺物観察表

番号	通構	基盤	法量				遺存 深度 cm	出土 深度 cm	剖面	裏面	裏部外側 裏部内側	裏部内側	裏部外側	色調	産地	備考	実測 番号		
			口径 高さ mm	幅 深さ mm	厚さ mm	径 幅 厚さ mm													
355	Ⅱ区 S0240	直筒 無台形	129	28	96		口8	○	○	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	深灰	高松	徳文字「人」	TM41	
356	Ⅱ区 S0240	直筒 無台形	128	32	80		口2	△	△	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	深灰	深灰	末 徳文字「人」	TM54	
357	Ⅱ区 S0240	直筒 無台形	116	39	80	口10	○	○	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	深灰	高松	徳文字「人」	TM46		
358	Ⅱ区 S0240	直筒 無台形	129	39	82	口7	○	△	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	深灰	深灰	末 徳文字「人」	TM42		
359	Ⅱ区 S0240	直筒 無台形	122	34	86	口5	○	○	△	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	深灰	高松	徳文字「人」	TM50	
360	Ⅱ区 S0240	直筒 無台形	111	32	78	口7	○	△	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	淡白灰	高松	徳文字「人」	TM38		
361	Ⅱ区 S0240	直筒 無台形	129	39	90	口7	○	△	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	深灰	深灰	末 徳文字「人」 打心 1箇所打火	TM62		
362	Ⅱ区 S0240	直筒 無台形	126	32	90	口6	○	○	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	深灰	深灰	末 徳文字「人」 1箇所打火	TM51		
363	Ⅱ区 S0240	直筒 無台形	130	34	94	口7	○	○	△	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	深灰	高松	徳文字「人」	TM43	
364	Ⅱ区 S0240	直筒 無台形	118	34	80	口3	△	△	△	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	深灰	高松	徳文字「人」	TM47	
365	Ⅱ区 S0240	直筒 有台形	129	37	88	口7	○	○	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	暗緑	暗緑	末 徳文字「人」	E22		
366	Ⅱ区 S0240	直筒 有台形	118	48	76	口10	○	△	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	灰	高松	徳文字「人」	S19		
367	Ⅱ区 S0240	直筒 有台形	116	40	74	口5	△	○	○	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	反	高松	徳文字「人」	S26	
368	Ⅱ区 S0240	直筒 有台形	109	42	68	口12	○	△	○	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	淡白	暗自	徳文字「人」	TM215	
369	Ⅱ区 P20	直筒 有台形	122	46	76	口8	○	△	○	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	深灰	深灰	徳文字「大」	TM32	
370	Ⅱ区 S0303	直筒 無台形	112	37	80	口2	○	△	○	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	灰	高松	唐書「井」	FJ2	
371	Ⅱ区 S0303	直筒 有台形	108	49	49	口3	○	○	○	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	灰	高松	唐書「井」	FJ1	
372	Ⅰ区 S0303	直筒 無台形	120	40	85	口9	○	△	○	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	白灰	白灰	唐書「工」 1箇所打火	TM01	
373	Ⅱ区 S0240	直筒 無台形	129	34	92	○	○	○	○	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	灰	高松	唐書「工」	S3	
374	Ⅱ区 S0240	直筒 有台形	114	45	72	口1	△	○	○	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	深灰	高松	徳文字「工」	S27	
375	Ⅱ区 S0303	直筒 無台形	112	38	82	○	○	○	○	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	灰	高松	唐書「文」	S6	
376	Ⅱ区 S0303	直筒 無台形	122	35	84	○	○	○	○	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	深灰	深灰	末 唐書「文」	S5	
377	Ⅱ区 S0303	直筒 無台形	163	20	130	○	○	○	○	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	反場	灰褐	— 唐書「文」	S7	
378	Ⅱ区 S0240	直筒 無台形	128	35	88	○	○	○	○	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	深灰	高松	唐書「世」	S15	
379	Ⅱ区 S0240	直筒 無台形	118	34	82	○	○	△	○	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	灰	高松	唐書「井」	S12	
380	Ⅱ区 S0240	直筒 無台形	118	30	86	○	○	○	○	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	灰	高松	唐書「井」	S14	
381	Ⅱ区 S0240	直筒 有台形	108	37	70	口2	△	△	△	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	深灰	深灰	唐書「世」	TM03	
382	Ⅱ区 S0240	直筒 有台形	126	31	95	口5	○	○	○	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	灰	高松	唐書「井」	OH47	
383	Ⅱ区 S0240	直筒 無台形	123	39	84	口7	○	△	○	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	深灰	深灰	唐書「(不明)」	FJ8	
384	Ⅱ区 S0240	直筒 有台形	108	40	74	口3	△	△	△	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	灰	高松	唐書「津」	FJ9	
385	Ⅱ区 S0240	直筒 有台形	153	65	105	口7	○	○	○	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	灰	高松	唐書「津」	E14	
386	Ⅳ区 大河跡	直筒 無台形	(15)	123	△	△	△	△	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ラ切後 ナジ	深灰	— 唐書「津」	OH9		
387	Ⅱ区 S0240	直筒 無台形	27	39	176	口6	△	△	△	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	深灰	深灰	— 唐書「平」	E7	
388	Ⅱ区 S0240	直筒 無台形	130	32	90	口4	△	○	○	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	灰	高松	唐書「平」	E2	
389	Ⅱ区 S0240	直筒 無台形	128	35	95	口6	○	△	○	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	灰白	灰白	唐書「平」	TM014	
390	Ⅱ区 S0244	直筒 無台形	118	32	92	口1	△	△	○	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ナジ	深灰	唐書「平」	TM37	
391	Ⅱ区 S0240	直筒 無台形	118	33	92	口12	○	○	○	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	深灰	深灰	末 唐書「平」 打心油 盛全周	E5	
392	Ⅱ区 S0240	直筒 無台形	124	32	84	口11	△	○	○	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ナジ	深灰	唐書「平」	E3	
393	Ⅱ区 S0240	直筒 無台形	124	32	84	口11	△	○	○	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ナジ	深灰	唐書「平」 内外面 黒墨	E1	
394	Ⅱ区 S0244	直筒 無台形	41	47	192	口2	○	○	○	ロクロナテ	天井ハラ カスリ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	皮	皮	唐書「五戸」	TM36	
395	Ⅱ区 S0244	直筒 無台形	45	47		○	○	○	○	ロクロナテ	天井ハラ カスリ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	唯反縫	唯反縫	唐書「五戸」	E63	
396	Ⅱ区 S0244	直筒 無台形	114	47	91	口11	○	△	○	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ヘラ切後 ナジ	繩	唐書「(未定)」	TM218	
397	Ⅱ区 S0240	直筒 無台形	122	32	84	△	△	○	○	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ヘラ切後 ナジ	皮	高松	唐書「大刀身」	E8
398	Ⅱ区 S0240	直筒 無台形	96	○	△	○	○	○	○	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ナジ	皮	唐書「大刀女」	FJ15	
399	Ⅱ区 S0240	直筒 無台形	117	35	78	口8	○	○	○	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ヘラ切後 ナジ	皮	高松	唐書「(古ノ)秋女」	OH1
400	Ⅱ区 S0303	直筒 無台形	124	36	86	○	○	○	○	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ヘラ切後 ナジ	皮	高松	唐書「(古ノ)人」	S9
401	Ⅱ区 S0240	直筒 無台形	116	38	84	○	○	△	○	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ナジ	皮	高松	唐書「(古ノ)人」	S10

H15年度歓田・寺中遺跡出土遺物観察表

番号	構構	基盤	法量			遺存	出土	調査			色調		産地	備考	実測 番号			
			□径	高さ	側径	底径	厚さ	口径	高さ	側面	底部外側	底部内側	側面内側	底部外側	外面	内面		
402	Ⅲ区 SD201	陶器 有合环	128	31	102	口 3	△	○ ○	○ ○	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ヘーフェン ナゲル	淡褐色	淡褐色	東京 丹心作	OH13
403	I 区 SD220	陶器 無合环		90		○ ○	○ ○	○ ○	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ヘーフェン ナゲル	淡灰	淡灰	東京 「徳」	TM04	
404	Ⅲ区 SD201	陶器 無合环	/31	90		○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ヘーフェン ナゲル	灰	灰	高松 「徳」	OH11	
405	Ⅱ区 SD240	陶器 有合环	106	42	76	口 9	△ △ △	○ ○ ○	○ ○ ○	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ヘーフェン ナゲル 紀元前 紀元後	灰	灰	高松 「人」 火事くれ	S20
406	Ⅲ区 SD201	陶器 有合环	102	36	78	口 9	○ ○	○ ○	○ ○	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ヘーフェン ナゲル	灰	灰	末 墨書「大」	OH10
407	Ⅲ区 SD201	陶器 有合环	134	35	100	口 10	△ △	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ヘーフェン ナゲル	灰	灰	高松 「中」 「正」 「正」 「正」	OH5
408	Ⅱ区 SD240	陶器 無合环	125	36	94	口 11	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ヘーフェン ナゲル	淡灰	淡灰	高松 「女」 「星形打火」	TM48
409	Ⅱ区 SD240	陶器 有合环	129	33	94	口 3	△ △ △	△ △ △	○ ○ ○ ○ ○	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ヘーフェン ナゲル	淡灰	淡灰	墨書「公」	FJ5
410	Ⅲ区 SD201	陶器 有合环	141	35	105	口 6	○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ヘーフェン ナゲル	灰	灰	東加賀 「末」	CH14
411	Ⅱ区 SD240	陶器 有合环	113	34	86	口 10	△ △ △	△ △ △	○ ○ ○ ○ ○	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ヘーフェン ナゲル	暗灰	暗灰	墨書「不明」 「星形打火」	FJ15
412	Ⅱ区 SD240	陶器 無合环			84	○ ○	△ △	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ヘーフェン ナゲル	灰	灰	墨書「(不明)」	FJ32
413	Ⅲ区 SD201	陶器 有合环	(23)	65		○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ヘーフェン ナゲル	灰	灰	一 墨書「□」	OH12
414	Ⅲ区 SD201	陶器 有合环	148	37	109	口 5	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ ナゲル	灰	灰	東加賀 「□」	OH 6
415	Ⅲ区 SD201	陶器 無合环	(34)	90		○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ ナゲル	灰	灰	末 墨書「□」	OH13	
416	Ⅲ区 SD201	陶器 有合环	128	36	84	口 3	△ △	△ △	ナ ナ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ヘーフェン ナゲル	白	白	口縁部裏面後き痕 底部外側裏面有	SH30
417	Ⅲ区 SD201	陶器 有合环	118	36	85	口 12	△ △ △	△ △ △	○ ○ ○ ○ ○	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ヘーフェン ナゲル	灰	灰	高松 「不明」	OH 8
418	Ⅱ区 SD240	陶器 無合环	143	34	110	口 12	△ △ △	△ △ △	○ ○ ○ ○ ○	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ ナゲル	暗灰	暗灰	墨書「(不明)」	FJ16
419	Ⅱ区 SD201	陶器 有合环	130	35	90	口 7	○ ○	△ △	○ ○ ○ ○ ○	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ヘーフェン ナゲル	灰	灰	高岡 「星形打火」	E197
420	Ⅱ区 SD240	陶器 無合环	27	24	126	口 12	△	○ ○ ○ ○ ○	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ヘーフェン ナゲル	灰	灰	墨書「(不明)」	TM217	
421	Ⅲ区 SD201	陶器 無合环	160	30	732	口 5	△	○ ○ ○ ○ ○	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ロクロナテ	ヘーフェン ナゲル	白	白	天保部へ一切切才 字墨書「(不明)」	T69	

H15年度歓田・寺中遺跡出土石製品観察表

番号	遺構	色調	法量(mm)			重星	名稱	備考	実測 番号
			a	b	c				
581	Ⅲ区 SD201	陶器 有合环	68	48	41	165	砾石	東賀美山岩	SH19
582	Ⅲ区 SD208	白磚	50	40	40	100	砾石	淡絞紋	HK11
583	Ⅲ区 SD211	陶器 有合环	92	60	27	250	砾石	砂岩	HK18
584	Ⅲ区 SD205	黒磚	14	8	8	1	瓦片	波瀬瓦片	T21
585	Ⅲ区 SD226	陶器 有合环	70	67	40	33	砾石	輕石	TH4
586	Ⅲ区 SD201	磚	93	45	25	175	石碑	はんれい岩	N61
587	Ⅲ区 SD201	陶器 無合环	80	86	33	330	磨石	玄武岩	N64
588	Ⅲ区 SD201	陶器 無合环	90	59	35	260	砾石	玄武岩	N63
589	Ⅲ区 SD201	陶器 無合环	88	34	33	150	砾石	ひんじゆ 石粉に軽用	N70
590	Ⅲ区 SD201	磚	100	100	50	920	砾石	輝石安山岩	N67
591	Ⅲ区 SD201	陶器 無合环	74	38	24	130	砂岩	輝石安山岩	N62
592	Ⅲ区 SD201	陶器 無合环	190	70	51	1050	砾石	石粉に軽用	N68
593	Ⅲ区 SD201	陶器 無合环	193	74	48	1800	すり石か 凝灰岩	N69	
594	Ⅲ区 SD201	陶器 無合环	93	62	42	390	砾石	凝灰岩	N66
595	Ⅲ区 SD201	陶器 無合环	75	49	31	120	石粉	絞紋岩	N72
596	Ⅲ区 SD201	陶器 無合环	136	90	30	550	打製石斧	ダイサイト 打製凝灰岩	N73
597	Ⅲ区 SD201	陶器 無合环	83	58	24	240	砂岩	凝灰岩 に軽用	N65
598	Ⅲ区 SD201	陶器 無合环	87	78	50	510	石縫	凝灰岩	N71
599	Ⅲ区 SD201	陶器 無合环	56	35	16	22	結節草	砾石	Q110
600	Ⅲ区 SD222	陶器 無合环	59	17	20	23	輪輪か	東賀美凝灰岩	EE71
601	Ⅲ区 SD222	陶器 無合环	67	54	21	74	不明	東賀美凝灰岩	EE72
602	Ⅲ区 SD222	陶器 無合环	84	63	56	400	砾石	砂岩	HK34
603	Ⅲ区 SD222	皮	127	59	39	355	砾石	ひん岩	HK32
604	Ⅲ区 SD222	磚	145	135	27	900	台石か	ダイサイト 片面 火を受ける跡有	HK35
605	Ⅲ区 SD222	皮	76	69	29	280	砾石	砂岩	HK30
606	Ⅲ区 SD222	陶器 無合环	54	52	26	80	砾石	淡絞紋	HK31

H15年度歴田・寺中遺跡出土木製品觀察表

番号	遺構	製品	法量 (mm)			名称	備考	直面番号	番号	遺構	製品	法量 (mm)			名称	備考	直面番号	
			a	b	c							a	b	c				
422	Ⅲ区 SE203	板材	口304	底327	高367	棒	井戸枠を支える材節[一 尾]厚 8.42mm F69は 底枠か	F68		465	Ⅲ区 SE201	棒材	(140)	10	7	棒状	端部尖らせである 焦げ跡有	SH68
423	Ⅲ区 SE203	板材	254	237	10	棒板状	井戸枠を支える材節[二 尾]F66の底枠	F69		466	Ⅲ区 SE208	板材	(327)	23	10	板状		HK24
424	Ⅲ区 SE203	板材	(726)	140	19	板状	井戸枠を支える材節[二 尾]F66の底枠	EE110		467	Ⅲ区 SE208	板材	(239)	22	10	板状	H64と同じものか	HK25
425	Ⅲ区 SE203	板材	(770)	124	20	板状	井戸枠を支える材節[二 尾]F66の底枠	EE109		468	Ⅲ区 SE208	板材	471	26	12	板状		HK21
426	Ⅲ区 SE203	板材	(980)	146	14	板状	井戸枠を支える材節[二 尾]F66の底枠	EE111		469	Ⅲ区 SE208	板材	(670)	180	25	井戸枠の 一部か	F75	
427	Ⅲ区 SE203	板材	(930)	201	19	板状	井戸枠を支える材節[二 尾]F66の底枠	EE108		470	Ⅲ区 SE208	板材	(76)	(57)	14	板状	容器の一部か	HK23
428	Ⅲ区 SE203	板材	底718 (179) 厚59			井戸枠		EE112		471	Ⅲ区 SE208	板材	(512)	71	36	部材	端部から中央に重ね 有	HK20
429	Ⅲ区 SE203	板材	643	275	18	棒底枠か	井戸枠を支える材節	HK73		472	Ⅲ区 SE208	板材	(170)	23	17	棒状		HK22
430	Ⅲ区 SE203	板材	(250)	67	23	板状	井戸枠を支える材節	SH64		473	Ⅲ区 SE208	板材	(105)	14	6	棒状	EE129と同じものか	EE128
431	Ⅲ区 SE203	板材	(248)	59	17	板状	井戸枠を支える材節	SH65		474	Ⅲ区 SE208	板材	(191)	17	11	棒状		EE130
432	Ⅲ区 SE203	棒材	(319)	9	8	棒状		SH67		475	Ⅲ区 SE208	板材	(127)	12	8	棒状	EE128と同じものか	EE129
433	Ⅲ区 SE203	棒材	(66)	7	5	棒状		SH68		476	Ⅲ区 SE204		160	128	12	角形		EE138
434	Ⅲ区 SE203	棒材	(1174)	75	39	棒状	井戸枠を支える材節	T114		477	Ⅲ区 SD201		78	27	20	角形か		EE124
435	Ⅲ区 SE203	棒材	(1376)	81	71	棒状	井戸枠を支える材節	T115		478	Ⅲ区 SD201		(255)	43	27	角形か		HK29
436	Ⅲ区 SE203	棒材	(1903)	58	32	棒状	井戸枠を支える材節	HK75		479	Ⅲ区 SD201	板材	164	23	6	卒打垂	両端部加工 要裏[二]	EE131
437	Ⅲ区 SE203	棒材	(776)	85	5	棒状	井戸枠を支える材節	SH67		480	Ⅲ区 SD201	板材	174	14	3	板状	両端部加工	EE135
438	Ⅲ区 SE203	棒材	(1620)	75	70	棒状	井戸枠を支える材節	HK74		481	Ⅲ区 SD201	板材	(71)	25	3	板状	孔径6mm	EE136
439	Ⅲ区 SE204	柱材	(715)	263	272	柱桿か		HK72		482	Ⅲ区 SD201	棒材	(190)	6	3	著か		SH65
440	Ⅲ区 SE206	棒材	(453)	24	12	棒状	両端加工有	T102		483	Ⅲ区 SD201	棒材	414	18	13	著か	端部尖らせである	SH61
441	Ⅲ区 SE206	板材	91	(24)	16	棒状	端部加工か	SH98		484	Ⅲ区 SD201	板材	141	138	3	曲面垂 少無理	木釘穴4箇所残存	EE133
442	Ⅲ区 SE206	板材	(101)	23	9	板状		SH99		485	Ⅲ区 SD201	板材	184	170	9	曲面垂 少無理	木釘穴3箇所残存	EE137
443	Ⅲ区 SE206	板材	(151)	66	7	板状		T110		486	Ⅲ区 SD201	板材	240	70	9	棒等の裏	直徑28mm	EE127
444	Ⅲ区 SE206	板材	(125)	59	9	板状	収具か	EE126		487	Ⅲ区 SD201	板材	270	25	7	板状		EE119
445	Ⅲ区 SE206	板材	(103)	31	7	板状		T113		488	Ⅲ区 SD201	板材	271	42	5	板状		T131
446	Ⅲ区 SE206	板材	(174)	20	7	板状	端部加工有	T108		489	Ⅲ区 SD201	板材	(185)	28	5	板状		SH56
447	Ⅲ区 SE206	板材	(114)	27	8	板状	穴2カ所有	T111		490	Ⅲ区 SD201	板材	(476)	27	6	板状		SH52
448	Ⅲ区 SE206	板材	(623)	79	22	板状		T109		491	Ⅲ区 SD201	棒材	(445)	23	17	棒状		SH63
449	Ⅲ区 SE206	板材	(610)	125	29	板状		T107		492	Ⅲ区 SD201	棒材	(325)	200	13	棒状		SH67
450	Ⅲ区 SE206	板材	(321)	273	31	井戸枠	井戸枠留置[2]所 中留置3所	T100		493	Ⅲ区 SD201	棒材	(368)	35	23	棒状	端部に直徑4mm穴1 カ所有	SH58
451	Ⅲ区 SE206	板材	(1149)	274	34	井戸枠	井戸枠留置[2]所 中留置5所	T101		494	Ⅲ区 SD201	棒材	(113)	8	9	棒状	直徑4mm 穴2カ所有	SH64
452	Ⅲ区 SE206	板材	(1057)	275	28	井戸枠	井戸枠留置[3]所 中留置4所	T103		495	Ⅲ区 SD201	板材	(81)	13	3	不明	直徑2mm 穴1カ所有	SH62
453	Ⅲ区 SE206	板材	(1069)	280	27	井戸枠	井戸枠留置[5]所 中留置2所	T104		496	Ⅲ区 SD201	板材	(83)	37	8	板状	穴1カ所有	EE123
454	Ⅲ区 SE206	板材	(991)	128	28	井戸枠	井戸枠留置[2]所	T105		497	Ⅲ区 SD201	板材	(188)	122	93	杭か	端部を尖らせてある	SH102
455	Ⅲ区 SE206	板材	(1017)	114	27	井戸枠	井戸枠留置[2]所	T106		498	Ⅲ区 SD201	棒材	94	27	19	不明	両端部加工有	T120
456	Ⅲ区 SE206	板材	(660)	99	19	板状	下井戸枠	F62		499	Ⅲ区 SD201	板材	(172)	45	37	棒状		SH110
457	Ⅲ区 SE206	板材	(618)	197	36	板状	下井戸枠 穴1カ所有	F61		500	Ⅲ区 SD201	板材	(141)	55	52	杭	端部を尖らせてある	EE125
458	Ⅲ区 SE206	板材	(645)	182	31	板状	下井戸枠 穴2カ所有あるが、 1カ所は直穴	F63		501	Ⅲ区 SD201	棒材	(791)	45	不明	端部・体部に加工痕 あり	SH51	
459	Ⅲ区 SE206	板材	(602)	196	41	井戸枠	下井戸枠	F66		502	Ⅲ区 SD201	棒材	(394)	63	50	杭	端部を尖らせてある	SH108
460	Ⅲ区 SE206	板材	(516)	153	20	井戸枠	下井戸枠	F67		503	Ⅲ区 SD201	棒材	(316)	71	67	杭	端部を尖らせてある	T132
461	Ⅲ区 SE206	板材	(817)	447	29	井戸枠	下井戸枠	F60		504	Ⅲ区 SD201	板材	(99)	84	15	板状		HH60
462	Ⅲ区 SE206	板材	(804)	86	21	井戸枠	下井戸枠	F65		505	Ⅲ区 SD222	板	□220	196	16	木面		EE139
463	Ⅲ区 SE206	板材	(859)	72	23	井戸枠	下井戸枠	F64		506	Ⅲ区 SD222	梅	□160	174	245mm	漆器柄	内外面黒漆	T122
464	Ⅲ区 SE201	棒材	(456)	18	14	棒状	端部尖らせてある。	SH63		507	Ⅲ区 SD222	杆	□93			漆器柄	内外面黒漆	F74
										508	Ⅲ区 SD222	杆	□144	180	94mm	漆器皿	内外面黒漆に赤漆で 模様	F76
										509	Ⅲ区 SD222	板材	(165)	16	6	曲物か	2枚重なっている	SH68
										510	Ⅲ区 SD222	板材	63	168	7	箱か	直穴6カ所有 うち1カ所は木釘孔残存	HK45
										511	Ⅲ区 SD222	棒材	(237)	7	5	著か	焦げ跡有	HK70
										512	Ⅲ区 SD222	棒材	238	6	5	著		SH81
										513	Ⅲ区 SD222	板材	(211)	8	6	著か		HK71

H15年度歓田・寺中遺跡出土木製品観察表

番号	遺構	製品	法量 (mm)			名称	備考	直角 番号
			a	b	c			
514	直区 SD222	棒材	(149)	5	5	箸	SH77	
515	直区 SD222	棒材	(163)	6	5	箸	SH74	
516	直区 SD222	棒材	(135)	5	4	箸	SH89	
517	直区 SD222	棒材	(109)	6	5	箸	SH75	
518	直区 SD222	棒材	(105)	5	3	箸	HK47	
519	直区 SD222	棒材	(90)	4	3	箸	HK48	
520	直区 SD222	棒材	(108)	5	3	箸	SH76	
521	直区 SD222	板材	幅330	7	楕の底 板か裏		HK76	
522	直区 SD222	板材	145	(29)	4	楕の底 板か裏	HK86	
523	直区 SD222	板材	246	23	5	不明	加工痕有	SH100
524	直区 SD222	下駄	236	(55)	35	下駄(右 足用)	轟縫の穴径11mm ^{±2} 所附在遺直下駄	HK77
525	直区 SD222	串	52	46		串	孔径22mm 黒漆	EE140
526	直区 SD222	板材	116	22	8	刀子の柄	穴10mm が算出し、うち1ヵ所 に木釘残有 刀子の 茎部分縫(長60mm 幅9mm)が内側に残有	EE115
527	直区 SD222	板材	(117)	24	13	舟形か	穴2ヵ所有	F71
528	直区 SD222	板材	200	24	6	板部	端部に加工あり	F70
529	直区 SD222	板材	191	17	8	棒材	両端部加工有	EE114
530	直区 SD222	板材	151	26	5	不明	両側面に切込有 穴2ヵ所有	SH49
531	直区 SD222	板材	(225)	18	5	板状	端部尖させてある	SH80
532	直区 SD222	板材	(186)	11	4	木札か	端部尖させてある	EE132
533	直区 SD222	棒材	(212)	17	5.5	板状	端部を細く加工	EE122
534	直区 SD222	板材	(205)	17	5	不明	端部を尖させてある 刀子形か?	SH93
535	直区 SD222	棒材	(152)	11	2	不明		SH73
536	直区 SD222	板材	(148)	23	6	板状	端部を尖させてある	SH103
537	直区 SD222	板材	(148)	11	4	木札か	端部を尖させてある	EE134
538	直区 SD222	板材	(147)	25	10	板状	端部を尖させてある	HK53
539	直区 SD222	棒材	(135)	20	7	棒状		HK53
540	直区 SD222	板材	(107)	20	8	板状		HK68
541	直区 SD222	板材	134	25	4	板状	両端部加工痕	SH79
542	直区 SD222	板材	121	9	4	板状	両端部を細く加工	F72
543	直区 SD222	棒材	(339)	35	8.0	板状		SH105
544	直区 SD222	板材	(364)	21	4	板状	一部加工有	SH106
545	直区 SD222	板材	(87)	25	4	板状		F73
546	直区 SD222	板材	(136)	30	6	板状		SH91
547	直区 SD222	板材	(516)	35	8	板状	板8	T116
548	直区 SD222	板材	(252)	14	3	板状		HK50
549	直区 SD222	板材	(223)	17	5	板状		HK51
550	直区 SD222	板材	207	18	6	板状		HK56
551	直区 SD222	板材	207	26	5	板状		HK49
552	直区 SD222	板材	(79)	39	7	横側板		HK59
553	直区 SD222	板材	(56)	30	9	板状		EE118
554	直区 SD222	板材	(89)	21	6	板状	端部加工痕	SH72
555	直区 SD222	板材	(78)	14	2	板状		HK54
556	直区 SD222	板材	(106)	19	5	板状		SH85
557	直区 SD222	板材	347	(57)	3	折敷か	釘穴4ヵ所有	HK46
558	直区 SD222	板材	480	50	10	板状	釘穴3ヵ所有 うち 1ヵ所に木釘残存	SH69
559	直区 SD222	板材	228	23	8	板状	端部を削り位置事に 2ヵ所に釘穴2ヵ所 有 内2ヵ所に木釘 残存	SH70



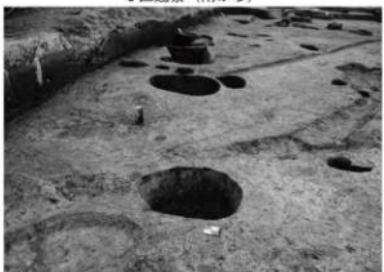
3区遠景（南西から）



3区遠景（南から）



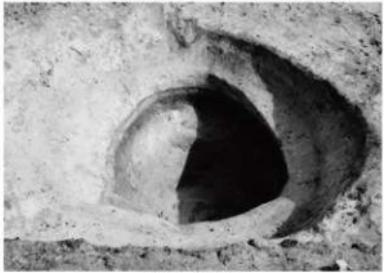
3区 SD222（南から）



3区 SA512（手前から P211—P212a-SK223）



3区 ST201



3区 SE201



3区 SE202



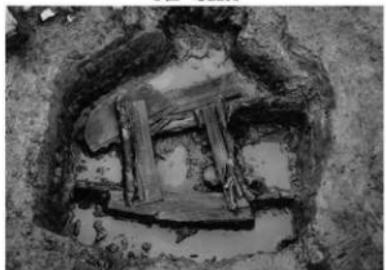
3区 SE203遠景（北から）



3区 SE203



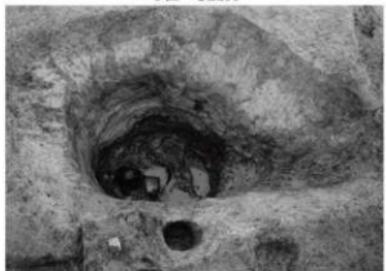
3区 SE203



3区 SE203



3区 SE205



3区 SE208



3区 SK206



3区 SK208



3区 SK208出土土器



3区 SK211



3区 P202



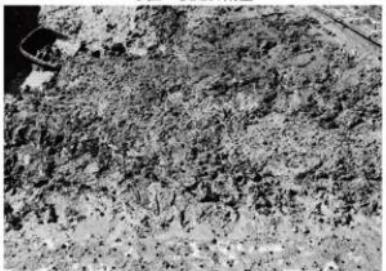
3区 SX211



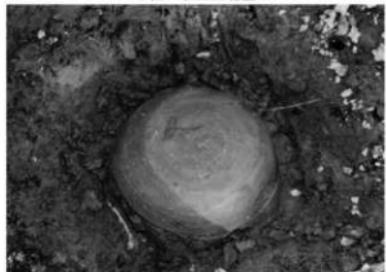
3区 SD201南壁



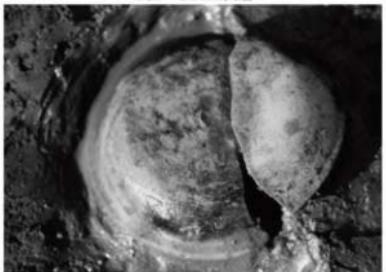
3区 SD222北壁



3区 SD222具層



SD201出土墨書き器袋文字「人」



SD201出土墨書き器「中」



SD201出土墨書き土器「工」



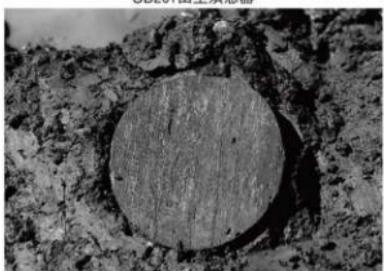
SD201出土墨書き土器「匁」



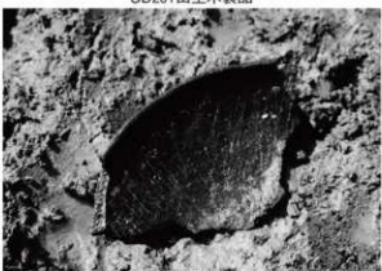
SD201出土須恵器



SD201出土木製品



SD201出土木製品



SD201出土木製品



SD201出土木製品



SD222出土木製品



SD222出土木製品



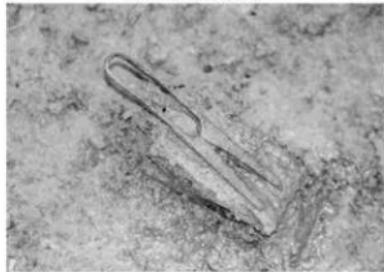
SD222出土木製品



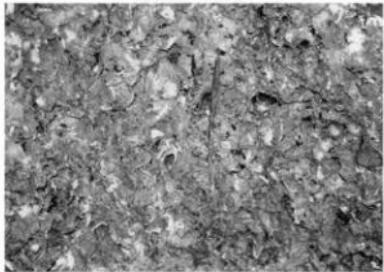
SD222出土柄付刀子



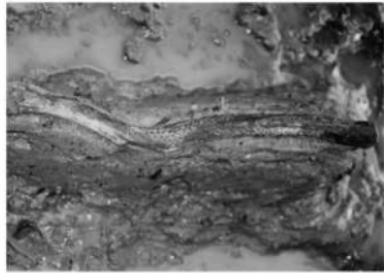
SD222出土刀子



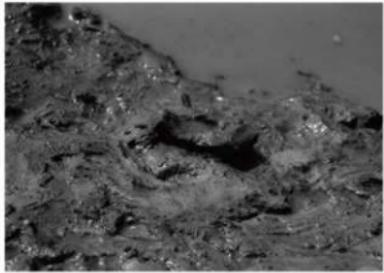
SD222出土握り鉄



SD222出土火箸

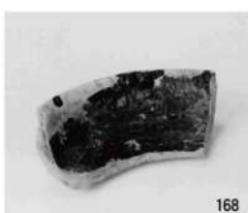
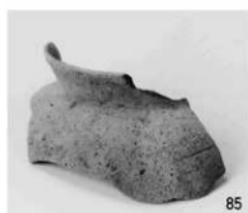


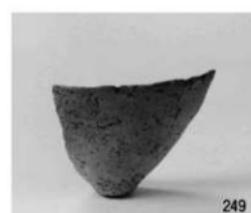
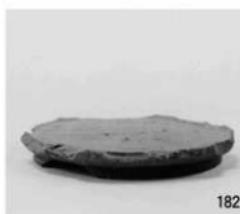
SD222出土鹿角

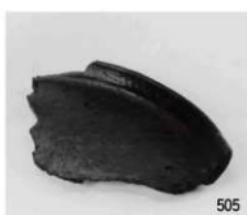
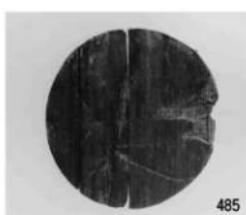
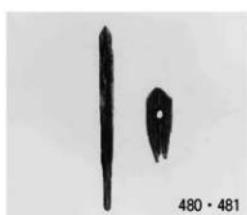


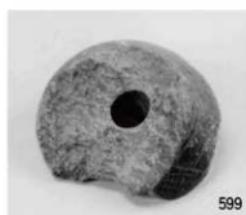
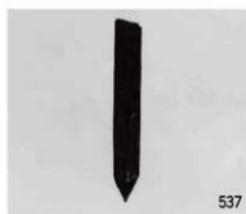
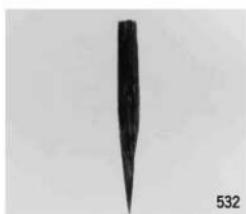
SD222出土石製品











報告書抄録

ふりがな 書名	いしかわけん かなざわし うねだ・じちゅういせきⅦ 石川県 金沢市 獣田・寺中遺跡Ⅶ							
副書名	-木曳野遺跡群V-							
シリーズ名	金沢市文化財紀要							
シリーズ番号	279							
編集者氏名	新出敬子							
編集機関	金沢市（金沢市埋蔵文化財センター）							
所在地	〒920-0374 金沢市上安原南60番 TEL (076) 269-2451							
発行年月日	平成24（2012）年3月30日							
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因	
獣田・寺中 遺跡群V	石川県 金沢市 寺中町、 獣田西4丁目	172014	県01499 市029	36° 36° 33°	136° 42° 33°	20020715～ 20020920 20030602～ 20031128 20040502～ 20041029	約13,760m ²	区画整理
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構			主な遺物	特記事項	
獣田・寺中 遺跡	集落跡	織文・弥生・古墳・ 奈良・平安・鎌倉・ 室町				土師器 須恵器 陶磁器 木製品 石製品	古代河跡か ら墨書き土器 が多数出土 した	
要約	木曳野遺跡群Ⅶで報告した、古代河跡から出土した墨書き土器の続きと3区の報告を行った。3区は主に古代の河跡の続きを中世の溝を中心で、その他、河以外では3区以西に広がると考えられる集落の外れと思われる遺構が見つかっている。							

